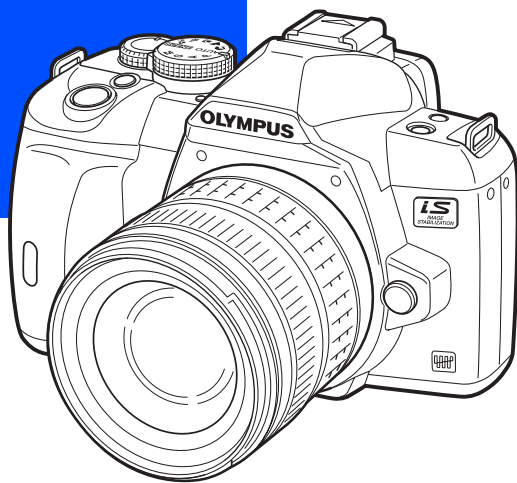
OLYMPUS®

デジタルカメラ

E-520

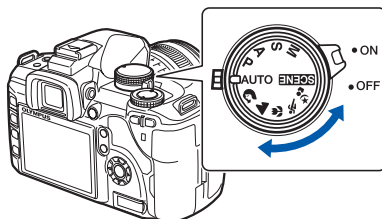
取扱説明書

- 製品をご使用になる前に、本書の「安全にお使いいただくために」を良くお読みください。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。
- この取扱説明書は、カメラのファームウェアVer1.0にもとづいて記載されています。カメラのファームアップにより機能の追加・変更があった場合、記載内容が異なります。最新情報は当社ホームページをご確認ください。

カメラ

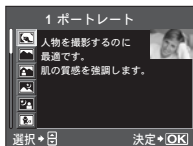
モードダイヤル
☞P.4
パワースイッチ
☞P.14
コントロールダイヤル
（ ）☞P.19、27
（露出補正）ボタン
☞P.53
シャッターボタン
☞P.16、32
ストラップ
取り付け部
☞P.10
セルフタイマー／リモコン
ランプ／リモコン受信センサー
☞P.64、65
レンズ合わせマーク
☞P.12
マウント
（ボディキャップを外してからレンズを
取り付けます。）
内蔵フラッシュ
☞P.81
ホットシュー ☞P.83
（フラッシュ）ボタン
☞P.81
（連写／セルフタイマー／
リモコン）ボタン
☞P.63-66、102
COPY/
（コピー／プリント）
ボタン☞P.95、115
ストラップ
取り付け部
☞P.10
レンズ取り外しボタン
☞P.12
レンズロックピン
ミラー ☞P.39
OLYMPUS

アイカップ☞P.64
ファインダ☞P.6
液晶モニタ
☞P.8、9、38
▶（再生）ボタン
☞P.88
（消去）ボタン
☞P.97
MENUボタン
☞P.30
INFO（情報表示）ボタン
☞P.29、44、88
三脚穴
視度調整ダイヤル
☞P.14
AEL/AFLボタン
☞P.40、54、100
（プロテクト）ボタン☞P.96
IS（手ぶれ補正）ボタン☞P.67
Fnボタン☞P.101
（AFターゲット）ボタン
☞P.60
（ライブビュー）ボタン
☞P.38
十字ボタン
☞P.28、30
OKボタン☞P.30
電池カバー
☞P.11
電池カバーロック
☞P.11
カードカバー ☞P.13
カードアクセスランプ
☞P.13、16、122
CFカードスロット☞P.13
xD-ピクチャーカードスロット
☞P.13
コネクタカバー
マルチコネクタ
☞P.93、115、120
イジェクトボタン
☞P.13

モードダイヤル

モードダイヤルを使うと、撮影する被写体に合わせてカメラの設定を簡単に変えることができます。

かんたん撮影モード

- 撮影シーンに合わせて選びます。カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。
- かんたん撮影モードでは、モードダイヤルを回したり、電源をオフにすると設定した機能は、初期設定に戻ります。

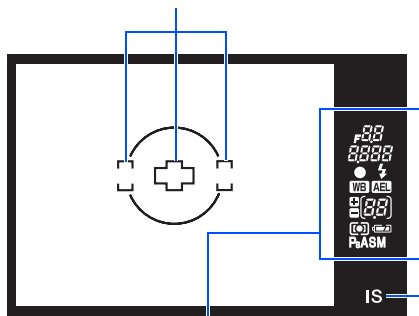
AUTO	オート	最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定します。暗いときにはフラッシュが自動的にポップアップします。
	ポートレート	人物撮影をするのに最適です。
	風景	風景を撮るのに最適です。
	マクロ	被写体に近接した撮影を行うときに使用します。
	スポーツ	スポーツなどの動きのある被写体を撮るのに最適です。
	夜景＆人物	夜の景色と人物をいっしょに撮るのに最適です。
SCENE	シーンモード	撮影シーンや撮影状況に合わせて選択すると、カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。モードダイヤルのシーンモードと違って、ほとんどの機能は変更できません。 1 モードダイヤルを SCENE に設定します。 • シーンメニューが表示されます。 2 でシーンモードを選択します。 • 選択している撮影シーンのサンプル画像に続いて説明が表示されます。 (1 ポートレート / 人物を撮影するのに最適です。肌の質感を強調します。 / 選択 / 決定 OK) 3 OKボタンを押します。 • カメラが撮影モードに入ります。 • 設定変更したいときは、OKボタンを再度押すとシーンメニューが表示されます。

シーンモードの種類

アイコン	モード		アイコン	モード	
	1	ポートレート		11	マクロ
	2	風景		12	ネイチャーマクロ
	3	風景＆人物		13	キャンドル
	4	夜景		14	夕日
	5	夜景＆人物		15	打ち上げ花火
	6	チャイルド		16	文書
	7	スポーツ		17	パノラマ
HI	8	ハイキー		18	ビーチ＆スノー
LOW	9	ローキー		19	水中ワイド
	10	ぶれ軽減		20	水中マクロ

応用撮影モード

- 絞り値、シャッター速度を任意に設定し、より高度な撮影ができます。
- 応用撮影モードで設定した機能は、カメラの電源を切っても設定を保持しています。

P	プログラム撮影	絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて設定します。（☞P.47）
A	絞り優先撮影	絞り値を自分で設定します。シャッター速度はカメラが自動的に設定します。（☞P.48）
S	シャッター優先撮影	シャッター速度を自分で設定します。絞り値はカメラが自動的に設定します。（☞P.49）
M	マニュアル撮影	絞り値とシャッター速度を自分で設定します。（☞P.50）

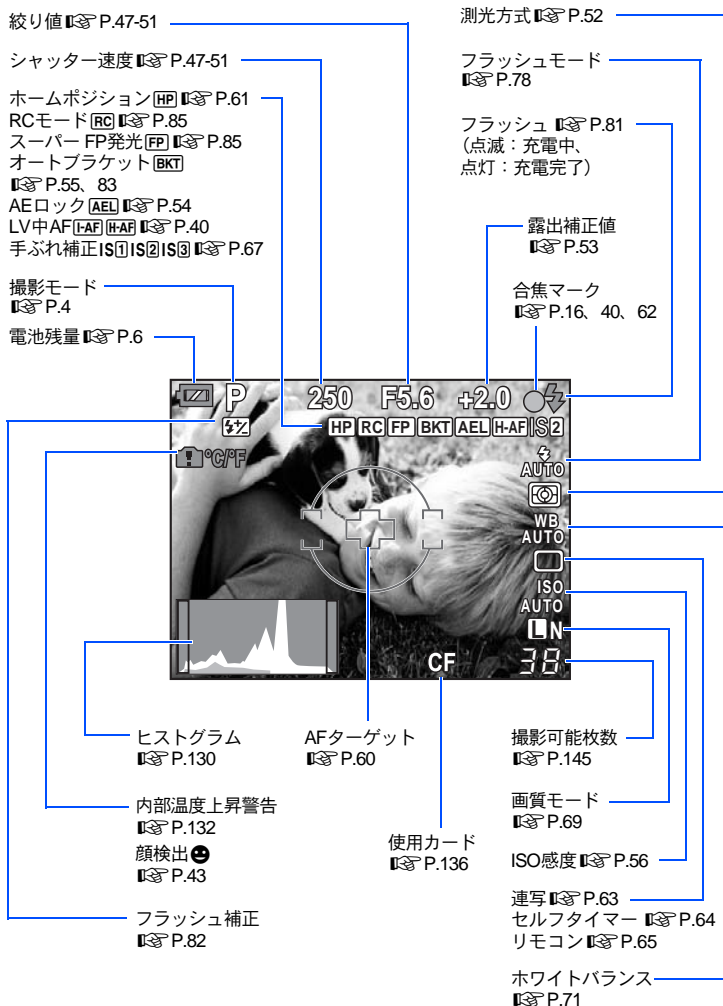
ファインダ

AFターゲット ☞P.60
IS
手ぶれ補正
☞P.67
F
WB
AEL
PsASM
絞り値
☞P.47-51
シャッター速度
☞P.47-51
合焦マーク
☞P.16、47、62
フラッシュ
☞P.78
（点滅：充電中、
点灯：充電完了）
ホワイトバランス
（オートホワイトバランス以外に設定しているときに表示されます。）
☞P.71
AEロック
☞P.54
露出補正値
☞P.53
電池残量
（撮影できます。）
（充電してください。）
測光方式
☞P.52
撮影モード
☞P.4

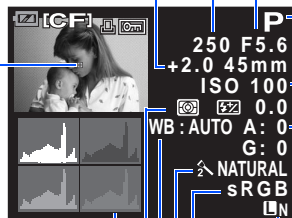
スーパーコンパネ

撮影の設定状態の表示と設定が、同時にできる下の画面をスーパーコンパネと呼びます。**INFO**ボタンを押して液晶モニタに表示して使用します。

☞「スーパーコンパネの操作」（P.29）

液晶モニタ（ライブビュー）

液晶モニタで被写体を表示して確認しながら撮影します。[◘]ボタンを押してライブビューを使います。☞「ライブビュー撮影」（P.38）

液晶モニタ（再生）

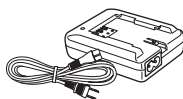
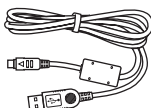
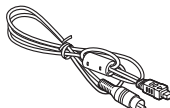
INFOボタンを使って表示を切り換えることができます。
☞「情報表示」（P.91）

同梱品を確認する

お買い上げの商品には次の付属品が入っています。
万一、不足していたり、破損していた場合には、お買い上げ販売店までご連絡ください。

カメラ

ボディキャップ

ストラップ

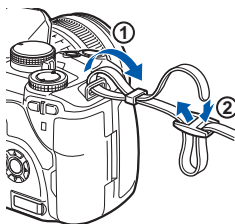
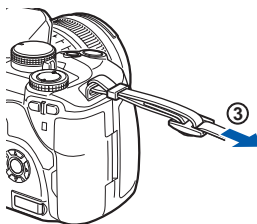
リチウムイオン電池BLM-1

リチウムイオン充電器BCM-2

USBケーブル

ビデオケーブル

OLYMPUS Master 2 CD-ROM

取扱説明書

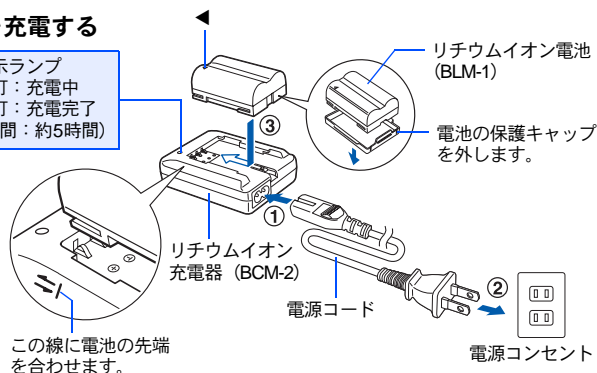
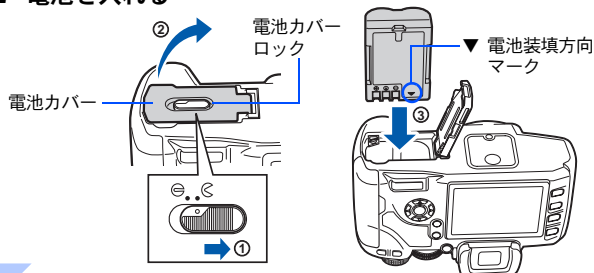
保証書

アイピースカバー

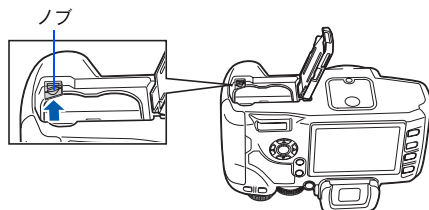
ストラップを取り付ける

矢印にしたがってストラップを通します（①、②）。

最後に強く引っ張り、抜けないことを確認してください（③）。

もう一方のストラップ取り付け部にも、同様にストラップを取り付けます。

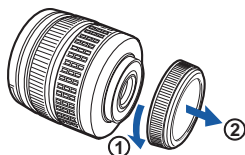
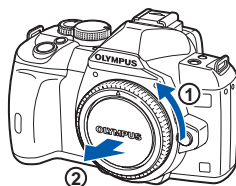
電池を準備する

1 電池を充電する

2 電池を入れる

3 電池カバーを閉め、電池カバーロックを⊖の方向にスライドする

電池を取り出す

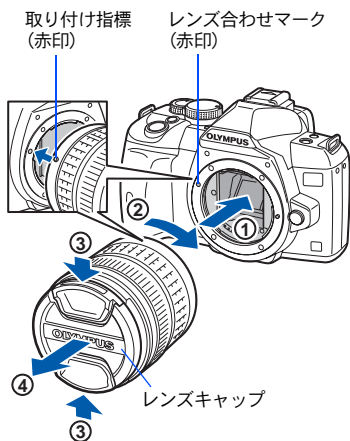
電池ロックノブを押すと電池が取り出せるようになります。

長時間の撮影には、電池の消耗に備えて予備の電池を用意されることをおすすめします。

レンズを取り付ける

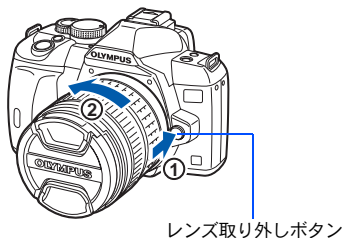
1 カメラのボディキャップと レンズのリアキャップを外す

リアキャップ

ボディキャップ

2 レンズを取り付ける

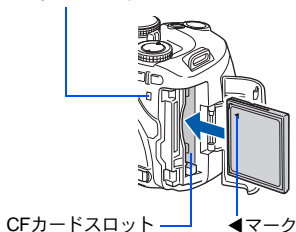
- カメラのレンズ合わせマーク（赤印）にレンズの取り付け指標（赤印）を合わせ、レンズをボディに差し込みます（①）。
- レンズをカチッと音がするまで矢印の方向に回します（②）。

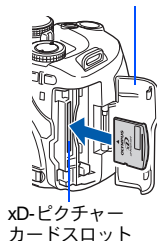
> - パワースイッチがOFFになっていることを確認してください。
> - レンズ取り外しボタンは押さないでください。

3 レンズキャップを外す（③、④）

レンズを取り外す

レンズ取り外しボタンを押しながら（①）、矢印の方向に回します（②）。

カードを入れる

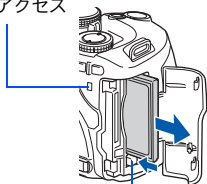
コンパクトフラッシュ／マイクロドライブの場合

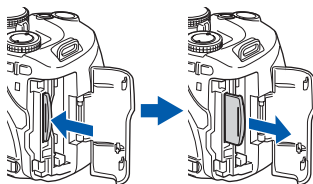
カードカバーを開けます。
端子側を奥にして差し込みます。

xD-ピクチャーカードの場合

カードカバーを開けます。
カードがロックされるまで差し込みます。

カードを取り出す

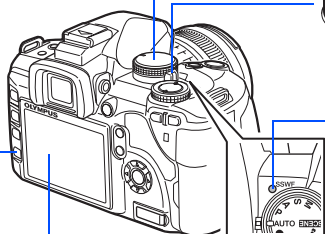
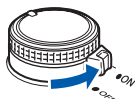
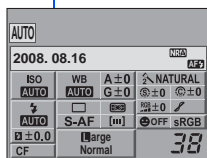
カードアクセスランプが点滅しているときは、絶対にカードカバーを開けないでください。

コンパクトフラッシュ／マイクロドライブの場合

- イジェクトボタンを奥まで押し込むと、イジェクトボタンが出てきます。イジェクトボタンをもう一度奥まで押し込むと、カードが出てきます。
- カードをつまんで取り出します。

xD-ピクチャーカードの場合

- 差し込まれているカードを軽く押すと、カードが出てきます。
- カードをつまんで取り出します。

電源を入れる

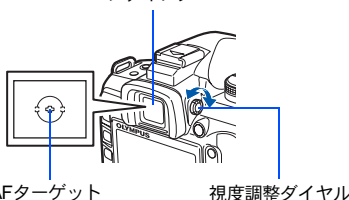
1 パワースイッチをONの位置にします。

- 電源を切るには、パワースイッチを**OFF**の位置にします。

液晶モニタ

電源が入ると、液晶モニタにスーパーコンパネが表示されます。
表示されないときは**INFO**ボタンを押してください。

> **ダストリダクション機能の作動**
> 電源を入れたとき、撮像素子のフィルター前面についたゴミをスーパーソニックウェーブフィルター（SSWF）により払い落とすダストリダクション機能が自動的に働きます。ダストリダクション機能が作動中はSSWFランプが点滅します。

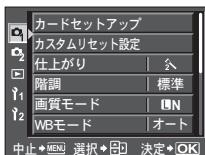
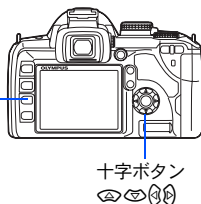
ファインダを見やすくする

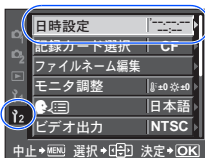
視力に合わせてファインダの視度調整をします。
ファインダをのぞきながら、視度調整ダイヤルを少しずつ回します。
AFターゲットがはっきり見えたら調整完了です。

日時を設定する

日時の情報は画像とともにカードに記録されます。また、ファイル名も日付の情報をもとに付けられます。お使いになる前に必ず正しい日時を設定してください。

1 MENUボタンを押す

• 液晶モニタにメニュー画面が表示されます。

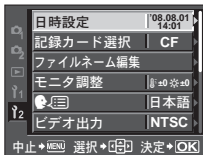
2 で[2]を選択し、を押す

3 で[日時設定]を選択し、を押す

4 で[年]を選択し、を押す

5 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力する

• 時刻は24時間表示です。

6 で日付の順序を選択する

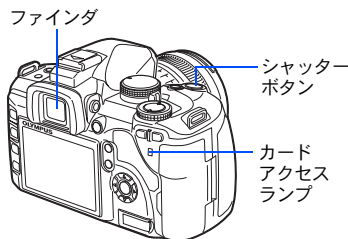
7 ボタンを押す

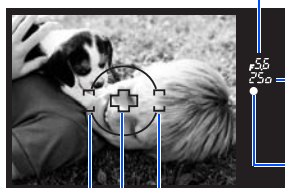
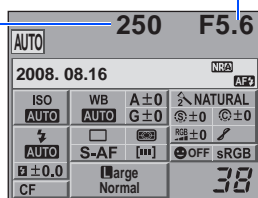
日時設定 '08.08.01 14:01
記録カード選択 CF
ファイルネーム編集
モニタ調整
日本語
ビデオ出力 NTSC
中止 MENU 選択 決定 OK

8 MENUボタンを押して終了する

かんたんガイド

撮影前の準備

撮影する

1 ファインダをのぞきながらAFターゲットに被写体を合わせ、構図を決める

2 ピントを合わせる

シャッターボタンを半押しします。

- ピントが固定され、ファインダ内の合焦マークが点灯し、ピントの合ったAFターゲットが点灯します。
- カメラが自動的に決定したシャッター速度や絞り値が表示されます。
- シャッターボタンが押されている間は、スーパーコンパネは消灯します。

3 撮影する

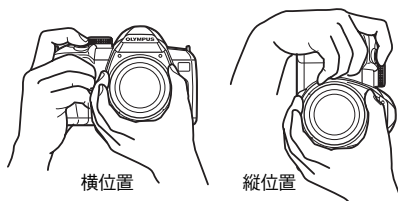
半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます（全押し）。

- シャッター音がして、撮影されます。
- カードアクセスランプが点滅し、カード記録が始まります。

カードアクセスランプの点滅中は、絶対に電池やカードを抜かないでください。撮影した画像が保存されないだけではなく、保存済みの画像が破壊されるおそれがあります。

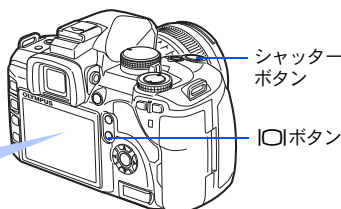
カメラの構え方

レンズとフラッシュに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

横位置　　縦位置

液晶モニタを見ながら撮影する

撮影する被写体を液晶モニタに表示して構図を確認したり、拡大表示して液晶モニタを見ながら撮影することができます。
☞「ライブビュー撮影」（P.38）

1 ◻（ライブビュー）ボタンを押して、ライブビューに切り換える

- 液晶モニタに被写体が表示されます。

2 シャッターボタンを押して撮影する

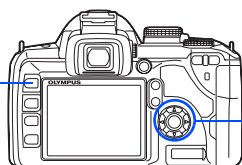
- ピント合わせをして撮影されます。

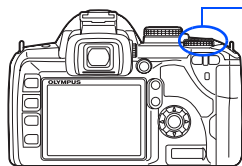
カメラが動作を停止したときは

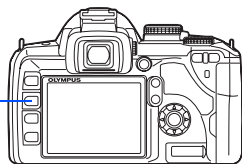
電源を入れたまま約8秒間何も操作しないと、電池の消耗を防ぐために液晶モニタのバックライトが消灯します（スーパーコンパネ点灯時）。さらに約1分間何も操作しないと、スリープモード（待機状態）になり、カメラは動作を停止します。シャッターボタンや▶ボタンなどを操作するとカメラは動作を再開します。☞「バックライト時間」（P.104）、「スリープ時間」（P.104）

再生する／削除する

画像を再生する

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

クローズアップ再生する

コントロールダイヤルを🔍側に回すたびに2～14倍と拡大倍率が変化します。

画像を削除する

消去したい画像を再生し、🗑ボタンを押します。
△▽を押して[実行]を選択しⓞボタンを押すと、削除されます。

本書の表記について

- 本文中の操作ボタンの表記は、カメラ本体上のマークを使用しています。「各部の名称と機能」（☞P.2）をご覧ください。
- 本文中の ◎ は、コントロールダイヤルを表しています。
- 本文中、以下の表記を使用しています。

❶ 注意	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
こんなときは	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

本書を活用していただくために

「もくじ」（P.20）や「索引」（P.165）で探す他、カメラの機能や操作方法を以下の項目からも探せるようになっています。
知りたいことや撮影状況に合わせて、本書をご活用ください。

このカメラでどんな撮影ができるか知りたい
☞「撮影ガイド」（P.32）

操作方法が知りたい
☞「ダイレクトボタンの操作」（P.28）
「スーパーコンパネの操作」（P.29）
「メニューの操作」（P.30）

ライブビュー撮影でできることを知りたい
☞「ライブビュー撮影」（P.38）

一覧から機能を探したい
☞「メニュー一覧」（P.147）
「索引」（P.165）

もくじ

かんたんガイド 2

各部の名称と、撮影・再生の基本を確認しましょう。

1 設定方法と操作の基本 27

カメラの基本的な操作方法について説明します。

2 撮影ガイド―上手に撮るために 32

場面に合った撮影方法について説明します。

3 ライブビュー撮影 38

ライブビュー中のみ可能な機能や操作について説明します。

4 露出 47

撮影で重要な露出に関する機能の説明です。明るさを測って絞り値やシャッター速度などをどのように決めるかを選びます。

5 ピント合わせ／撮影機能 57

撮影する状況や被写体に適切なピント合わせの方法を選びます。

6 画質／色合い／仕上がり 69

画像の出来上がりを調整する機能について説明します。デジタルカメラに特有の機能です。

7 フラッシュ撮影 78

内蔵フラッシュ撮影や専用フラッシュ撮影について説明します。

8 再生 88

撮影した画像を再生する際に使う機能について説明します。

9 カスタム機能の設定 99

カメラをお好みの状態にカスタマイズします。

10 プリントする 112

撮影した画像をプリントする方法について説明します。

11 OLYMPUS Masterを使う 119

カメラの画像をパソコンに取り込んで保存する方法について説明します。

12 こんなときは?／カメラのお手入れ 124

困ったときやカメラのことがもっと知りたいときにご覧ください。

13 資料 136

別売アクセサリーの紹介、カメラの仕様情報を記載しています。撮影の参考にしてください。

設定方法と操作の基本

機能の設定には以下の3通りの方法があります。

1 ダイレクトボタンを使って操作する P.28

機能が割り当てられたダイレクトボタンを押しながら、コントロールダイヤルを回して設定します。

2 スーパーコンパネ表示を見ながら設定する P.29

液晶モニタにスーパーコンパネを表示して、機能を設定します。スーパーコンパネでは、現在の設定状態の確認だけでなく、画面上で機能を選択して直接設定を変えることができます。

3 メニューを表示して操作する P.30

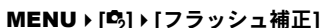
メニューでは撮影に関する設定だけでなく、再生に関する設定、撮影機能やカメラの機能をカスタマイズする設定を行います。

本書の記載方法

本書では、ダイレクトボタン、スーパーコンパネ、メニューでの操作方法を以下のように表記しています。

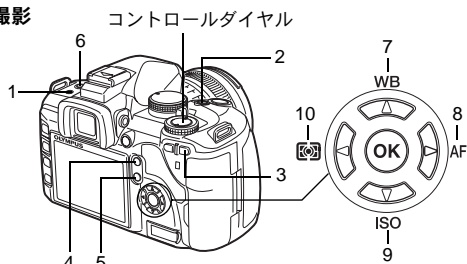
- 「**+**」は同時に操作をすることを示しています。
- 「▶」は次の操作に進むことを示しています。

例：フラッシュ補正を設定する場合

ダイレクトボタン	⚡ + ☒ ▶ ダイヤル
スーパーコンパネ	OK ▶ 十字ボタン：**[フラッシュ補正]**
メニュー	**MENU ▶ [📷2] ▶ [フラッシュ補正]**

ダイレクトボタンの操作

1 設定したい機能のボタンを押します。
- ダイレクトメニューが表示されます。

例）連写／セルフタイマー撮影／リモコン撮影の設定

ダイレクトメニュー

2 コントロールダイヤルで設定します。
- ⓞボタンを押すと設定が確定されます。また、数秒間何も操作しないと設定は確定され、スーパーコンパネ表示に戻ります。☞「ボタンON保持時間」（P.103）

ダイレクトボタン一覧

番号	ダイレクトボタン		機能	参照ページ
1	▭/◷/▯	連写／セルフタイマー／リモコンボタン	連写／セルフタイマー撮影／リモコン撮影	P.63-65
2	☒	露出補正ボタン	露出補正	P.53
3	[···]	AFターゲットボタン	AFターゲット選択	P.60
4	IS	手ぶれ補正ボタン	手ぶれ補正設定	P.67
5	▯◯▯	ライブビューボタン	ライブビューのオン／オフ切り換え	P.38
6	⚡	フラッシュボタン	フラッシュのポップアップ、フラッシュモード設定	P.78
7	WB	ホワイトバランスボタン	ホワイトバランス設定	P.71
8	AF	フォーカスモードボタン	フォーカスモード設定	P.57
9	ISO	ISOボタン	ISO感度設定	P.56
10	[◉]	測光ボタン	測光方式設定	P.52
2 + 6	☒ + ⚡	露出補正ボタン フラッシュボタン	フラッシュ補正	P.82

こんなときは

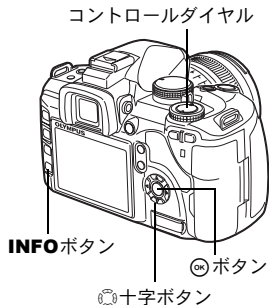
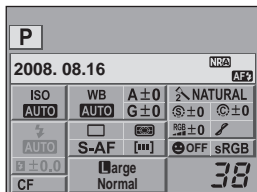
他の機能をボタン操作で設定できるようにしたい：

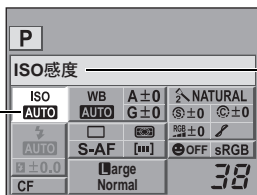
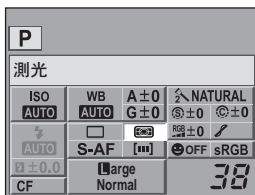
→ **Fn**、▭/◷/▯ボタンによく使う機能を割り当てることもできます。☞「Fnボタン機能」（P.101）、「▭ボタン機能」（P.102）

スーパーコンパネの操作

スーパーコンパネに表示されている項目を選んで、設定を変更します。

1 INFOボタンを押して液晶モニタにスーパーコンパネを表示します。

- 再度 **INFO** ボタンを押すとスーパーコンパネが消灯します。
- ライブビュー中は、Ⓞボタンを押してスーパーコンパネを表示します。

2 Ⓞボタンを押します。

- スーパーコンパネにカーソルが点灯します。

3 十字ボタンでカーソルを設定したい機能に移動します。

4 コントロールダイヤルで設定を変更します。

- Ⓞボタンを押すと、カーソル位置のダイレクトメニューが表示されます。ダイレクトメニューで設定を変更することもできます。設定を変更してⓄボタンを押すと、設定が確定されます。また、数秒間何も操作しないと設定は確定され、スーパーコンパネ表示に戻ります。

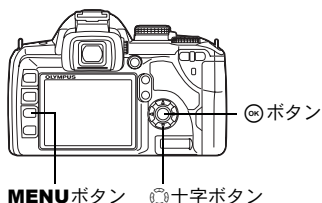
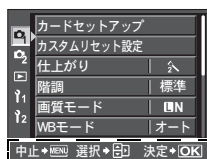
ダイレクトメニュー

スーパーコンパネで設定できる機能については、「スーパーコンパネ」（☞P.7）をご覧ください。

1 設定方法と操作の基本

メニューの操作

1 MENUボタンを押します。

• 液晶モニタにメニューが表示されます。

ボタンの操作ガイドが表示されます。

中止➔MENU ：MENUボタンを押して設定を中止します。

選択➔ ：十字ボタンのを押してカーソルを移動し、選択肢を選びます。表示されるマークは、以下の十字ボタンに該当します。

：　：　：　：

決定➔OK ：ボタンを押して選択肢を決定します。

2 でタブを選択し、で設定します。

タブ　現在の設定が表示されます

3 で機能を選択し、を押して各設定画面に進みます。

機能

タブの種類

（撮影メニュー 1）
撮影に関する設定をします。

（撮影メニュー 2）
撮影に関する設定をします。

（再生メニュー）
再生に関する設定をします。

（カスタムメニュー 1）
撮影機能をカスタマイズします。カスタマイズする機能により、さらにA～Iの9つのタブに分類されています。

（カスタムメニュー 2）
カメラの基本的な機能を設定します。

タブを選んだときの画面

タブ

4 ボタンを押して、設定した内容を確定します。

• 繰り返しボタンを押して、メニューを終了します。

メニューで設定できる機能については、「メニュー一覧」（P.147）をご覧ください。

1 設定方法と操作の基本

カメラを出荷時の設定に戻す

このカメラでは、変更した設定は、電源を切ってもリセットされません。カメラを出荷時の設定に戻すには**[リセット]**を実行します。**[リセット1]**・**[リセット2]**にあらかじめリセット内容を登録しておくこともできます。**[リセット1]**·**[リセット2]**には、登録時のカメラの設定内容が登録されます。登録される機能については、「マイモード・カスタムリセット設定で登録可能な機能」（☞P.146）をご覧ください。

[リセット１][リセット2]を登録する

メニュー **MENU ▸ [◘] ▸ [カスタムリセット設定]**

1 登録先（[リセット1]または[リセット2]）を選択し、⊳を押します。

- すでに登録している場合、**[リセット1]**/**[リセット2]**に**[登録]**と表示されます。もう一度**[登録]**を選択すると、登録内容が上書きされます。
- 登録を解除する場合は**[クリア]**を選択します。

2 [登録]を選択し、Ⓞボタンを押します。

リセット操作

出荷時の設定に戻します。または、**[リセット1]**、**[リセット2]**の登録内容にリセットします。

[リセット]：カメラを出荷時の設定に戻します。初期設定は「メニュー一覧」（☞P.147）をご覧ください。
[リセット1]/[リセット2]：登録した内容にリセットします。

メニュー **MENU ▸ [◘] ▸ [カスタムリセット設定]**

1 [リセット]/[リセット1]/[リセット2]のいずれかを選択した状態でⓄボタンを押します。

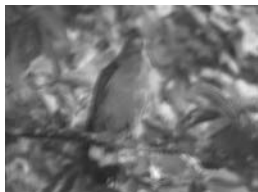
2 △▽で[実行]を選択し、Ⓞボタンを押します。

基本機能ガイド

子供や花、ペットなど身近な被写体に向けて何度もシャッターを切ってみる、これがカメラに慣れる一番の方法です。撮影した画像が上手に撮れていなかったら、以下を参考にいろいろ試してみましょう。撮影時にいくつか気をつけるだけで、満足のいく撮影ができるようになります。

ピント―シャッターボタンの操作

被写体にピントを合わせたつもりが、その前後や他のものにピントが合ってしまっていることがあります。狙った被写体に確実にピントを合わせて、画像のピンボケを防ぎましょう。シャッターボタンの押し方には、半押しと全押しがあります。半押しと全押しがうまく使えるようになると、動く被写体にもピントが合わせられます。

半押し： 全押し：

☞「撮影する」（P.16）、「フォーカスロック―ピントが合わないとき」（P.62）

ピントを正しく合わせていても、シャッターボタンを全押しする瞬間にカメラが動くと、ぶれた写真になってしまいます。これを手ぶれといいます。カメラの正しい構え方をマスターしましょう。ライブビューで液晶モニタを見ながら撮影しているときは、特にぶれやすくなります。手ぶれ補正機能を設定すると、手ぶれを抑えることができます。

☞「カメラの構え方」（P.17）、「手ぶれ補正」（P.67）

ピンボケや手ぶれの他、被写体が動いてしまってぶれた写真になる場合があります。これを被写体ぶれといいます。この場合、被写体の動きにあったシャッター速度で撮影します。シャッターボタンを半押しすると、実際にシャッターを切ったときのシャッター速度や絞り値が、ファインダや液晶モニタに表示されます。これらの表示を確認するようにしましょう。

☞「ファインダ」（P.6）、「スーパーコンパネ」（P.7）、「液晶モニタ（ライブビュー）」（P.8）

明るさ―露出補正

カメラは、明るさに応じて自動的に絞り値やシャッター速度を決めます（自動露出）。しかし、自動露出だけでは自分が思い描いた写真にならないことがあります。このようなときは、自動露出の設定より明るく、または暗く露出を補正して撮影してみます。夏の浜辺の眩しさや雪の白さを際立たせたい場合は+（プラス）に、撮りたい部分は明るくても画面を占める多くが暗い場合は−（マイナス）に露出補正します。露出補正の程度がわからないときは、設定を変えて何枚か撮影し、後で比べてみましょう。

☞「露出補正」（P.53）、「AEブラケット撮影」（P.55）

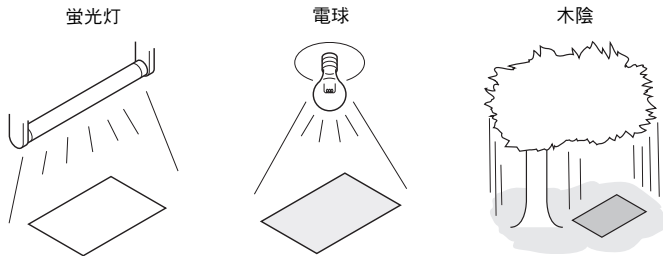
色―ホワイトバランス

被写体を照らす照明は太陽光の他、電球や蛍光灯などいろいろなものがあります。これらの照明には、すべて固有の色があるため、同じ白いものを撮っても、照明によって異なった色で写ります。また、同じ太陽光でも晴天の空の下なのか、あるいは木や建物の陰などかによって違いがあります。このような照明の影響を自動的に修正し、正しい色で撮影するのがホワイトバランスの機能です。ほとんどの場合、ホワイトバランスは**[オート]**の設定で正しい色の表現ができますが、撮影状況によっては意図した色合いにならない場合があります。そのときは設定を変えてみましょう。

☞「ホワイトバランスの選択」（P.71）

蛍光灯

電球

木陰

使いやすくする―カスタマイズ

このカメラは撮影のための機能を多数備えており、さらにその機能を自分が使いやすいように、設定することができます。
たとえば、同じ被写体を同じ設定で時間をおいて何回か撮影したい場合など、その設定をマイモードとして登録しましょう。撮影時、登録したマイモードを撮影モードとして簡単に呼び出すことができます。
シャッターを切る構図とは違うところでピントを合わせたいときは、**[AEL/AFLモード]**を設定すると、**AEL/AFL**ボタンを押してピント合わせを行った状態でシャッターボタンを半押しして露出を固定する、ということもできます。
また、ボタンに割り当てる機能を変える、ダイレクトボタンが押された状態を保持する時間を変更するなどして、自分好みの操作性を実現することができます。

☞「マイモード設定」(P.103)、「AEL/AFLモード」(P.100)、「Fnボタン機能」(P.101)、「□ボタン機能」(P.102)、「ボタンON保持時間」(P.103)

被写体別機能ガイド

被写体に応じて、どのような撮影でどのような機能が有効か紹介します。

風景を撮る

ここでは、日中の森や湖、海辺などの景色を対象にした撮影を紹介します。

撮影モードを変える

静寂が伝わるような静的風景、躍動感を感じさせる動的風景。動きをどのように表現するかで、撮影方法も変わります。

- 森の深さを表現するには画面の広い範囲でピントを合わせます。**A**(絞り優先撮影)モードにして、できるだけ絞り込んで(絞り値を大きくして)撮影します。
- 海岸で激しく砕ける白波の一瞬を捉えるには、**S**(シャッター優先撮影)モードにしてシャッター速度を高速にします。滝や渓流の流れを表現するには、シャッター速度を長秒時にして撮影します。

それぞれの撮影モードで露出補正することができます。撮影した画像を確認しながら、+(プラス)や−(マイナス)に補正して、より表現を深めましょう。

ホワイトバランスを変える

同じ水辺でも、木々の緑を映した湖とさんご礁に囲まれた海では、その色合いは異なります。微妙な色の違いを表現するには、ホワイトバランスの設定を変えてみましょう。晴天のときは**[☼5300K]**、晴天時の日陰では**[⌂7500K]**といったように設定を変えて撮影してみます。

測光モードを変える

海は深度や太陽の方向で、同じ構図内でも部分によって明るさはかなり違います。また、森も木々の重なり具合で明るさは均一ではありません。構図内で露出を重視したい部分が明確なときは、測光方式を変えてみましょう。**[ESP]**（デジタルESP測光）は、構図内の明るさをカメラが自動的に判断して露出を決めます。構図内で特定部分の露出を重視したい場合は、**[(•)]**（中央重点平均測光）や**[•]**（スポット測光）に変更し、露出を合わせたい部分に測光エリアを合わせて露出を測ります。

彩度を変える

ホワイトバランスや露出補正を使っても、色合いがうまく出せない場合があります。**[彩度]**の設定を変えて自分でイメージした色合いに近づけてみましょう。**[彩度]**の設定値は、高低それぞれ2段階あります。**[彩度]**を高くすると鮮やかな色合いになります。

☞「絞り優先撮影」（P.48）、「シャッター優先撮影」（P.49）、「測光方式の変更」（P.52）、「露出補正」（P.53）、「ホワイトバランスの選択」（P.71）、「**[彩度]**：色の鮮やかさ」（P.75）

花を撮る

一輪の花と一面に咲き誇る花畑、深紅のばらと淡い色合いのスィートピー。どのように表現したいかによって撮影方法も変わります。

ホワイトバランスを変える

花の色は、淡いものから鮮やかなものまで多種多様です。色によっては微妙な色合いが見た目の通りに写らないことがありますので、光の当たり具合をみてホワイトバランスの設定を変えてみましょう。
[オート]は、カメラが光の種類を判断するので正しく写りますが、晴天のときは**[☼5300K]**、晴天時の屋外の日陰では**[⌂7500K]**といったように状況に応じて設定を変えると、微妙な色合いをうまく引き出すことができます。

露出補正を使う

背景を入れて撮るときは、花の形や色が際立って写るよう、できるだけ単純な背景を選びます。明るい白っぽい色の花を撮るときは、暗い背景に花が浮かび上がって写るように露出補正を－（マイナス）に補正してみましょう。

撮影モードを変える

一輪の花を強調して撮るか花畑を撮るかによって撮影方法が変わります。ピントが合う範囲を変えて撮影する場合は、**A**（絞り優先撮影）モードに設定して絞り値を選んで撮影します。

- 絞りを開ける（絞り値を小さくする）と被写界深度（ピントの合う範囲）が浅くなり、背景がぼけて被写体が強調されます。
- 絞り込む（絞り値を大きくする）と被写界深度が深くなり、広い範囲にピントが合った写真になります。

絞りを変えた被写界深度の変化は、プレビュー機能で確認することができます。

ライブビューを使う

通常、レンズ交換式デジタル一眼レフカメラは、露出補正やホワイトバランスを変更しても、実際に撮影して画像を再生しないと、その効果を確認することができません。本機ではライブビュー機能を使って、撮影する被写体を液晶モニタに映し出しながら撮影することができます。

レンズを換える

花が少なくまばらな場合は、望遠レンズにして撮影してみましょう。望遠レンズを使うと、実際の距離よりも遠近感が弱められ、花が密集して咲いているように撮ることができます。ズームレンズの望遠側でも同じ効果がありますが、54 mmよりは150 mm、さらに200 mmといったように焦点距離が長いほど、効果を得やすくなります。

☞「絞り優先撮影」（P.48）、「ライブビュー撮影」（P.38）、「露出補正」（P.53）、「ホワイトバランスの選択」（P.71）

夜景を撮る

日が沈んだ直後の残照がある夕暮れ、都会の街灯やイルミネーション、夜空に広がる花火など、様々な夜景があります。

三脚を使う

夜景の撮影では、暗いためシャッター速度が遅くなるので三脚は必需品です。三脚がない場合はカメラを安定した場所に置くなどして、ぶれないようにします。カメラを固定していても、シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまうことがありますので、リモコンやセルフタイマーの使用をおすすめします。

撮影モードを変える

夜景は明るさに強弱があり、構図内の明るさのバランスは均一ではありません。まずは**A**（絞り優先撮影）モードにして撮影してみましょう。絞りは全体の中間（F8やF11くらい）に設定し、シャッター速度はカメラ任せにします。夜景の撮影では、構図内の多くを占める暗い部分に合わせた露出に設定され、白っぽい画像（露出オーバー）になることが多いので、露出補正値を-1または-1.5にします。**[撮影確認]**で画像を確認しながら、絞りや露出補正値を変えて撮ります。
長秒時の撮影は、画像にノイズが発生しやすくなります。**[長秒時ノイズ低減]**を**[ON]**に設定すると、ノイズを抑えることができます。

マニュアルフォーカスを使う

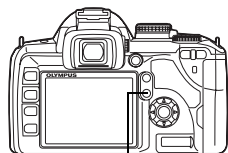
被写体が暗いためにAF（オートフォーカス）ではピントが合わなかったり、花火のようにピント合わせが間に合わない場合は、AF方式を**[MF]**（マニュアルフォーカス）に設定して手動でピントを合わせます。夜景の場合はレンズのピントリングを回しながら、街灯がはっきり見えるかどうかを確認します。花火の場合、長焦点レンズ以外は無限遠に合わせます。おおよその距離がわかれば、あらかじめ同じくらいの距離にあるものでピントを合わせておくこともおすすめです。

☞「プログラム撮影」（P.47）、「絞り優先撮影」（P.48）、「リモコン撮影」（P.65）、「AF方式の選択」（P.57）、「長秒時ノイズ低減」（P.77）、「撮影確認」（P.111）

ライブビューを起動する

撮影する被写体を液晶モニタに表示します。露出やホワイトバランスの効果や構図を映し出しながら撮影することができます。

1 ボタンを押します。

- ミラーアップして液晶モニタに被写体が表示されます。
- **[AF方式]**を**[C-AF]**に設定している場合は、自動的に**[S-AF]**（**[C-AF+MF]**の場合は**[S-AF+MF]**）になります。

ボタン

ライブビュー中の操作

ライブビュー撮影中は以下の機能を使うことができます。

ライブビュー中のピント合わせ

- オートフォーカスの方法を選んで撮影したい ☞P.40
- フォーカスロックして撮影したい ☞P.41
- マニュアルフォーカスでピントの調整をしながら撮影したい ☞P.43
- 顔にピントを合わせて撮影したい ☞P.43
- ピントを合わせたい部分を拡大して、確認しながら撮影したい ☞P.45

効果を見ながら撮影する

- 露出補正またはホワイトバランスの効果を比較しながら撮影したい ☞P.44
- パノラマ撮影する ☞P.46
- 手ぶれ補正の効果を確認しながら撮影したい ☞P.67

液晶モニタの表示を切り換える

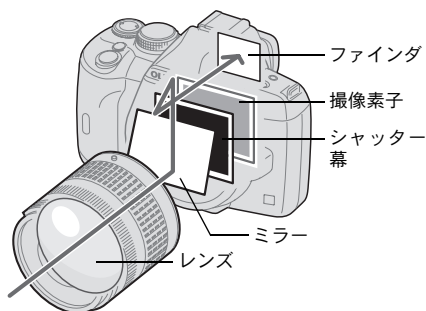
- 情報表示を消したい。ヒストグラムや罫線を表示したい ☞P.44
- 暗い場所でも被写体を液晶モニタで確認しやすくしたい ☞P.105

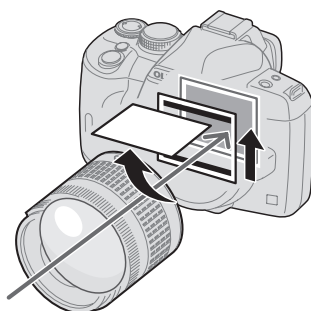
注意

- 画面内に高輝度の光源があると黒く表示されますが、撮影画像は正常に記録されます。
- 長時間使用すると撮像素子の温度が上昇し、ISO感度を高くした画像ではノイズや色むらが発生します。ISO感度を低くして撮影するかしばらく電源を切ってください。
- レンズを交換するとライブビューは停止します。
- ライブビュー中は以下の機能は使用できません。
  C-AF／AEロック／**[AEL/AFLモード]**

ライブビューの仕組み

ライブビューでは、通常の撮影で使用する撮像素子（LiveMOS／イメージャ）に写る映像を液晶モニタに映し出します。これによって、露出補正やホワイトバランスなどの結果を液晶モニタ上で確認することができます。また、被写体の一部を拡大してピント合わせをする、罫線を表示して水平を確認しながら撮る、といった操作が可能になります。
ライブビューで液晶モニタに像を映し出しているときは、ミラーが上がってシャッターは開いている状態になります。そのため、ファインダで被写体を見ることができなくなります。
ファインダから強い光が入ると、正しく測光できない場合があります。その場合はアイピースカバーを取り付けてください。☞「アイピースカバー」（P.64）

ファインダによる撮影

• レンズから入った光はミラーで反射されファインダで被写体を確認します。

ライブビュー撮影

• ミラーがアップしてシャッターが開き、撮像素子に写る被写体が液晶モニタに表示されます。

ライブビュー撮影する

ライブビュー中のオートフォーカスは、3種類の設定を選ぶことができます。**[LV中AF]**の設定によってピント合わせが働くタイミングやAFの仕組みが変わります。

メニュー　**MENU ▸ [Ÿ1] ▸ [iA] ▸ [LV中AF]**

LV中AFの特徴

LV中AF	シャッターボタンの操作		フォーカスロック	使用制限	AFターゲット選択
	半押し	全押し			
イメージャAF（初期設定）	イメージャを使ったAF作動	撮影	シャッターボタン半押し、または**AEL/AFL**ボタンを押します。	対応レンズのみ可能*	11点
全押しAF	—	AFセンサーによるAFをして、撮影	**AEL/AFL**ボタンを押しながら、シャッターボタンを全押しします。	なし	3点
ハイブリッドAF	イメージャを使ったAF作動（おおよそのピント合わせ）	AFセンサーによるAFをして、撮影	**AEL/AFL**ボタンを押しながら、シャッターボタンを全押しします。	なし	3点

* イメージャAFに対応しているオリンパスレンズは、オリンパスホームページでご確認ください。**[イメージャ AF]**に対応していないレンズをお使いの場合は、**[ハイブリッドAF]**に自動的に切り換わります。

[イメージャ AF]で撮る

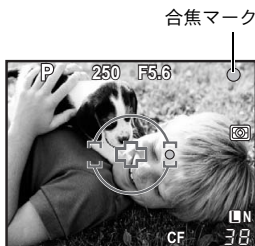
1　シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うと合焦マークと AF ターゲットマークが点灯します。

2　シャッターボタンを全押しして、撮影します。

[全押しAF]で撮る

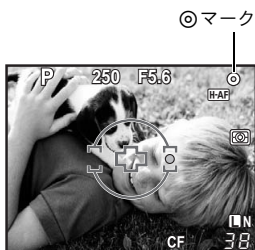
1 シャッターボタンを全押しします。

- ミラーダウンしてピント合わせを行い、撮影します。
- ピント合わせをしている間は、ミラーダウン直前の静止画が表示されます。
- ピントが合わないときはシャッター音はしますが、撮影されません。
- あらかじめピント合わせをして撮影する時は、**AEL/AFL** ボタンを押しながらシャッターボタンを押します。ピントが合うと合焦マークが点灯します。点滅したときはピントが合っていません。

[ハイブリッドAF]で撮る

1 シャッターボタンを半押しします。

- イメージャ AF が作動し、液晶モニタで被写体が確認できるようになります。
- イメージャAFによりおおよそのピントが合うと、◎マークが点灯します。

2 シャッターボタンを全押しします。

- **[全押し AF]** と同じ動作でピント合わせをして撮影されます。

ライブビュー中のAF動作

[イメージャ AF]

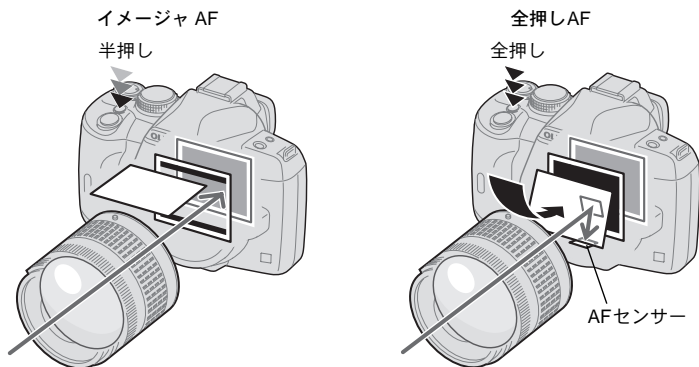
シャッターボタンを半押しすると、撮像素子を使ってAFが行われます。ピントを合わせるポイントが11点になり、被写体が画面中央から外れていてもピント合わせが可能になります。

[全押しAF]

シャッターボタンを全押しすると、通常のファインダ撮影と同じ方法でAFが行なわれて撮影されます（シャッターボタンを半押ししたときにはピント合わせを行いません）。

[ハイブリッドAF]

シャッターボタンを半押しすると、イメージャ AFによりおおよそのピント合わせを行い、液晶モニタで被写体が確認できるようになります。シャッターボタンを全押しすると、**[全押しAF]**と同じ動作でAFが行われます。シャッターボタンを半押ししたときにピント位置がおおよそ調整されているため、全押ししてから撮影されるまでの時間が短くなります。S-AF+MF撮影時には、シャッターボタンを半押しした状態から、液晶モニタを見ながらピントの微調整ができるので便利です。

AF中のカメラの状態

• 撮像素子によるピント合わせが行われます。

• ミラーが下がって AF センサーによるピント合わせが行われます（ミラーが下がっているので、液晶モニタの画面はシャッターボタンを全押しする直前の画像で止まったままになります）。

顔検出機能を使う

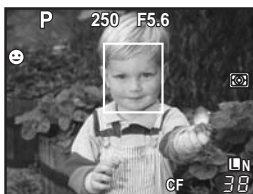
[☻顔検出]を[ON]にすると、画面の範囲内から人物の顔を検出し、ピント合わせや測光の調整を自動的に行います。

ダイレクトボタン	Fn（押すたびにON/OFFが切り換わります。）
スーパーコンパネ	OK ▶ ◎ ▶ [☻顔検出]
メニュー	MENU ▶ [ɣ1] ▶ [ɣD] ▶ [☻顔検出] ▶ [ON]

- Fnボタンを使うには、あらかじめメニューで[フェイス&バック]を設定しておく必要があります。☞「[Fn]ボタン機能」（P.101）
- Fnボタンを使って[☻顔検出]を[ON]に設定すると、以下の機能が人物撮影に最適な設定に自動的に切り換わります。

機能	設定	参照ページ
測光	[◉]	P.52
階調	オート	P.76
LV中AF	イメージャ AF	P.40
AF方式	S-AF ([:::])	P.57

1 カメラが顔を検出すると、その位置に枠が表示されます。

- シャッターボタンを押すと、検出された枠の位置でピントを合わせます（[AFターゲット選択]で1点を選択しているときは、その位置でピント合わせをします）。
- [全押しAF][ハイブリッドAF]では、表示された枠に一番近いAFターゲットの位置でピントを合わせます。

注意

- 連写中は最初の1コマのみ顔検出機能が働きます。
- 被写体によっては、顔が検出できないことがあります。

マニュアルフォーカスで撮る

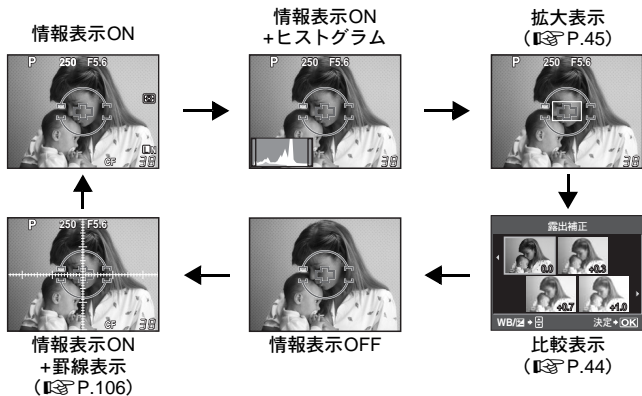
ライブビュー中は、液晶モニタでピントを確認しながらMF撮影できます。

1 AF方式を[S-AF+MF]または[MF]に設定します。☞「AF方式の選択」（P.57）

2 フォーカスリングを回してピントを合わせます。

- [S-AF+MF]ではシャッターボタン半押し、またはAEL/AFLボタンを押してAFを行い、その状態でフォーカスリングを回してピントを微調整して撮影できます。
- ピントを調整するときは、拡大表示を使うと便利です。☞「拡大表示の操作」（P.45）

情報表示を切り換える

INFOボタンを繰り返して押して、液晶モニタに表示される情報を切り換えることができます。

効果を比較しながら撮影する

4分割された画面上で露出補正またはホワイトバランスの効果を比較しながら撮影することができます。

1 INFOボタンを繰り返し押して、比較表示画面を表示します。

☞「情報表示を切り換える」(P.44)

- 露出補正の比較画面が表示されます。△を押すとホワイトバランスの比較画面になります。△▽を押して切り換えます。

2 ◁▷またはコントロールダイヤルで設定値を選択し、ⓞボタンを押します。

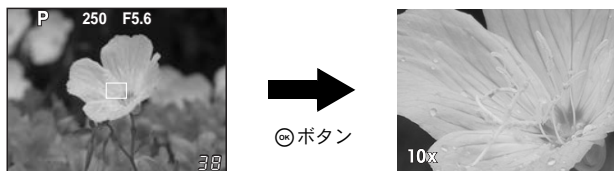
- 選択した設定値で、撮影できる状態になります。

注意

- **M**モードでは露出補正の設定はできません。
- SCENEモードではこの機能は使用できません。

拡大表示の操作

被写体を拡大して、液晶モニタに表示することができます。MFで画像を拡大してピントの確認や調整をするのに便利です。

Ⓞボタン

1 INFOボタンを繰り返し押して、拡大表示画面を表示します。

☞「情報表示を切り換える」(P.44)

• 拡大枠が表示されます。

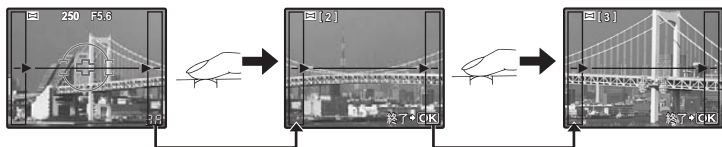
2 ✥で枠を移動し、Ⓞボタンを押します。

• 枠の部分が拡大表示されます。
• Ⓞボタンを長押しすると、移動した拡大枠は中央に戻ります。

3 コントロールダイヤルを回して、倍率（7倍／10倍）を切り換えます。

• Ⓞボタンを押すと、拡大表示は解除されます。
• 拡大表示中は、シャッターボタンを全押ししてもAFは作動しません。拡大表示でピントを確認した位置で撮影ができます。

パノラマ撮影

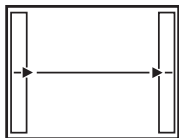
OLYMPUS製のxD-ピクチャーカードを使って、パノラマ撮影を簡単に楽しむことができます。被写体の端が重なるように撮影した何枚かの画像を、OLYMPUS Master（付属のCD-ROM）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。
最大10枚までパノラマ撮影が可能です。

- 重なり合う画像の共通部分には、できるだけ目印となる被写体を入れて撮影してください。

1 モードを設定します。**☞「シーンモードの種類」（P.5）**

- ライブビューに切り換わります。

2 ◎でつなげる方向を指定し、被写体の端が重なるように撮影します。

▷：次の画像を右につなげます。
◁：次の画像を左につなげます。
△：次の画像を上につなげます。
▽：次の画像を下につなげます。

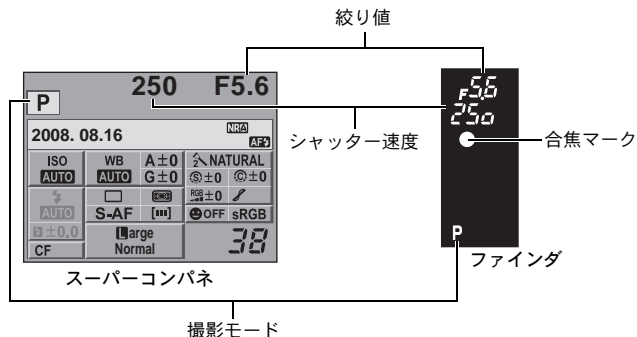
- 被写体が重なるように構図を変えながら撮影します。
- ピント、露出などは1枚目で決定されます。
- 10枚撮り終わると ✋（警告）マークが表示されます。
- 1コマ目の撮影前にⓄボタンを押すと、シーンモードの選択メニューに戻ります。
- 撮影の途中で Ⓞ ボタンを押すと、一連のパノラマ撮影を終了し、続けて次のパノラマ撮影ができます。

❗ 注意

- OLYMPUS製のxD-ピクチャーカードをカメラにセットしていないときは、パノラマ撮影はできません。
- パノラマ撮影時には、前に撮影した位置合わせ用の画像は残りません。画像に表示される枠や目印となる被写体を目安に、重なり合う画像の端が枠の中に重なるように構図を設定してください。

プログラム撮影 P

被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定する自動露出モードです。

モードダイヤルをPにします。

• シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度と絞り値がファインダに表示されます。シャッターボタンから指を離すと、スーパーコンパネにシャッター速度と絞り値が表示されます。

プログラムシフト（Ps）

Pモードのときコントロールダイヤルを回すと、適正露出を維持したまま、絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更できます（プログラムシフト）。

☞「プログラム線図（Pモード）」（P.141）

• プログラムシフトは、撮影した後でも解除されません。解除するには、ファインダやスーパーコンパネの撮影モード表示Psが、Pに変わるまでコントロールダイヤルを回します。または、カメラの電源を一度切ります。
• フラッシュ使用時は、プログラムシフトはできません。

こんなときは

シャッター速度と絞り値が点滅している：

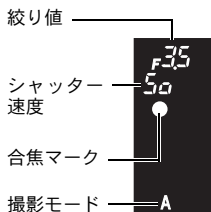
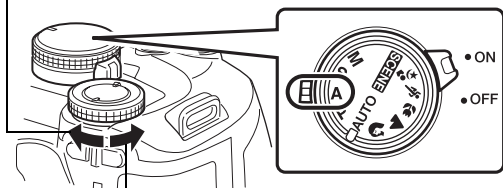
→適正露出が得られません。詳しくは「露出警告表示」（☞P.142）をご覧ください。

絞り優先撮影 A

絞り値を設定すると、カメラが適正なシャッター速度を自動的に設定するオート露出モードです。絞りを開く（絞り値の数値を小さくする）ほど、ピントの合う範囲（被写界深度）が狭くなり、背景のボケが強くなります。絞りを絞る（絞り値の数値を大きくする）ほど、ピントの合う範囲が前後に広くなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。背景のボケ具合は、プレビュー機能で確認することができます。☞「プレビュー機能」（P.52）

絞り値（F値）を小さくしたとき

絞り値（F値）を大きくしたとき

モードダイヤルをAにし、コントロールダイヤルを回して絞り値を設定します。

絞りを開きます（F値を小さくする）

絞りを絞ります（F値を大きくする）

こんなときは

設定した絞り値での被写界深度を確認したい：

→「プレビュー機能」（☞P.52）をご覧ください。

露出の調整間隔を変更したい：

→1/3EV、1/2EV、1EVステップに変更できます。☞「露出ステップ」（P.106）

シャッター速度が点滅している：

→適正露出が得られません。詳しくは「露出警告表示」（☞P.142）をご覧ください。

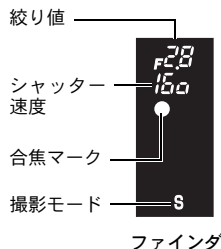
シャッター優先撮影 S

シャッター速度を設定すると、カメラが適正な絞り値を自動的に設定するオート露出モードです。シャッター速度を速くして動きの中の一瞬をとらえたり、シャッター速度を遅くして躍動感を表現することができます。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。

シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体でも止まっているように撮影されます。

シャッター速度を遅くすると、動いているものはぶれて撮影されます。このぶれが躍動感や動きのある仕上がりになります。

モードダイヤルをSにし、コントロールダイヤルを回して、シャッター速度を設定します。

ファインダ

シャッター速度が速くなります

こんなときは

画像がぶれる：

→近接撮影や超望遠撮影では、画像がぶれやすくなります。シャッター速度をより速く設定するか、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

→シャッター速度が遅いときには手ぶれしやすくなります。手ぶれ補正を使って手ぶれを抑えることができます。☞「手ぶれ補正」（P.67）

露出の調整間隔を変更したい：

→1/3EV、1/2EV、1EVステップに変更できます。☞「露出ステップ」（P.106）

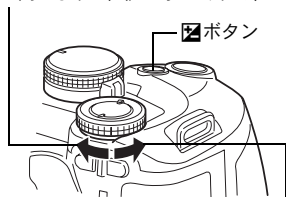
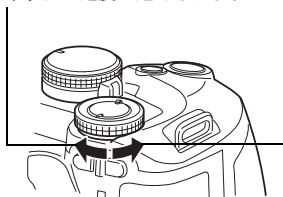
絞り値が点滅している：

→適正露出が得られません。詳しくは「露出警告表示」（☞P.142）をご覧ください。

マニュアル撮影 M

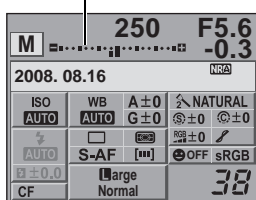
絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出との差は露出レベルインジケータで確認できます。このモードでは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。

モードダイヤルをMにし、コントロールダイヤルを回して設定します。

- シャッター速度 ： コントロールダイヤルを回して設定します。
  絞り値 ： ボタンを押しながら、コントロールダイヤルを回して設定します。
- 絞りの設定範囲はレンズにより異なります。
- シャッター速度は1/4000～60秒および**[BULB]**（バルブ）に設定できます。

- **M** モードではスーパーコンパネに露出レベルインジケータが表示されます。設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が、-3EV～+3EVの範囲で表示されます。±3EVを超える場合は、インジケータの左右端に赤い◀▶が表示されます。

露出アンダー

露出オーバー

適正露出

画像のノイズについて

長秒時の撮影では、画面にノイズが多く発生する場合があります。これは撮像素子の温度上昇や、撮像素子内部の駆動回路が熱源となり、本来撮像素子に光のあたっていない部分にも電流を発生させてしまうためです。この現象は、高温の環境でISO感度を上げたり、長秒時の露出で顕著に現れます。これらのノイズを軽減するために、このカメラは長秒時ノイズ低減が働きます。

☞「長秒時ノイズ低減」（P.77）

こんなときは

画像がぶれる：

→シャッター速度を遅くして撮影するときは、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

→シャッター速度が遅いときには手ぶれしやすくなります。手ぶれ補正を使って手ぶれを抑えることができます。☞「手ぶれ補正」(P.67)

露出の調整間隔を変更したい：

→1/3EV、1/2EV、1EVステップに変更できます。☞「露出ステップ」(P.106)

シャッター速度と絞り値の設定操作を入れ換えたい：

→コントロールダイヤルだけで絞り値の操作ができるようになります。☞「ダイヤル機能」(P.100)

注意

- **M**モードでは、露出補正はできません。

バルブ撮影

シャッターボタンを押している間露光し続けるバルブ撮影を行います。
別売のリモコン（RM-1）を使ってバルブ撮影することもできます。☞「リモコンによるバルブ撮影」(P.66)

Mモードでシャッター速度を[BULB]に設定します。

- ファインダに**[buLb]**、スーパーコンパネに**[BULB]**と表示されます。

こんなときは

一定時間経過後、バルブ撮影が自動で終了するようにしたい：

→バルブ撮影の最長時間を設定できます。☞「BULBリミッター」(P.106)

MFで撮影中にピントが動かないようにしたい：

→露光中にフォーカスリングを回してもピントが動かないようにすることができます。☞「BULB中MF」(P.99)

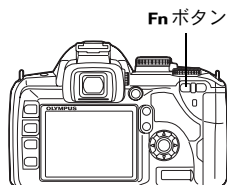
注意

- バルブ撮影中は、以下の機能は使用できません。
  連写／セルフタイマー撮影／AEブラケット撮影／手ぶれ補正／フラッシュブラケット

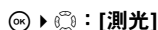
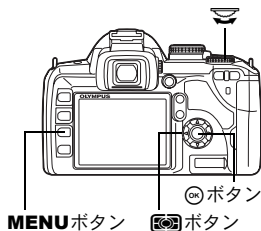
プレビュー機能

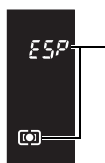
実際に絞りを動作させて、設定されている絞り値まで絞りこみ、ピントの合っている範囲（被写界深度）をファインダで確認することができます。
Fn ボタンを押してプレビュー機能が働くように、あらかじめメニューで Fn ボタンの機能を設定しておく必要があります。
☞「Fn ボタン機能」（P.101）

Fn ボタンを押すと、設定された絞り値まで絞り込まれます。

- **[Fn ボタン機能]**を**[ライブプレビュー]**に設定しているときには、Fn ボタンを押すと自動的にライブビューになり、液晶モニタで確認することができます。

測光方式の変更

このカメラはデジタルESP測光、中央重点平均測光、スポット測光など5つの測光方式を備えています。撮影するシーンに応じて選択してください。

ダイレクトボタン	▶
スーパーコンパネ	▶ ：**[測光]**
メニュー	**MENU ▶ [2] ▶ [測光]**

設定中の表示

- ボタンを押して設定している間は、ファインダ内で設定値を確認できます。

ファインダ

ESP ：デジタルESP測光
：中央重点平均測光
：スポット測光
HI ：スポット測光 ハイライトコントロール
SH ：スポット測光 シャドウコントロール

デジタルESP測光

画面を49分割測光し、それぞれの輝度、輝度差などを考慮して露出を演算します。通常はこのモードをおすすめします。AF連動機能を**[AF連動ON]**にすると、AFでピントを合わせたAFターゲットを中心に測光するパターンが稼動します。

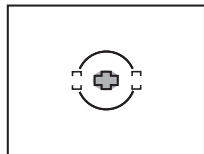
中央重点平均測光

画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。
周辺部の輝度を露出に影響させたくないときに使います。

スポット測光

画面中央の狭い範囲を測光します。デジタルESP測光で補正しきれないような強い逆光シーンなどに適しています。

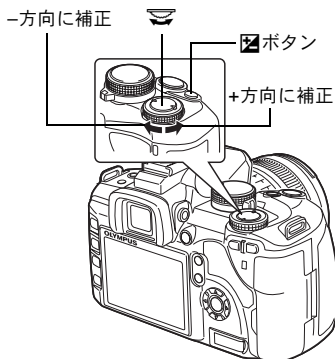
HI スポット測光ハイライトコントロール

測光したポイントの露出がオーバーになるように設定します。白い被写体を白く表現したいときに使います。
測光範囲はスポット測光と同じです。

：測光範囲

SH スポット測光シャドウコントロール

測光したポイントの露出がアンダーになるように設定します。黒い被写体を黒く表現したいときに使います。測光範囲はスポット測光と同じです。

露出補正

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、+に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に–に補正すると効果的です。露出は±5.0EVの範囲で補正できます。

• 露出インジケータが表示されます。露出補正が0のときは、露出インジケータは表示されません。

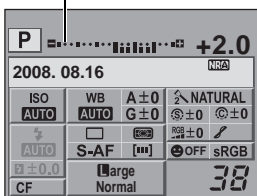
1/3EVステップの場合

1/3 EV

1/2EVステップの場合

1/2 EV

露出インジケータ

P +2.0
2008. 08.16
ISO AUTO
WB AUTO A±0 G±0
NATURAL ±0 ±0
AUTO ±0
S-AF
±0.0
OFF sRGB
CF
Large Normal
38

• 補正範囲が露出補正インジケータをオーバーしているとき、インジケータの左右端に赤い◀▶が表示されます。

こんなときは

露出の調整間隔を変更したい：

→1/3EV、1/2EV、1EVステップに変更できます。☞「露出ステップ」（P.106）

コントロールダイヤルの操作だけで露出補正をしたい：

→ボタンを押さないで露出補正が設定できるようにできます。☞「ダイヤル機能」（P.100）

注意

• **M**、SCENEモードでは、露出補正はできません。

AEロック AEL

AEL/AFLボタンを使用すると、測光して検出した露出値を固定（AEロック）できます。露出を撮影する構図とは別に決めたいときに使います。
通常は、シャッターボタンの半押しでAF（ピント）とAE（露出値）の両方が固定されますが、**AEL/AFL**ボタンを押して露出のみを固定することができます。

測光値を固定したいところでAEL/AFLボタンを押すと、露出が固定されます。AEL/AFLボタンを押している間は露出が固定されるので、そのままシャッターボタンを押します。

• **AEL/AFL**ボタンを離すと、AEロックが解除されます。

ファインダ

こんなときは

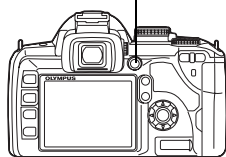
露出を固定したい：

→**AEL/AFL** ボタンから指を離しても、測光した状態を固定することもできます。☞「AEL/AFL MEMO」（P.101）

AEL/AFLボタンとシャッターボタンを同時に押しにくい：

→**AEL/AFL** ボタンと **Fn** ボタンの機能を交換することができます。☞「AEL/AFL⇌Fn」（P.103）

決まった測光方式でAEロックしたい：

→AE ロックで露出を固定するときの測光方式を設定しておくことができます。☞「AEL測光モード」（P.106）

AEブラケット撮影

1コマごとに自動的に露出を変えて撮影します。露出をどの程度変化させるか（露出量と補正ステップ）を設定できるので、逆光や夕景などの適正露出を得にくい条件や露出補正量に迷ったときでも、気に入った一枚を残すことができます。適正～−補正～+補正の順に撮影されます。

例）BKT設定が**[3F 1.0EV]**の場合

-1.0EV

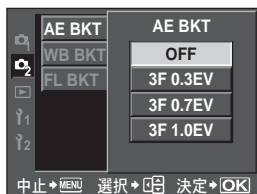
±0

+1.0EV

補正量：0.3・0.7・1.0

• 補正量は露出ステップを変更すると変わります。☞「露出ステップ」（P.106）

撮影枚数：3枚

メニュー **MENU ▸ [📷2] ▸ [AE BKT]**

撮影します。

• 単写モードでは、シャッターボタンを全押しするごとに、露出を変えて撮影します。
• 連写モードでは、設定した撮影枚数を撮り終えるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。
• シャッターボタンから指を離すと、ブラケット撮影が一時中断されます。一時中断したときは、スーパーコンパネに**BKT**が緑で表示されます。

ファインダ

撮影モードによる補正の方法

設定している撮影モードによって、AEブラケット撮影で補正される方法が異なります。

Pモード：絞り値とシャッター速度
Aモード：シャッター速度
Sモード：絞り値
Mモード：シャッター速度

こんなときは

補正した露出を中心にAEブラケット撮影をしたい：

→露出補正値を設定した状態で、AEブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心としてAEブラケット撮影が行われます。

ISO感度の設定 ISO

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところでの撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれ画像が粗くなります。

ダイレクトボタン ISO ▶ ダイヤル

スーパーコンパネ OK ▶ 十字ボタン：[ISO感度]

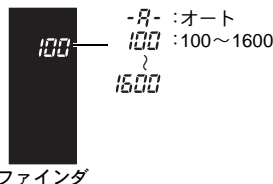
メニュー MENU ▶ [撮影1] ▶ [ISO感度]

[オート]　：撮影状況に応じて自動的に感度が変わります。ISOオート設定で、上限値（自動的に変わる感度の上限値）を設定できます。☞「ISOオート設定」（P.106）

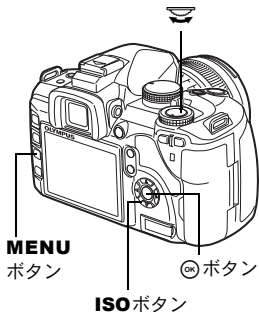
[100～1600]：ISO感度を固定します。

設定中の表示

- **ISO**ボタンを押して設定している間は、ファインダ内で設定値を確認できます。

ファインダ

こんなときは

Mモードでも自動的に適正ISOになるようにしたい：

→通常、**M**モードではオートの設定は使用できませんが、すべての撮影モードで使えるようにできます。☞「ISOオート有効」（P.106）

AF方式の選択 AF

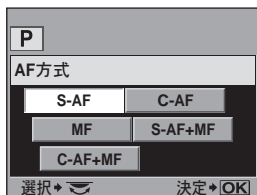
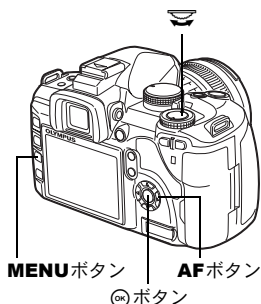
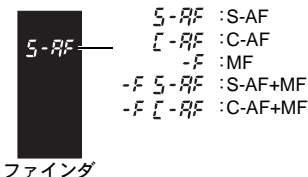
フォーカスモードにはS-AF、C-AF、MFの3つのモードがあります。
S-AFとMF、C-AFとMFを組み合わせて撮影することもできます。

ダイレクトボタン **AF** ▸ ダイヤル

スーパーコンパネ OK ▸ 十字ボタン：**[AF方式]**

メニュー **MENU** ▸ [カメラ2] ▸ **[AF方式]**

設定中の表示

• **AF**ボタンを押して設定している間は、ファインダ内で設定値を確認できます。

S-AF（シングルAF）

シャッターボタンを半押ししたときに1回のピント合わせ動作をします。
ピントがうまく合わなかったときは、シャッターボタンを離してもう一度半押ししてください。静物や動きの激しくない被写体を撮影するのに適しています。

シャッターボタンを半押しします。

• ピントが固定され、ファインダ内の合焦マークが点灯します。
• ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。

こんなときは

暗い場所だとAFではピントを合わせにくい：

→内蔵フラッシュをAFイルミネータとして機能させると、AFではピントが合わせにくい暗いところでもピントが合いやすくなります。☞「AFイルミネータ」（P.99）

AF方式をすばやくMFモードに切り換えたい：

→ **Fn** ボタンに **[MF切換]** を登録すると、**Fn** ボタンを押すだけでMFモードに切り換えられます。☞「Fn ボタン機能」（P.101）

ピントが合わない状態でも撮影できるようにしたい：

→「レリーズ優先S、レリーズ優先C」（☞P.104）をご覧ください。

C-AF（コンティニュアスAF）

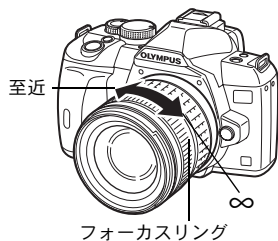
シャッターボタンを半押ししている間、ピント合わせの動作を繰り返します。被写体が動いている場合は、予測してピントを合わせます（動体予測）。撮影距離が絶えず変化する被写体の撮影に適しています。

シャッターボタンを半押しし続けます。

- 被写体にピントが合い、固定されると、ファインダに合焦マークが点灯します。
- ピントが合ってもAFターゲットは点灯しません。
- カメラはピント合わせの動作を繰り返し、被写体が移動したり構図を変えても、ピントを追います。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。3回目のAFからは、ピントが合っても音はしません。

MF（マニュアルフォーカス）

任意の位置に手動でピントを合わせることができます。

フォーカスリングを使って、ピントを合わせます。

こんなときは

フォーカスリングの回転方向を変えたい：

→フォーカスリングの回転方向を選択し、ピントの移動方向を切り換えることができます。☞「フォーカスリング」（P.99）

ピントが合っているか知りたい（フォーカスエイド）：

→フォーカスリングを回してピントが合うと、合焦マークが点灯します。**[AFターゲット選択]** で **[▪▪▪]** を設定している場合は、中央のAFターゲットでのピントが選択されます。

S-AFモードとMFモードの併用（S-AF+MF）

S-AFモードでAFした後に、フォーカスリングを回してマニュアル操作でピントを微調整できます。
• シャッターボタンを半押ししてAFが合ったら、フォーカスリングを回してピントの微調整をします。

注意
• フォーカスリングで微調整した後でシャッターボタンを押しなおすと、AF が作動し、微調整はキャンセルされます。

C-AFモードとMFモードの併用（C-AF+MF）

あらかじめフォーカスリングでピント合わせをしておいて、シャッターボタンを半押しするとC-AFモードの動作をします。
• シャッターボタンを押している間は、MFは使用できません。
• シャッターボタンを押していないときは、MFでピント合わせできます。

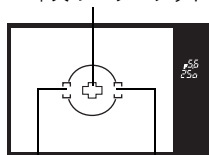
こんなときは

C-AFモードでも手動でピントの微調整をしたい：
→**AEL/AFL**ボタンで手動でC-AFが動作するように設定できます。☞「AEL/AFLモード」（P.100）

注意
• フォーカスリングで微調整した後でシャッターボタンを押しなおすと、AF が作動し、微調整はキャンセルされます。

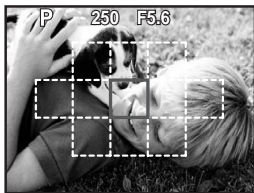
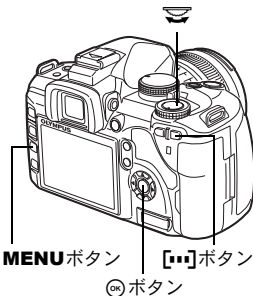
AFターゲット選択 [···]

このカメラは、オートフォーカスで被写体にピントを合わせるためのAFターゲットが3点あります。1点のAFターゲットだけを選択することもできます。
[LV中AF]を**[イメージャAF]**に設定すると、ライブビュー中のAFターゲットは11点になります。☞「ライブビュー撮影する」（P.40）

[オート]または**[···]**
　3点のAFターゲットを使ってピントを合わせます。
[▪　] 左の AF ターゲットを使ってピントを合わせます。
[▪] 中央の AF ターゲットを使ってピントを合わせます。
[　▪] 右の AF ターゲットを使ってピントを合わせます。

ダイレクトボタン　[···] ▶ ダイヤル

スーパーコンパネ　OK ▶ 十字ボタン：[AFターゲット選択]

メニュー　MENU ▶ [撮影2] ▶ [AFターゲット選択]

- **[イメージャ AF]** 設定時の AF ターゲット選択は、**[···]**ボタンまたはスーパーコンパネで可能です。コントロールダイヤルを回してAFターゲットを選択します。

[イメージャ AF]に設定してAFターゲットを選択する場合

AFターゲットの位置を登録する

よく使うAFターゲットの位置を登録しておくことができます。登録した状態（ホームポジションと呼びます）を瞬時に呼び出して撮影することができます。

登録する

1 AFターゲットの選択中に、Fnボタンと[±]ボタンを同時に押します。

- ボタンを押したときの状態でホームポジションが登録されます。
- メニューから操作した場合はホームポジションの登録はできません。

登録中であることを示します。

撮影する

この機能を使うには、あらかじめFnボタンに[[▪▪▪] HOME]機能を割り当てておきます。☞「Fnボタン機能」（P.101）

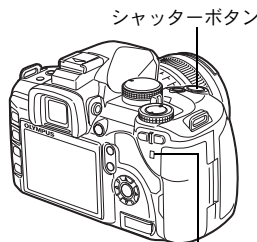
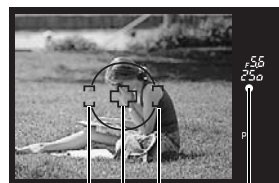
1 Fnボタンを押します。

- 登録したホームポジションになります。再度押すと、元の位置に戻ります。

フォーカスロック―ピントが合わないとき

被写体が画面中央にないときなど、オートフォーカスではピントが合わないことがあります。このような場合の簡単な対処方法にフォーカスロックがあります。被写体がAFターゲットから外れる構図のときやオートフォーカスが苦手な被写体で使用します。

1 ピントを合わせたいものに AF ターゲットを合わせ、シャッターボタンを合焦マークが点灯するまで半押しします。

- ピントが固定されます。合焦マークと、ピントの合ったAFターゲットがファインダで点灯します。
- 合焦マークが点滅したときは、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- シャッターボタンを操作している間は、スーパーコンパネが消えます。

例）中央の AF ターゲットでピント合わせをする場合

2 半押しした状態のまま、撮影したい構図に移し全押しします。

- カードアクセスランプが点滅し、画像がカードに記録されます。

被写体のコントラストが弱いとき

明るさが不足している、霧などで被写体がはっきり見えないなど、被写体のコントラストが弱い場合はピントが合わないことがあります。被写体と等距離でコントラストのはっきりしたものでフォーカスロックし、そのまま構図を決めて撮影してください。

連写

単写□　一度のシャッターボタンの全押しで、1コマだけ撮影されます（通常の撮影モード、1コマ撮影）。

連写　シャッターボタンを押している間、約3.5コマ／秒で連続撮影できます（JPEG時）。

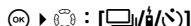
- 連写のときは、シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指を離すと連写は止まります。
- ピント･露出･ホワイトバランスは、最初の1コマで固定されます（S-AF、MF時）。

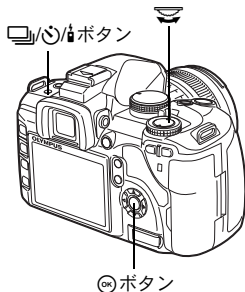
注意

- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

設定方法

ダイレクトボタン

スーパーコンパネ

設定中の表示

- ボタンを押して設定している間は、ファインダ内で設定値を確認できます。

- 低振動モードの表示（P.66）：
スーパーコンパネでは、アイコンの隣にマークが表示されて、低振動モードであることを示します。

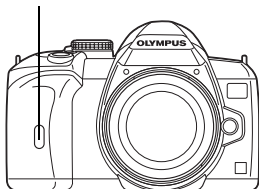
5

ピント合わせ／撮影機能

セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから、12秒後にシャッターが切れるセルフタイマーと、2秒後にシャッターが切れるセルフタイマーがあります。セルフタイマー撮影の際は、カメラを三脚にしっかりと固定してください。
設定方法は「連写」（☞P.63）をご覧ください。

シャッターボタンを全押しします。

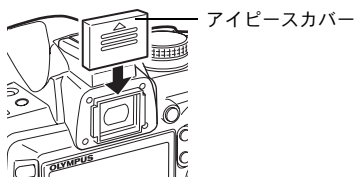
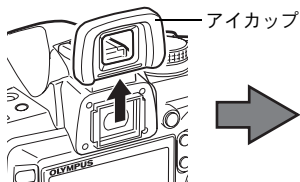
- **12s**の場合：セルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、撮影されます。
- **2s**の場合　：セルフタイマーランプが約 2 秒間点滅した後、撮影されます。
- 作動中のセルフタイマーを中止するには、ボタンを押します。

注意

- カメラの前でシャッターボタンを押さないでください。ピント合わせはシャッターボタンを半押ししたときに行われるので、カメラの前に立ってシャッターボタンを押すとピントがぼける原因になります。

アイピースカバー

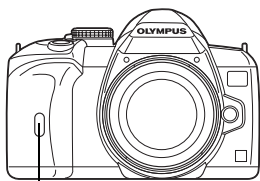
ファインダから顔を離して撮影するときは、ファインダから入る光で露出が変らないように、アイピースカバーをファインダに取り付けます。アイカップを図のように外してからアイピースカバーを取り付けてください。別売のアイカップに交換するときも同様に取り付けてください。

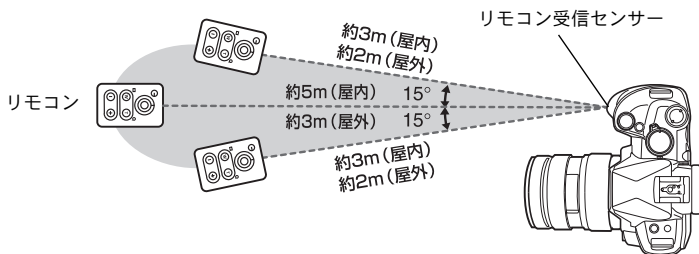
5

ピント合わせ／撮影機能

リモコン撮影

別売のリモコン（RM-1）を使って撮影します。記念写真を撮るときや、夜景撮影など、カメラに触れないでシャッターを切りたい場合に便利です。
リモコンのシャッターボタンを押して、すぐにシャッターが切れるモードと2秒後にシャッターが切れるモード（2秒タイマー）の2つがあります。またリモコンバルブ撮影も可能です。
設定方法は「連写」（☞P.63）をご覧ください。

カメラを三脚などでしっかりと固定し、リモコンをカメラのリモコン受信センサーに向け、リモコンのシャッターボタンを押します。

- **0s**の場合　：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅して、シャッターが切れます。
- **2s**の場合　：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅し、約2秒後にシャッターが切れます。

<u>**リモコンの有効範囲**</u>

リモコンは、有効範囲の中でカメラに向けて使ってください。
リモコン受信センサーに太陽などの強い光があたっていたり、蛍光灯やネオンランプが近くにあるときは、リモコンの有効範囲が狭くなり、受信しにくくなることがあります。

5
ピント合わせ／撮影機能

こんなときは

リモコンのシャッターボタンを押してもリモコンランプが点滅しない：

→リモコン受光部に強い光があたっているので、リモコン信号が届いていません。カメラに近付いて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

→カメラから離れすぎているため、リモコン信号が届いていません。カメラに近づいて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

→リモコン信号が混信しています。リモコンの取扱説明書にしたがってチャンネルを変えてください。

リモコンモードを解除したい：

→リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。□/◌/▯ボタンを押して、**[□]**（単写）などに設定してください。

カメラのシャッターボタンを使って撮影したい：

→リモコンモードでも、カメラのシャッターボタンを押すと、シャッターを切ることができます。

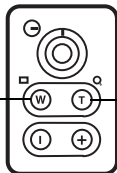
注意

- ピントが合わないときは、シャッターが切れません。
- 明るいときは、リモコンランプの点滅が見えにくくなり、撮影されたのかどうか確認できないことがあります。
- リモコンを使ってのズーム操作はできません。

リモコンによるバルブ撮影

モードダイヤルを**M**にセットし、シャッター速度を**[BULB]**に設定します。

☞「バルブ撮影」（P.51）

Wボタンを押すとシャッターが開きます。
「BULBリミッター」（☞P.106）で設定した時間が経過すると、自動的にシャッターが閉じます。

Tボタンを押すとシャッターが閉じます。

低振動モード

ミラーアップ後、少し時間を空けてシャッターが切れるように設定できます。カメラぶれを最小限に抑えた撮影をすることができます。顕微鏡撮影や超望遠レンズでの撮影など、ミラーアップのショックが気になる場面で使います。

1. **MENU ▸ [◘₂] ▸ [低振動モード [◆]]**
2. **ミラーアップ後から撮影されるまでの時間を1～30秒から選択し、Ⓞボタンを押します。**
3. **撮影機能（単写／連写／セルフタイマー撮影／リモコン撮影）に低振動モードがそれぞれ追加されます。設定方法は「連写」（☞P.63）をご覧ください。**

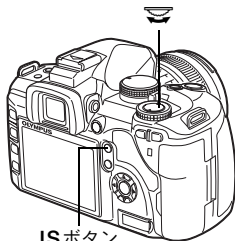
手ぶれ補正 IS

被写体が暗い場面や、高倍率撮影などで起きやすい手ぶれを抑えることができます。

OFF　手ぶれを補正しません。
I.S. 1　手ぶれを補正します。
I.S. 2　カメラの横方向の流し撮りをするときに使います。横方向の手ぶれ補正機能を停止し、縦方向の手ぶれのみ補正します。
I.S. 3　カメラの縦方向の流し撮りをするときに使います。縦方向の手ぶれ補正機能を停止し、横方向の手ぶれのみ補正します。

ダイレクトボタン　IS ▶

ファインダ

手ぶれ補正を設定すると表示されます。

ISボタン

焦点距離の設定について
レンズの焦点距離をあらかじめ設定することで、フォーサーズシステム以外のレンズでも手ぶれ補正機能を使うことができます。フォーサーズシステムレンズ装着時は、この設定は無効です。

1　[手ぶれ補正]画面で ボタンを押します。
2　コントロールダイヤルまたは で焦点距離を設定し、 を押します。

設定可能な焦点距離

8mm	10mm	12mm	16mm	18mm	21mm	24mm	28mm	30mm	35mm
40mm	48mm	50mm	55mm	65mm	70mm	75mm	80mm	85mm	90mm
100mm	105mm	120mm	135mm	150mm	180mm	200mm	210mm	250mm	300mm
350mm	400mm	500mm	600mm	800mm	1000mm				

- ご使用のレンズの焦点距離が表にない場合は、最も近い値を選択してください。

手ぶれ補正効果をライブビューで確認する

緑色：手ぶれ補正機能起動中
赤色：手ぶれ補正機能エラー

ライブビュー中に**IS**ボタンを押している間は、設定している手ぶれ補正の効果を液晶モニタで確認できます。その状態でシャッターボタンを全押しして、撮影することもできます。

- **[手ぶれ補正]**を**[OFF]**に設定していても、**IS**ボタンを押している間は**[I.S. 1]**が働きます。
- **IS**ボタンから指を離すか、または押したまま数秒間経過すると、手ぶれ補正機能は停止します。

注意

- 手ぶれが大きすぎるときやシャッター速度が極端に遅い場合、手ぶれが補正しきれないことがあります。このときは三脚を使用して撮影してください。
- 三脚使用時は**[手ぶれ補正]**を**[OFF]**に設定してください。
- 手ぶれ補正機能付きのレンズを使用している場合は、レンズまたはカメラのいずれかの手ぶれ補正機能をオフにしてください。
- 手ぶれ補正を**[I.S.1]**／**[I.S.2]**／**[I.S.3]**に設定している場合、電源を切ったときにカメラが振動します。これは手ぶれ補正機構の初期化動作で、この動作を行わないと、適正な補正効果が得られない場合があります。
- 液晶モニタの手ぶれ補正アイコンが赤く点灯したときは、手ぶれ補正機能の故障です。その状態で撮影すると、構図がずれることがあります。当社修理センターまたはサービスステーションにご相談ください。

画質モードの選択

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードを選択します。

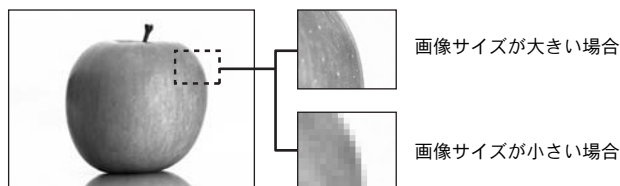
記録形式

JPEG

JPEG形式の画像では、画像サイズ（L、M、S）と圧縮率（SF、F、N、B）の組み合わせを選択します。画像はピクセル（点）の集まりでできていて、ピクセル数が少ない画像を拡大するとモザイク状に表示されます。ピクセル数が多い画像は1枚の画像のファイルサイズ（データの量）が大きくなり、カードに記録できる枚数が少なくなります。また圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画像を表示したときに粗く見えます。

画像サイズが大きい場合

画像サイズが小さい場合

画像が精細になる ←

画像サイズが大きくなる ↑

<table>
<tr><th rowspan="2">用途</th><th rowspan="2">画像サイズ</th><th rowspan="2">ピクセルサイズ</th><th colspan="4">圧縮率</th></tr>
<tr><th>SF (Super Fine) 1/2.7</th><th>F (Fine) 1/4</th><th>N (Normal) 1/8</th><th>B (Basic) 1/12</th></tr>
<tr><td rowspan="6">プリントサイズに合わせて選択</td><td>L (Large)</td><td>3648 × 2736</td><td>LSF</td><td>LF</td><td>LN</td><td>LB</td></tr>
<tr><td rowspan="3">M (Middle)</td><td>3200 × 2400</td><td rowspan="3">MSF</td><td rowspan="3">MF</td><td rowspan="3">MN</td><td rowspan="3">MB</td></tr>
<tr><td>2560 × 1920</td></tr>
<tr><td>1600 × 1200</td></tr>
<tr><td rowspan="3">S (Small)</td><td>1280 × 960</td><td rowspan="3">SSF</td><td rowspan="3">SF</td><td rowspan="3">SN</td><td rowspan="3">SB</td></tr>
<tr><td>1024 × 768</td></tr>
<tr><td>小さいプリントやホームページ用</td><td>640 × 480</td></tr>
</table>

RAW

ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない未加工のデータです。パソコンで画像として表示するには、OLYMPUS Masterを使います。他のカメラで再生したり、一般のソフトウェアでの表示、プリント予約はできません。
画質モードをRAWデータに設定して撮影した画像をこのカメラで編集することができます。☞「画像編集」（P.94）

画質モードの設定方法

JPEG

JPEGは3種類の画像サイズ（L、M、S)と4種類の圧縮率（SF、F、N、B）を組み合わせた12通りの設定から4通りを登録して使います。☞「画質設定」（P.108）
画像サイズM、Sは、さらにピクセルサイズを変えることができます。
☞「ピクセルサイズ」（P.108）

RAW+JPEG

1回の撮影でJPEGとRAWの2種類の画像を同時に記録します。

RAW

RAW形式で画像を記録します。

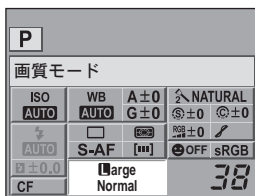
例）LF／LN／MN／SNを登録した場合に使用できる9つの画質モード
RAW　　　　：RAW
JPEG　　　 ：LF／LN／MN／SN
RAW+JPEG：RAW+LF／RAW+LN／RAW+MN／RAW+SN

OK ▶ ⊕：[画質モード]

MENU ▶ [📷1] ▶ [画質モード]

こんなときは

画質モードをすばやく設定したい：
→ Fnボタンに[RAW◀:-]を設定すると、Fnボタンを押しながらコントロールダイヤルを回して画質モードを切り換えられるようになります。
Fnボタンを押すたびにRAWデータを同時に記録するかどうかを切り換えられます。☞「Fnボタン機能」（P.101）

各画質モードでのファイル容量、撮影枚数が知りたい：
→「画質モードとファイル容量、撮影可能枚数」（☞P.145）

ホワイトバランスの選択

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているときと、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。デジタルカメラでは、デジタル演算処理により白が白らしくなるように調節します。これをホワイトバランスといいます。ホワイトバランスには、4つの設定があります。

オートホワイトバランス ［オート］
自動的に画像の白い部分を判断して全体の色のバランスを調節します。通常はこのモードをお使いください。

プリセットホワイトバランス ［☀］［⌂］［☁］［電球］［蛍光灯1］［蛍光灯2］［蛍光灯3］［WB⚡］
天気、電球・蛍光灯、フラッシュ別に8種類の色温度がプリセットされています。夕焼けをより赤く撮りたいときや暖かみのある電球色を表現したいときなどにはプリセットホワイトバランスで撮影してください。

カスタムホワイトバランス ［CWB］
2000K～14000Kの範囲で色温度を設定して使用します。色温度については「ホワイトバランス色温度」（☞P.144）をご覧ください。
☞「オート／プリセット／カスタムホワイトバランスの設定」（P.72）

ワンタッチホワイトバランス ［ワンタッチ］
カメラを白紙などの白い物に向けて、ホワイトバランスを設定します。設定されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスの値の1つとしてカメラに記憶されます。
☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」（P.73）

WBモード	適した撮影シーン
オート	一般的なほとんどの撮影シーン（画面内に白に近い色が存在する撮影シーン）。通常はこのモードをお使いください。
☀ 5300K	晴天の日に屋外で撮るとき、夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき
⌂ 7500K	晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
☁ 6000K	曇天の日に屋外で撮るとき
電球 3000K	電球に照らされている被写体を撮るとき
蛍光灯1 4000K	白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
蛍光灯2 4500K	昼白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
蛍光灯3 6600K	昼光色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
WB⚡ 5500K	フラッシュ撮影のとき
ワンタッチ	ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度。 ☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」（P.73）
CWB	カスタムホワイトバランスで設定した色温度。2000K～14000Kの範囲で設定できます。未設定時は5400Kに設定されています。

オート／プリセット／カスタムホワイトバランスの設定　WB

ホワイトバランスを光源の色温度で選択します。

ダイレクトボタン　WB ▸ (ダイヤル)

スーパーコンパネ　(OK) ▸ (十字ボタン)：**[ホワイトバランス]**

• カスタムホワイトバランスは**[CWB]**を選び、(露出補正)ボタンを押しながらコントロールダイヤルを回して設定します。

メニュー　**MENU ▸ [撮影1] ▸ [WBモード]**

(ダイヤル)
(露出補正)ボタン
MENUボタン
WBボタン
(OK)ボタン

設定中の表示

• **WB**ボタンを押して設定している間は、ファインダ内で設定値を確認できます。

ファインダ

-A- :オートホワイトバランス
- - :(蛍光灯)1/(蛍光灯)2/(蛍光灯)3
c 1 :カスタムホワイトバランス
-0- :ワンタッチホワイトバランス

こんなときは

白くないものが白くなった：

→オートホワイトバランスでは、画面に白に近い色がまったくない場合は、正しいホワイトバランスが測定されないことがあります。プリセットホワイトバランスかワンタッチホワイトバランスを試してください。

WB補正

オートホワイトバランス、プリセットホワイトバランスそれぞれに、補正値を設定して微調整できます。

スーパーコンパネ　(OK) ▸ (十字ボタン)：**[WB補正]**

メニュー　**MENU ▸ [撮影1] ▸ [WBモード]**

• 補正したいホワイトバランスを選択し、(右ボタン)を押します。

A方向（赤-青）で補正する場合
現在のホワイトバランスの値に対し、+方向で赤味がかり、–方向で青味がかった画像になります。

G方向（緑-赤紫）で補正する場合
現在のホワイトバランスの値に対し、+方向で緑の色味が増し、–方向で赤紫がかった画像になります。
• それぞれ7段階の補正が可能です。

こんなときは

補正したホワイトバランスを確認したい：
→補正値を設定した後、試し撮りをするために被写体にカメラを向けます。**AEL/AFL** ボタンを押すと、設定したホワイトバランスの条件で撮影したサンプル画像が表示されます。

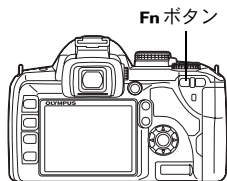
すべてのホワイトバランスモードを一括して補正したい：
→「全WBモード補正」（P.107）をご覧ください。

ワンタッチホワイトバランスの設定

プリセットホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いを設定します。撮影する光源で照らされた白い紙などにカメラを向けてホワイトバランスを測定することにより、実際の撮影状況に最適なホワイトバランスをカメラに記憶させることができます。自然光だけでなく、複数の異なる色温度の光源に照らされた被写体の撮影などに有効です。
あらかじめ**[Fnボタン機能]**を**[ワンタッチWB]**に設定しておきます。（P.101）

1 カメラを白い紙に向けます。
• 紙はファインダいっぱいになるように置き、影の部分ができないようにしてください。

2 Fn ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。
• ワンタッチホワイトバランス画面が表示されます。

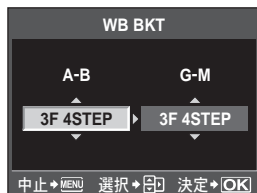
3 [実行]を選択して、OKボタンを押します。
• ホワイトバランスが登録されます。
• 登録されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスのひとつとして、カメラに記憶されます。電源を切っても消去されません。

こんなときは

シャッターボタンを押したら、[不適切なデータです 撮り直してください]と表示された：
→白い部分の面積が足りないとき、明るすぎるとき、暗すぎるとき、極端な色味がついているときは、ホワイトバランスは登録できません。絞り、シャッター速度などの撮影条件を変えて、再度、手順1からやりなおしてください。

WBブラケット撮影

1回の撮影から、1つの補正方向に対して色合い（ホワイトバランス）を変えた3枚の画像を自動的に作成します。カードには、カメラの設定で撮影された画像と、その画像から色合いを変更した画像が記録されます。

メニュー　**MENU ▸ [📷2] ▸ [WB BKT]**

- ◁▷で補正方向を選択し、△▽で補正ステップを設定します。
- 補正ステップはA-B（赤-青）方向、G-M（緑-赤紫）方向それぞれ**[OFF]**/**[3F 2STEP]**/**[3F 4STEP]**/**[3F 6STEP]**から選択します。
- 1回の撮影で、1つの補正方向に対して3コマの画像を作成します。

こんなときは

補正したホワイトバランスを中心にWBブラケット撮影をしたい：

→WB補正をした状態で、WBブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心としてWBブラケット撮影が行われます。

注意

- WBブラケット撮影では、カメラのメモリとカードに設定枚数以上の空きがないと、撮影ができません。

6

画質／色合い／仕上がり

仕上がり

画像の色調を、撮影目的に応じて選択することができます。また個別に、コントラストやシャープネスなどの画像パラメータを微調整することもできます。調整したパラメータは各仕上がり項目ごとに記録されます。

[VIVID]：色鮮やかに仕上げます。
[NATURAL]：自然な色合いに仕上げます。
[FLAT]：素材性を重視した仕上がりになります。
[PORTRAIT]：肌色をきれいに仕上げます。
[モノトーン]：モノクロ調に仕上げます。
[カスタム]：仕上がり項目の１つを選んで各パラメータを設定し、登録します。**[カスタム]**では階調の設定も登録しておくことができます。この設定は、メニューの**[階調]**とは別に設定されます。☞「階調」（P.76）

スーパーコンパネ　OK ▸ ：**[仕上がり]**

メニュー　**MENU ▸ [1] ▸ [仕上がり]**

各仕上がり項目に合わせて調整できるパラメータが分類されています。
それぞれのパラメータの内容は次の通りです。

[コントラスト]：明暗の差
[シャープネス]：鮮鋭さ
[彩度]：色の鮮やかさ
[フィルター効果]：フィルター色と同じ色を明るく、補色を暗くした白黒画像にします。
- **[N:無し]**：通常の白黒画像になります。
- **[Ye:黄]**：自然な青空にくっきりとした白い雲が再現されます。
- **[Or:オレンジ]**：青空らしさ･夕日の輝きが少し強調されます。
- **[R:赤]**：青空らしさ･紅葉の輝きがよりいっそう強調されます。
- **[G:緑]**：赤い唇･緑の葉がよりいっそう強調されます。

[調色]：白黒画像に色味をつけます。
- **[N:無し]**：通常の白黒画像になります。
- **[S:セピア]**：セピア
- **[B:青]**：青味
- **[P:紫]**：紫味
- **[G:緑]**：緑味

階調

標準階調以外に3種類の階調を選択できます。

[ハイキー]：明るい被写体に適した階調にします。
[ローキー]：暗い被写体に適した階調にします。
[オート]：画像を細かい領域にわけて部分的に明るさを補正します。黒つぶれ・白とびの起きやすい明暗差の大きい画像に有効です。
[標準]：通常は**[標準]**に設定してください。

ハイキー
ハイライト部の多い被写体に最適です。

ローキー
シャドウ部の多い被写体に最適です。

スーパーコンパネ　OK ▶ 十字ボタン：**[階調]**

メニュー　**MENU ▶ [撮影メニュー1] ▶ [階調]**

注意

- **[ハイキー]**、**[ローキー]**、**[オート]**の階調ではコントラスト調整は反映されません。

長秒時ノイズ低減

長時間露光時に発生するノイズを軽減します。夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。**[長秒時ノイズ低減]**では、カメラが自動的にノイズの軽減処理を行い、きれいな画像を撮影することができます。**[オート]**ではシャッター速度が遅い場合にこの機能が作動し、**[ON]**では常にノイズ低減処理が行われます。
長秒時ノイズ低減を行うと、撮影時間は通常の約2倍になります。

OFF

ON／オート

メニュー　**MENU ▸ [📷] ▸ [長秒時ノイズ低減]**

- 撮影後にノイズを取り除く動作をします。
- 処理中は、カードアクセスランプが点滅します。カードアクセスランプが消えるまで、次の撮影はできません。
- 処理中は、ファインダ内で busy と表示されます。

注意
- 連写設定時は、**[長秒時ノイズ低減]**は自動的に**[OFF]**になります。
- 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。

高感度ノイズ低減

ノイズの処理レベルを選択できます。通常は**[標準]**に設定し、高感度撮影では**[強]**に設定することをおすすめします。

メニュー　**MENU ▸ [📷] ▸ [高感度ノイズ低減]**

フラッシュモードの設定

発光パターンや発光タイミングなど、目的に合わせたフラッシュモードを設定します。設定可能なフラッシュモードは、露出モードによって異なります。フラッシュモードは専用フラッシュ（別売）にも適応します。

オート発光 AUTO

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
逆光で撮影するときは、撮りたいものにAFターゲットを合わせて撮影してください。

フラッシュ同調速度・低速制限
内蔵フラッシュ発光時のシャッター速度を変更することができます。☞「同調速度」（P.106）、「低速制限」（P.107）

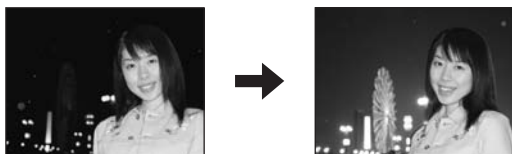
赤目軽減発光

人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが、赤目軽減発光に設定すると本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。S/Mモードでは強制発光になります。

目が赤く写ります

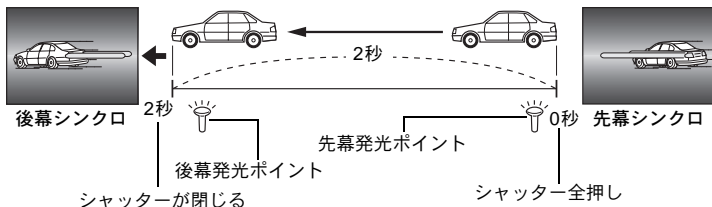
注意
- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合や個人差などにより、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

スローシンクロ（先幕シンクロ） SLOW

遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では手ぶれを防ぐため、シャッター速度が遅くならないように設定されていますが、このとき夜景などをバックに撮影すると、フラッシュの光が背景まで届かないため暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で撮影すると、被写体と背景の両方を写し込むことができます。シャッター速度が遅いので、背景がぶれないように三脚などでカメラを固定してください。

先幕シンクロについて
フラッシュは、通常はシャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、一般的にフラッシュ撮影はこの方法で行われます。

スローシンクロ（後幕シンクロ）SLOW2／2nd CURTAIN

シャッターが閉じる直前にフラッシュを光らせるモードです。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度が遅いほうがより効果的です。S/Mモードでは強制発光になります。

シャッター速度が2秒のとき

スローシンクロ（先幕シンクロ）+ 赤目軽減発光 SLOW

スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減効果も得たいときに使用します。夜景などをバックにして人物を写すときに、赤目現象を起こりにくくします。後幕シンクロでは予備発光から撮影までにかかる時間が長くなり、赤目軽減効果が得られにくいため、先幕シンクロのみの設定となります。

強制発光

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

注意
- フラッシュ発光時、シャッター速度は1/180秒より低速に設定されます。背景の明るい被写体では、強制発光すると背景が露出オーバーになることがあります。このような場合は、専用フラッシュ FL-50Rなどを使用して、スーパー FP発光モードで撮影してください。☞「スーパー FP発光」（P.85）

発光禁止

フラッシュは発光しません。
発光禁止でも、内蔵フラッシュをポップアップすればAFイルミネータとして使うことができます。☞「AFイルミネータ」（P.99）

マニュアル発光

内蔵フラッシュを固定した発光量で発光させることができます。フラッシュをマニュアル発光させるときは、被写体までの距離に基づいてレンズのF値を合わせて撮影してください。

発光比	GN：ガイドナンバー（ISO 100相当）
FULL（1/1）	12
1/4	6
1/16	3
1/64	1.5

レンズのF値は以下の式で計算してください。

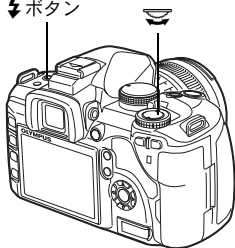
$$\text{絞り（F値）} = \frac{\text{GN} \times \text{ISO感度係数}}{\text{撮影距離（m）}}$$

ISO感度係数

ISO感度	100	200	400	800	1600
ISO感度係数	1.0	1.4	2.0	2.8	4.0

設定方法

ダイレクトボタン ⚡ ▶ ダイヤル

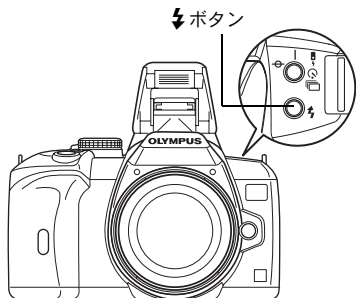
スーパーコンパネ OK ▶ 十字ボタン：[フラッシュ]

- 撮影モードにより設定できるフラッシュモードに制限があります。詳しくは、「撮影モード別使用可能なフラッシュモード」（☞P.143）をご覧ください。

7 フラッシュ撮影

内蔵フラッシュ撮影

14 mm（35 mmフィルムカメラ換算28 mm）より広角のレンズを使用した場合、フラッシュの光がけられる場合があります。また使用レンズ、距離などの撮影条件によってもけられが発生する場合があります。

1 ⚡ ボタンを押して内蔵フラッシュを起こします。

- 下記のモードの場合、内蔵フラッシュは暗いときには自動的にポップアップして、発光します。
AUTO/ / / / / / / / /

2 シャッターボタンを半押しします。

- フラッシュが発光するときは、⚡（フラッシュ発光予告）マークが点灯します。点滅しているときは充電中です。点滅が止まるまでお待ちください。

3 シャッターボタンを全押しします。

ファインダ

こんなときは

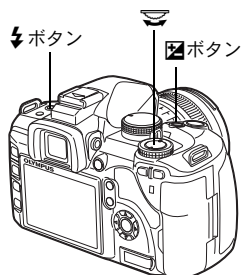
フラッシュを自動ポップアップさせないようにしたい：
→メニューの**[自動ポップアップ]**を**[OFF]**にします。☞「自動ポップアップ」（P.107）
フラッシュの充電完了を待たずに撮影したい：
→「レリーズ優先S、レリーズ優先C」（☞P.104）をご覧ください。

注意

- RCモードが**[ON]**になっているときは、内蔵フラッシュは外部フラッシュとの通信用に発光するため、フラッシュとして機能しません。☞「オリンパスワイヤレスRCフラッシュシステムによる撮影」（P.85）

フラッシュ発光量補正

フラッシュの発光量を+3〜-3の範囲で調整します。
被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を補正した方がよいときがあります。また、コントラスト（明暗の差）を意図的につけたいときにも有効です。

ダイレクトボタン	⚡ + ☒ ▸ ダイヤル
スーパーコンパネ	OK ▸ ◎ : **[フラッシュ補正]**
メニュー	**MENU ▸ [📷2] ▸ [フラッシュ補正]**

注意

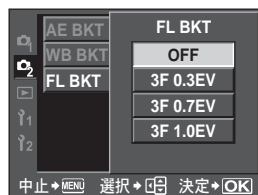
- マニュアル発光のときは、この設定は働きません。
- 専用フラッシュの調光モードがMANUALのときは、この設定は働きません。
- 専用フラッシュで発光補正されていると、カメラの発光補正量に加算されて働きます。
- **[⚡☒+☒連動]**が**[ON]**に設定されているときは、露出補正量に加算されます。
☞「⚡☒+☒連動」（P.107）

7
フラッシュ撮影

フラッシュブラケット撮影

1コマごとにフラッシュの発光量を変えて撮影します。3コマの画像が適正発光量、–発光、+発光の順に撮影されます。

メニュー　**MENU ▸ [C2] ▸ [FL BKT]**

- 露出ステップにより補正量が変わります。☞「露出ステップ」（P.106）
- 単写モードでは、シャッターボタンを全押しするごとに、発光量を変えて撮影します。
- 連写モードでは、設定した撮影枚数を撮り終えるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。
- シャッターボタンから指を離すと、ブラケット撮影が一時中断されます。一時中断したときは、スーパーコンパネにBKTが緑で表示されます。

専用フラッシュ撮影

このカメラでは、内蔵フラッシュの他に別売の専用フラッシュを使用して目的に応じたいろいろなフラッシュ撮影が行えます。
カメラとの通信機能があり、TTL-AUTO、スーパー FP発光など多彩な調光モードで、このカメラのフラッシュモードを使うことができます。当社専用フラッシュは、カメラのホットシューに取り付けて使用します。
専用フラッシュの取扱説明書も合わせてご覧ください。

専用フラッシュの機能比較

専用フラッシュ	FL-50R	FL-50	FL-36R	FL-36	FL-20	RF-11	TF-22
調光モード	TTL-AUTO, AUTO, MANUAL, FP TTL AUTO, FP MANUAL				TTL-AUTO, AUTO, MANUAL	TTL-AUTO, MANUAL	
GN（ガイドナンバー）（ISO100時）	GN50（85 mm*時）GN28（24 mm*時）		GN36（85 mm*時）GN20（24 mm*時）		GN20（35 mm*時）	GN11	GN22
RCモード	✓	—	✓	—	—	—	—

* カバーできるレンズ焦点距離（35 mmフィルムカメラ換算）

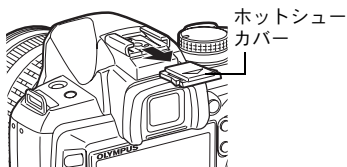
❗ 注意

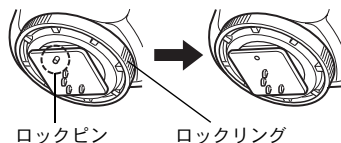
- エレクトロニックフラッシュ FL-40は使用できません。

専用フラッシュを使った撮影

フラッシュの電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

1 ホットシューカバーを図の矢印の向きにスライドさせて外します。

- ホットシューカバーはなくさないように保管し、専用フラッシュを取り外した後は再度はめ込んでください。

2 専用フラッシュをカメラのホットシューに取り付けます。

- フラッシュのロックピンが出ている場合は、フラッシュのロックリングを回して、あらかじめ引込めておいてください。

3 フラッシュの電源を入れます。

- フラッシュの充電ランプが点灯したら充電完了です。
- フラッシュの同調速度は1/180秒以下です。

4 フラッシュモードを選択します。

5 フラッシュの調光モードを選択します。

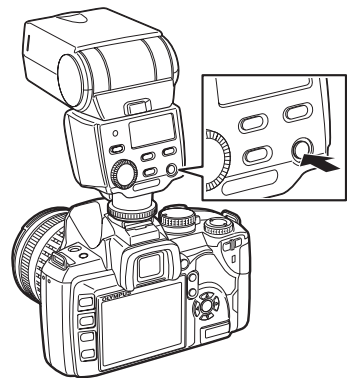
- 通常は TTL-AUTO の使用をおすすめします。

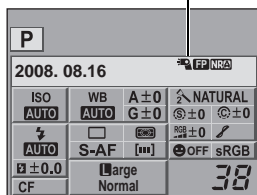
6 シャッターボタンを半押しします。

- カメラ・フラッシュ間で、ISO感度・絞り・シャッター速度などの撮影情報の通信が行われます。

7 シャッターボタンを全押しします。

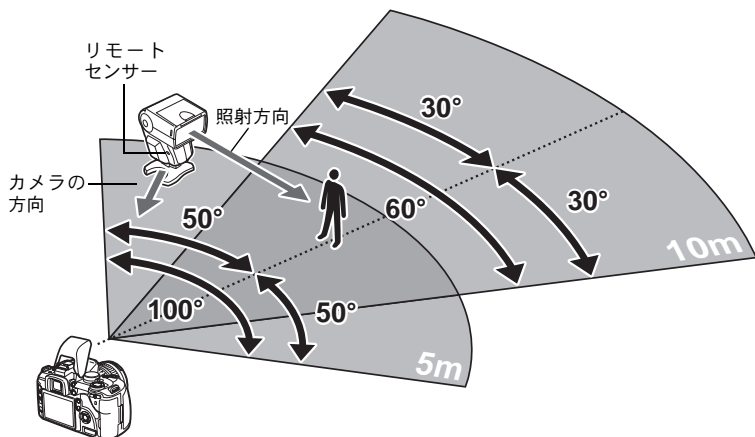
注意

- 外部フラッシュをホットシューに取り付けているときは、内蔵フラッシュは同時には使えません。

スーパー FP発光

専用フラッシュ FL-50RやFL-36RではスーパーFP発光が可能です。通常発光が使用できない高速のシャッター速度で、フラッシュが使用できます。
屋外のポートレート撮影など開放絞りで日中シンクロ撮影が行えます。詳しくは専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

オリンパスワイヤレスRCフラッシュシステムによる撮影

オリンパスワイヤレスRCフラッシュシステムに対応しているフラッシュを使用すると、ワイヤレスでフラッシュ撮影ができます。このシステムに対応した複数のフラッシュを使った多灯フラッシュ撮影も可能で、フラッシュを3グループ（A、B、C）に分けて調光することができます。カメラとフラッシュの通信にはカメラの内蔵フラッシュを使用します。
ワイヤレスフラッシュの操作については、専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

ワイヤレスフラッシュ設置範囲

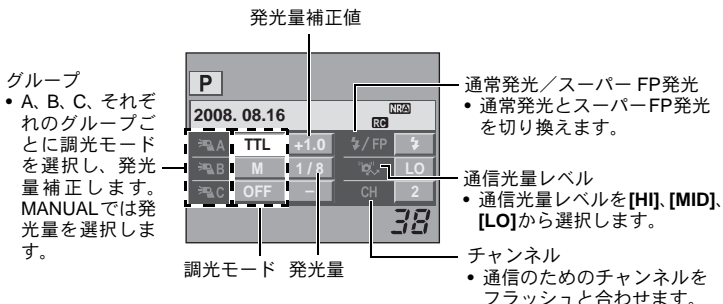
ワイヤレスフラッシュのリモートセンサーをカメラ側に向けて設置します。設置範囲の目安は以下の通りです。範囲は周辺環境により変わります。

1 「ワイヤレスフラッシュ設置範囲」を参考にフラッシュを配置し、フラッシュの電源を入れます。

7 フラッシュ撮影

2 **フラッシュのMODEボタンを押してRCモードに設定し、フラッシュのチャンネルとグループを設定します。**

3 **カメラのRCモードを[ON]に設定します。**

- **MENU** ▶ **[**📷2**]** ▶ **[**⚡**RC**モード**]** ▶ **[ON]**
- スーパーコンパネがRCモードに切り換わります。
- **INFO**ボタンを繰り返し押すと、スーパーコンパネの表示が切り換わります。

4 **スーパーコンパネでグループごとに調光モードなどの設定をします。**

5 **フラッシュモードを選択します。**

- RCモードでは赤目軽減発光はできません。

6 **⚡ボタンを押して、内蔵フラッシュをポップアップします。**

7 **撮影準備が終わったら、必ずテスト撮影をしてフラッシュの作動や画像の確認を行ってください。**

8 **カメラとフラッシュの充電完了表示を確認してから撮影します。**

注意

- ワイヤレスフラッシュの設置数に制限はありませんが、相互干渉による誤動作を防止するため、1グループ最大3台での使用をおすすめします。
- RCモードでは、内蔵フラッシュはワイヤレスフラッシュとの通信に使用されます。撮影時のフラッシュとしては使用できません。
- ワイヤレスフラッシュで後幕シンクロ撮影をする場合は、シャッター速度が 4 秒以内になるように設定してください。また低振動モードの設定も4秒以内にしてください。それを超えると、正常な撮影ができません。

市販のフラッシュを使った撮影

専用フラッシュ以外の市販のフラッシュは、カメラ側から発光量を調整することはできません。ホットシューに接続して使用します。カメラの撮影モードを**M**にします。

1 ホットシューカバーを取り外し、フラッシュをカメラに接続します。

2 撮影モードをMにし、絞り値とシャッター速度を設定します。

- シャッター速度は 1/180 秒より低速に設定してください。これより速いシャッター速度ではフラッシュは同調しません。
- シャッター速度を遅く設定すると、画像がぶれる可能性があります。

3 フラッシュの電源を入れます。

- 電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

4 フラッシュ側の調光の設定に適したISO感度と絞り値にします。

- フラッシュ側の調光モードの設定方法は、各フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

注意

- フラッシュは常に発光します。フラッシュを光らせたくないときは、フラッシュの電源を切ってください。
- ご使用になるフラッシュがカメラに同調するか、あらかじめご確認ください。

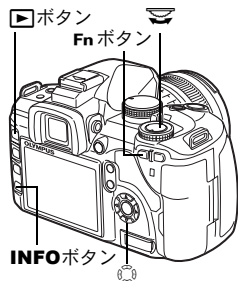
使用できる市販のフラッシュ

1) フラッシュ使用時の露出は、フラッシュ側で調整する必要があります。フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使いください。
2) フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合はフラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。
3) レンズの焦点距離に合った照射角のフラッシュをお使いください。レンズの焦点距離に約2倍した数字が35 mmフィルム用レンズの焦点距離になります。
4) 専用フラッシュ以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となることがありますのでご使用にならないでください。

1コマ再生／クローズアップ再生

画像を見るための基本的な手順は、以下の通りです。
撮影した画像を見たり、編集する方法はいろいろありますが、どの方法も以下の手順1の操作を行って、各再生機能を操作します。撮影後、自動的に1コマ再生モードにすることもできます。☞「撮影確認」（P.111）

1 ボタンを押します（1コマ再生）。
- 最後に撮影された画像が表示されます。
- 1 分以上何も操作しないと、カメラは液晶モニタを消灯して動作を停止します。その後何も操作しないと4時間後に、自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れなおしてください。

2 で表示したい画像を選択します。ダイヤルを側に回して、クローズアップ再生することができます。

（1コマ再生）

（クローズアップ再生）

を押して、クローズアップ位置を変更できます。

：10コマ前の画像を表示
：10コマ先の画像を表示
：次の画像を表示
：1コマ前の画像を表示

INFOボタンを押す

（クローズアップ位置再生）

を押して、クローズアップ位置の表示を移動できます。
メニューの**[顔検出]**（☞P.43）が**[ON]**のときは、顔を中心に枠が表示されます。を押すと他の顔に枠が移動します。

Fnボタンを押す
- 10 倍にクローズアップ位置再生されます。

INFOボタンを押す

（クローズアップコマ送り再生）

を押して、クローズアップのままコマ送りできます。
[顔検出]が**[ON]**のときは、を押すとクローズアップ状態のまま他の顔に移動します。
- **INFO**ボタンを押すとクローズアップ再生に戻ります。

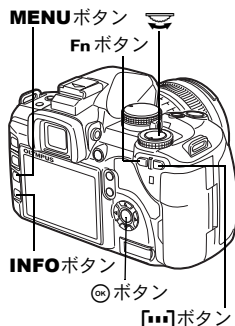
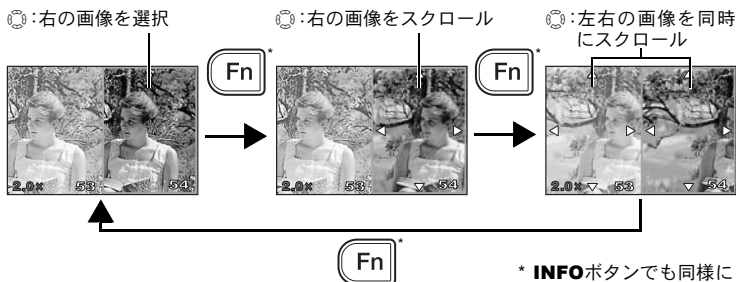
- 再生を終了するときは、再度、ボタンを押します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影に戻ります。

ライトボックス表示

再生中の画像と他の画像を左右に表示して見ることができます。ブラケット撮影などの画像の比較に便利です。

1 1コマ再生中に[▪▪▪]ボタンを押します。
- 表示中のコマが画面の左半分に、次のコマが右半分に表示されます。再生中の拡大倍率で表示されます。
- 左の画像が基準画像となります。

2 ✥で右の画像を選択します。
- 右の画像のプロテクト・消去・コピーができます。

3 [▪▪▪]ボタンを押します。
- 左の画像が再生中の拡大倍率で1コマの再生に戻ります。

ライトボックス表示中の操作
- OKボタンを押すと、左の画像が右の画像に置き換わり、基準画像になります。
- コントロールダイヤルで左右の画像の倍率を同時に変えられます。
- **Fn**ボタンまたは**INFO**ボタンを押すと、✥で右の画像の表示位置を移動できます。再度**Fn**ボタンまたは**INFO**ボタンを押すと、✥で左右の画像の表示位置を同時に移動できます。

* **INFO**ボタンでも同様に操作できます。

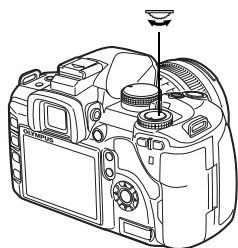
8
再生

インデックス再生／カレンダー再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。多くの画像の中から必要な画像を検索するのに便利です。

1コマ再生中に、ダイヤルを[インデックス]側に回すたびにコマ数が4、9、16、25、49、100コマと変化します。

[◁]：前のコマへ移動
[▷]：次のコマへ移動
[△]：上のコマへ移動
[▽]：下のコマへ移動

• 1コマ再生に戻るにはコントロールダイヤルをQ側に回します。

（1コマ再生）（4コマインデックス再生）（9コマインデックス再生）（16コマインデックス再生）
（カレンダー再生）（100コマインデックス再生）（49コマインデックス再生）（25コマインデックス再生）

カレンダー再生について

カードに保存されている画像を、カレンダー上の日付で指定して表示することができます。同じ日付に複数の画像がある場合は、その日最初に撮影された画像が表示されます。

[十字ボタン]で日付を選択し[OK]ボタンを押すと、選択した日付の画像が1コマ再生されます。

情報表示 INFO

画像の詳細情報を表示することができます。
また、画像の輝度情報を、ヒストグラムやハイライト表示で図示することもできます。

INFOボタン

選択したい情報が表示されるまで、INFOボタンを繰り返し押します。

- この設定は記憶され、次回表示する際も同じ情報が表示がされます。

画像のみ

情報表示1

コマ番号・プリント予約・プロテクト・画質モード・ファイル番号を表示

情報表示2

コマ番号・プリント予約・プロテクト・画質モード・画像サイズ・圧縮率・日時・ファイル番号を表示

シャドウ／ハイライト表示

撮影情報

ヒストグラム*

総合表示

***ヒストグラムの活用**
ヒストグラムの右端付近が著しく突出した場合は、白トビの可能性があり、左端付近が著しく突出した場合は、黒つぶれの可能性があります。露出を補正するか、再度撮影してください。

シャドウ／ハイライト表示

撮影した画像の露出アンダーまたは露出オーバーな部分を表示
シャドウ（露出アンダー） ：青色表示
ハイライト（露出オーバー）：赤色表示

ヒストグラム表示

撮影した画像の明るさの分布をヒストグラム（輝度成分グラフ）で表示

8 再生

自動再生（スライドショー）

カードに記録された画像を自動的に連続して再生します。表示している画像から、順に約5秒間ずつ表示されます。インデックス表示で自動再生することができます。同時に表示できるコマ数は1、4、9、16、25、49、100コマから選択できます。

1 MENU ▸ [▶] ▸ [自動再生]

2 ◎で設定します。

[□1]（1コマ表示）/[⊞4]（4コマ表示）/[⊞9]（9コマ表示）/[⊞16]（16コマ表示）/[⊞25]（25コマ表示）/[⊞49]（49コマ表示）/[⊞100]（100コマ表示）

3 ⓞⓚボタンを押すと自動再生がスタートします。

4 ⓞⓚボタンを押すと停止します。

[⊞4]を選択したとき

注意

- 自動再生を30分続けると、カメラの電源が自動的に切れます。

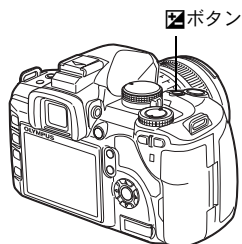
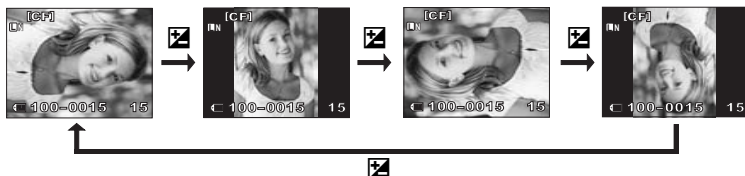
回転再生

1コマ再生中に、撮影した画像を回転して縦位置表示することができます。縦位置で撮影したときなどに便利です。カメラを回転させても、自動的に正しい方向で画像を見ることができます。

1 MENU ▸ [▶] ▸ [回転再生]

- **[ON]**に設定すると、縦位置で撮影した画像を再生したときに自動的に回転して表示します。また、⊠ボタンを押して画像を回転して表示することもできます。
- 回転表示した画像は、その状態でカードに記録されます。

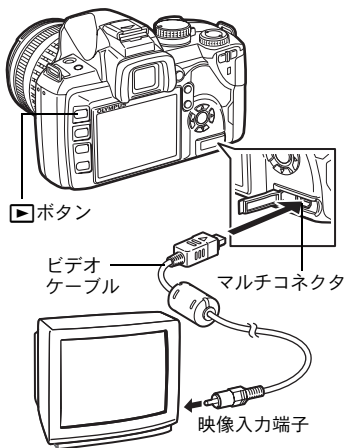
回転する前の画像

8
再生

テレビ再生

付属のビデオケーブルでテレビに接続して画像を再生します。

1 カメラとテレビの電源を切り、ビデオケーブルを図のように接続します。

2 テレビの電源を入れ、ビデオ入力に設定します。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 カメラの電源を入れ、▶（再生）ボタンを押します。

注意

- テレビとカメラを接続する場合は必ず付属のビデオケーブルを使用してください。
- カメラのビデオ信号がお使いのテレビの映像信号に合っているかどうかを確認してください。☞「ビデオ出力」（P.111）
- ビデオケーブルを接続するとカメラの液晶モニタは消灯します。
- お使いのテレビによっては再生画像が画面中央からずれることがあります。

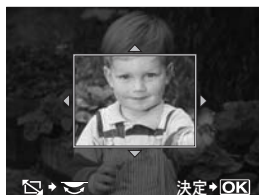
画像編集

撮影した画像を編集して別の画像として保存します。画像のデータ形式によって、可能な編集が決定します。
プリント可能なファイルはJPEGです。RAWファイルは、そのままではプリントできません。プリントする場合はRAW編集機能を使ってJPEGファイルにします。

RAWデータ形式で記録した画像の編集

RAWデータ形式の画像にホワイトバランスやシャープネスなどの画像処理を行って、JPEGの画像として保存します。撮影後に結果を確かめながら、自分のイメージに近い画像にすることができます。
この操作を行う時点のカメラの設定で、画像が処理されます。目的に合わせてあらかじめカメラの設定を変更しておきます。

JPEG形式で記録した画像の編集

[階調オート] 逆光時に暗く写った被写体を明るくします。
[赤目補正] フラッシュ撮影で目が赤く写った部分を軽減させます。
[トリミング] コントロールダイヤルでトリミングサイズ、十字ボタンでトリミング位置を指定します。

[モノクロ作成] 白黒に変換します。
[セピア作成] セピア色に変換します。
[鮮やかさ調整] 画像の色をより鮮やかにします。画面で確認しながら鮮やかさを調整します。
[リサイズ] 画像サイズを1280 × 960、640 × 480、または320 × 240に変換します。

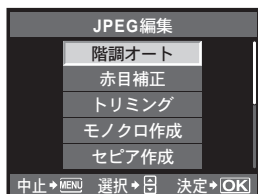
1 MENU ▸ [▶] ▸ [編集]

2 ◁▷で画像を選択し、OKボタンを押します。

- 画像のデータ形式をカメラが認識します。
- RAW+JPEGで記録した画像は、どちらのデータを編集するかを選択する画面が表示されます。

データ形式をここで確認します。

8
再生

3 画像のデータ形式によって、表示される画面が変わります。編集項目を選択し、各手順を行ってください。

- 編集した画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。
- 編集を終了するときは、**MENU**ボタンを押します。

注意

- 画像によっては赤目補正できないことがあります。また、目以外の部分が補正されることがあります。
- 次の場合はJPEG編集できません。
  RAWで記録した画像／パソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足している場合／他のカメラで撮影した画像
- **[リサイズ]**では、撮影時の画像サイズより大きなサイズには設定できません。

画像のコピー COPY

xD-ピクチャーカードとコンパクトフラッシュまたはマイクロドライブ間で画像をコピーします。両方にカードが入っていないと、このメニューは選択できません。選択されているカードがコピー元になります。

☞「記録カード選択」(P.110)

1コマコピー

1 コピーしたい画像を表示して、COPY/⎙ボタンを押します。

2 ⊕⊕で[実行]を選択し、⊛ボタンを押します。

選択コマコピー

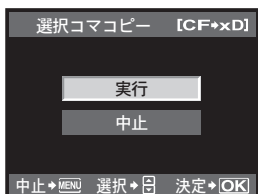
1コマ再生またはインデックス再生で、画像を複数選択して一度にコピーすることができます。

選択コマコピー　[CF→xD]
実行
中止
中止→MENU　選択→　決定→OK

1 コピーしたい画像を表示して、OKボタンを押します。
- 画像が選択され赤枠で表示されます。
- 選択を取り消すには、再度OKボタンを押します。

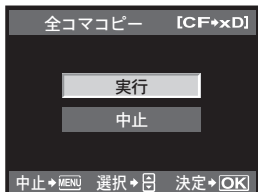
2 を押してコピーしたい次の画像を表示して、OKボタンを押します。

3 コピーする画像を選択し終えたら、COPY/ボタンを押します。

4 で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

全コマコピー

1 MENU ▸ [▶] ▸ [全コマコピー]

2 を押します。

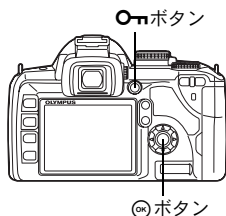
3 で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

8
再生

画像のプロテクト

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

1コマプロテクト

プロテクトをかけたい画像を再生して、ボタンを押します。
- 画面右上に（プロテクトマーク）が表示されます。

プロテクトを解除するには
プロテクトされている画像を再生しボタンを押します。

選択コマプロテクト

1コマ再生またはインデックス再生で、画像を複数選択して一度にプロテクトをかけることができます。

1 プロテクトをかけたい画像を表示して、Ⓞボタンを押します。

- 画像が選択され赤枠で表示されます。
- 選択を取り消すには、再度Ⓞボタンを押します。
- インデックス再生時は、十字ボタンを押してプロテクトしたい画像を選択して、Ⓞボタンを押します。

2 十字ボタンを押してプロテクトしたい次の画像を表示して、Ⓞボタンを押します。

3 プロテクトする画像を選択し終えたら、O‒ボタンを押します。

全プロテクト解除

複数のプロテクトされている画像を一度に解除できます。

1 MENU ▸ [▶] ▸ [全プロテクト解除]

2 △▽で[実行]を選択し、Ⓞボタンを押します。

注意

- カードを初期化した場合は、プロテクトされている画像でも消去されます。☞「カードを初期化する」(P.137)
- プロテクトされた画像は、回転ボタンを押しても回転再生できません。

画像の消去

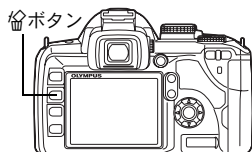
撮影した画像を消去します。再生している1コマのみを消去する1コマ消去、カード内の画像すべてを消去する全コマ消去および選択したコマを消去する選択コマ消去があります。

注意

- RAW+JPEGで記録した画像は、全コマ消去、選択コマ消去では、RAW・JPEG両方の画像が同時に消去されます。1コマ消去では、消去される画像をJPEGのみ、RAWのみ、RAW・JPEG両方から選べます。☞「RAW+JPEG 消去」(P.108)
- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像のプロテクト」(P.96)

1コマ消去

1 **消去したい画像を表示して、🗑 ボタンを押します。**

2 **△▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。**

選択コマ消去

1コマ再生またはインデックス再生で、画像を複数選択して一度に消去することができます。

1 **消去したい画像を表示して、OKボタンを押します。**
- 画像が選択され赤枠で表示されます。
- 選択を取り消すには、再度OKボタンを押します。
- インデックス再生時は、十字ボタンを押して消去したい画像を選択して、OKボタンを押します。

2 **十字ボタンを押して消去したい次の画像を表示して、OKボタンを押します。**

3 **消去する画像を選択し終えたら、🗑ボタンを押します。**

4 **△▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。**

全コマ消去

1 **MENU ▸ [▶] ▸ [カードセットアップ]**

2 **△▽で[全コマ消去]を選択し、OKボタンを押します。**

3 **△▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。**
- 全コマ消去が実行されます。

8 再生

こんなときは

画像をすぐに消去したい：

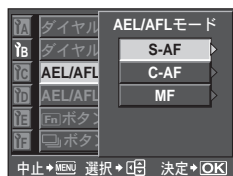
→「ワンプッシュ消去」（☞P.108）を設定すると、🗑 ボタンを押すとすぐに画像を消去できます。

→初期設定のカーソルの位置を**[実行]**に設定することができます。☞「実行優先設定」（P.109）

9 カスタム機能の設定

カスタムメニューでは、カメラを使いやすくするための設定をします。カスタムメニューには、撮影機能をカスタマイズするカスタムメニュー1と、カメラの基本的な機能を設定するカスタムメニュー2があります。
カスタムメニュー1には、さらにA～Iの9つのタブがあり、設定する機能によって分類されています。

△▽で[1]を選択し、▷を押します。

△▽でタブA～Iを選択し、▷を押します。

△▽で機能を選択し、▷を押します。

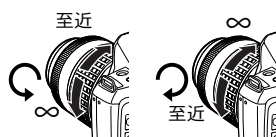
メニューの操作方法は「メニューの操作」（☞P.30）ご覧ください。

カスタムメニュー1 ▶ A AF/MF

AFイルミネータ

内蔵フラッシュはAFイルミネータとして機能させることができ、AFではピントの合わせにくい暗いところでもピントが合いやすくなります。この機能を使うにはフラッシュを起こしておきます。

フォーカスリング

フォーカスリングの回転方向とピントの移動方向を切り換えることができます。

レンズリセット

[ON]に設定すると、カメラの電源を切ったときに、レンズのフォーカス位置をリセット（無限遠）します。

BULB中MF

MFでバルブ撮影しているときのピント調整について設定します。

[ON]　露光中もフォーカスリングを回してピントを変えることができます。
[OFF]　露光中はピントが固定されます。

LV中AF ☞P.40

ダイヤル機能

コントロールダイヤルの操作を出荷時とは逆に設定することができます。
たとえば、**[P]**を**[露出補正]**に設定すると、**P**モードでコントロールダイヤルを操作して露出補正が設定でき、ボタンを押しながらコントロールダイヤルを操作するとプログラムシフトの設定ができます。

モード	設定		ボタン+
P	**Ps**（プログラムシフト）	プログラムシフト	露出補正
	露出補正	露出補正	プログラムシフト
A	絞り	絞り値	露出補正
	露出補正	露出補正	絞り値
S	シャッター速度	シャッター速度	露出補正
	露出補正	露出補正	シャッター速度
M	シャッター速度	シャッター速度	絞り値
	絞り	絞り値	シャッター速度

ダイヤル方向

コントロールダイヤルの回転方向と、シャッター速度／絞り値の増減方向を切り換えることができます。

設定	（ダイヤル回転方向）	（ダイヤル回転方向）
ダイヤル1	• シャッター速度が遅くなる • 絞りを開く（F値が小さくなる）	• シャッター速度が速くなる • 絞りを絞る（F値が大きくなる）
ダイヤル2	• シャッター速度が速くなる • 絞りを絞る（F値が大きくなる）	• シャッター速度が遅くなる • 絞りを開く（F値が小さくなる）

AEL/AFLモード

シャッターボタンでオートフォーカス動作や測光を行う代わりに、**AEL/AFL**ボタンを押してオートフォーカス動作や測光を行うことができます。
シャッターボタンを押したときの動作と組み合わせてボタンの機能を選択できます。それぞれのフォーカスモードで**[mode1]**～**[mode4]**を選択します（**[mode4]**はC-AFモードのときのみ選択できます）。

モード	シャッターボタンの役割				AEL/AFLボタンの役割	
	半押し時		全押し時		押している間	
	ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
[S-AF]						
mode1	S-AF動作	固定	—	—	—	固定
mode2	S-AF動作	—	—	固定	—	固定
mode3	—	固定	—	—	S-AF動作	—

モード	シャッターボタンの役割				AEL/AFLボタンの役割	
	半押し時		全押し時		押している間	
	ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
[C-AF]						
mode1	C-AF開始	固定	固定	—	—	固定
mode2	C-AF開始	—	固定	固定	—	固定
mode3	—	固定	固定	—	C-AF開始	—
mode4	—	—	固定	固定	C-AF開始	—
[MF]						
mode1	—	固定	—	—	—	固定
mode2	—	—	—	固定	—	固定
mode3	—	固定	—	—	S-AF動作	—

各モードでの基本の使い方

[mode1] ピント合わせと同時に測光して露出を決めて撮影します。**AEL/AFL**ボタンを押している間はAEロックされるので、ピント合わせと露出を別々に決めることもできます。

[mode2] シャッターボタンを全押ししたときに露出を決めて撮影します。舞台など撮影時の照明状態が大きく変わるシーンの撮影に適しています。

[mode3] シャッターボタンではなく、**AEL/AFL**ボタンを使ってピント合わせを行いたいときに使います。

[mode4] **AEL/AFL**ボタンでピント合わせの動作を行い、シャッターボタンを全押ししたときに露出を決めて撮影します。

AEL/AFL MEMO

AEL/AFLボタンを押すと露出の固定と保持ができます。

[ON] **AEL/AFL**ボタンを押すと露出を固定して保持します。もう一度押すと保持を解除します。

[OFF] **AEL/AFL**ボタンを押している間だけ露出を固定します。

Fnボタン機能

Fn ボタンに機能を登録することができます。

[フェイス&バック]

Fn ボタンを押すと、**[☻顔検出]**が**[ON]**になり、最適な設定に切り換わります。再度押すと**[OFF]**になります。

☞「顔検出機能を使う」(P.43)、「☻顔検出」(P.105)

[プレビュー]/[ライブプレビュー](電子式)

Fn ボタンを押している間、設定された絞り値まで絞り込みます。

☞「プレビュー機能」(P.52)

[ワンタッチWB]

Fn ボタンを押して、ホワイトバランスの値を取得します。

☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」(P.73)

[[▪▪▪] HOME]

Fn ボタンを押すと、登録したAFホームポジションに切り換わります。再度押すと元の位置に戻ります。AFホームポジションに切り換えた状態で電源をOFFにすると、元の位置は記憶していません。

☞「AFターゲットの位置を登録する」（P.61）

[MF切換]

Fn ボタンを押すと、AF方式が**[MF]**に切り換わります。再度押すと、元のAF方式に戻ります。**[MF]**に切り換えた状態で電源をOFFにすると、元のAF方式は記憶していません。

[RAW◀]

Fn ボタンを押すと、JPEG撮影時はRAW+JPEGの画質モードに、RAW+JPEG撮影時はJPEGのみの画質モードに切り換わります。

Fn ボタンを押しながらコントロールダイヤルを回すと、画質モードを変更できます。

[試し撮り撮影]

Fn ボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、画像をカードに記録することなく液晶モニタで画像の確認ができます。すばやく設定値の効果を確認するのに便利です。

[マイモード撮影]

Fn ボタンを押している間、[マイモード設定]で登録した設定内容で撮影することができます。

☞「マイモード設定」（P.103）

[OFF]

機能は割り当てられていません。

▭ボタン機能

▭/◌/▯ボタンに別の機能を登録することができます。

[▭/▯/◌]

☞「連写」（P.63）、「セルフタイマー撮影」（P.64）、「リモコン撮影」（P.65）

[AFターゲット選択]

☞「AFターゲット選択」（P.60）

[AF方式]

☞「AF方式の選択」（P.57）

[WBモード]

☞「ホワイトバランスの選択」（P.71）

[測光]

☞「測光方式の変更」（P.52）

[ISO感度]

☞「ISO感度の設定」（P.56）

マイモード設定

よく使う設定状態をマイモードとして2つ記憶させておくことができます。どちらのマイモードを使用するかは、以下の「実行する」の操作をしてあらかじめ設定しておきます。マイモードは**[Fnボタン機能]**を**[マイモード撮影]**に設定し、使用するときは**Fn**ボタンを押しながら撮影します。☞「Fnボタン機能」(P.101)

登録する

1) **[マイモード1]**または**[マイモード2]**を選択し、▷を押します。
2) **[登録]**を選択し、OKボタンを押します。
- 現在の設定がカメラに登録されます。マイモードに登録できる機能は「マイモード・カスタムリセット設定で登録可能な機能」(☞P.146)をご覧ください。
- 登録を解除するには**[クリア]**を選択します。

実行する

1) **[マイモード1]**または**[マイモード2]**を選択し、OKボタンを押します。
2) **[実行]**を選択し、OKボタンを押します。
- 使用するマイモードに設定されます。
- 撮影するときは**Fn**ボタンを押しながらシャッターボタンを押します。

ボタンON保持時間

ダイレクトボタンから指を離しても、押した状態を保持します。

[3秒]/[5秒]/[8秒]　それぞれの秒数の間、押した状態を保持します。
[HOLD]　もう一度ボタンを押すまで、押した状態を保持します。

- **[ボタンON保持時間]**で対象となるボタン
  □/⏲/、☑、⚡、**WB**、**AF**、**ISO**、◙

AEL/AFL⇌Fn

AEL/AFLボタンと**Fn**ボタンの機能を切り換えることができます。**[ON]**を選択すると、**AEL/AFL**ボタンが**Fn**ボタンとして、**Fn**ボタンが**AEL/AFL**ボタンとして機能します。

✥(十字ボタン)ロック

誤操作防止のために、十字ボタンに割り当てられている機能が、ボタンを押しても作動しないように設定できます。☞「ダイレクトボタン一覧」(P.28)

カスタムメニュー 1 ▶ ic レリーズ／連写

レリーズ優先S、レリーズ優先C

このカメラはAF作動中・フラッシュ充電中はシャッターが切れませんが、次の設定により、これらの完了を待たずに、シャッターを切ることができます。シャッターチャンスを優先する撮影に適しています。AF方式により個別に設定できます。

レリーズ優先S　S-AFモード（☞P.57）のレリーズ優先を設定します。
レリーズ優先C　C-AFモード（☞P.58）のレリーズ優先を設定します。

カスタムメニュー 1 ▶ id 表示／音／接続

ビープ音

シャッターボタンを押してピントが合ったときのピピッという音を鳴らさないようにできます。

スリープ時間

カメラは何も操作しない状態で一定の時間が経過すると、スリープモード（待機状態）になり動作を停止し、電池の消費を抑えます。スーパーコンパネ表示中は一定時間経過後、バックライトが消灯し、さらに一定時間が経過するとスリープモードになります。**[スリープ時間]**では、スリープモードに入るまでの時間を**[1分]**/**[3分]**/**[5分]**/**[10分]**から設定することができます。**[OFF]**に設定すると、スリープモードには入りません。
スリープモードを解除するには、シャッターボタン、▶ボタンなどのボタンを操作してください。

バックライト時間

スーパーコンパネ表示中に一定時間が経過すると、バックライトが消灯して液晶モニタが暗くなり、電池の消費を抑えます。バックライトが消灯するまでの時間を**[8秒]**/**[30秒]**/**[1分]**から設定します。**[HOLD]**に設定するとバックライトは消灯しません。
バックライトを点灯させるにはシャッターボタン、十字ボタンなどのボタンを操作してください。

自動電源OFF

カメラを使用しないで4時間経過すると、自動的に電源が切れるように設定することができます。**[OFF]**に設定すると電源は切れません。

USB接続モード

USBケーブルを使って、カメラをパソコンやプリンタへ直接接続することができます。あらかじめ何に接続するかを設定しておくと、カメラを接続した際に毎回設定する手間を省くことができます。カメラをこれらの機器に接続した際の使い方は、「カメラをプリンタに接続する」（☞P.115）、「カメラをパソコンに接続する」（☞P.120）をお読みください。

[オート]
カメラを他の機器と接続したときの使い方を毎回設定します。選択画面が毎回表示されます。

[ストレージ]
パソコンに画像を転送するときに使用します。カメラをパソコンと接続してOLYMPUS Masterを使うときにもこれに設定します。

[MTP]
Windows Vistaで、OLYMPUS Masterを使わずに画像を転送するときに設定します。

[カメラコントロール]
OLYMPUS Studio（別売）を使い、パソコン側でカメラをコントロールします。

[凸かんたん]
PictBridge対応プリンタと接続するときに設定します。パソコンを使わずに直接画像をプリントできます。☞「カメラをプリンタに接続する」（P.115）

[凸カスタム]
PictBridge対応プリンタと接続するときに設定します。プリント枚数や用紙などを設定してプリントすることができます。☞「カメラをプリンタに接続する」（P.115）

LVブースト

ライブビュー撮影中に、液晶モニタを明るくして被写体を確認しやすくすることができます。

[OFF]
設定した露出に応じた明るさで被写体が液晶モニタに表示されます。撮影結果に近い画像を、あらかじめ液晶モニタで確認しながら撮影できます。

[ON]
被写体を確認しやすいように、カメラが明るさを自動的に調整して液晶モニタに表示します。露出補正の調整結果は液晶モニタには反映されません。

☻顔検出

[ON]に設定すると、人物の顔を検出して自動でピント合わせを行います。
☞「顔検出機能を使う」（P.43）
顔を中心にしたクローズアップ再生ができます。☞「1コマ再生／クローズアップ再生」（P.88）

罫線表示

ライブビュー撮影時に、構図を決めるときの目安となる罫線を液晶モニタに表示することができます。
INFOボタンを繰り返し押して、罫線を表示します。☞「情報表示を切り換える」(P.44)

カスタムメニュー 1 ▶ 露出/測光/ISO

露出ステップ

シャッター速度・絞り値・露出補正値などの露出パラメータ設定の変更ステップを**[1/3EV]**/**[1/2EV]**/**[1EV]**から切り換えます。

ISOオート設定

ISO感度をオートに設定しているときの上限値を設定します。
自動的に変わるISO感度の上限値を100～1600の間で設定します。

ISOオート有効

ISO感度の**[オート]**の設定が有効になる撮影モードを設定します。

[P/A/S]

Mモードをのぞく撮影モードで**[オート]**の設定が有効になります。**M**モードでは**[オート]**に設定されていると、ISO100になります。

[ALL]

すべての撮影モードで**[オート]**の設定が有効になります。**M**モードでも適正ISOになるようにISO感度が自動的に変わります。

AEL測光モード

AEL/AFLボタンを押して露出を固定するときの測光方式を設定します。
- **[オート]**は**[測光]**で選択されているモードで測光します。

BULBリミッター

バルブ撮影の最長時間（分）を設定します。

カスタムメニュー 1 ▶ フラッシュ

同調速度

フラッシュ発光時のシャッター速度を1/60～1/180の間で、1/3EVステップで設定できます。
- 市販のフラッシュの同調速度はフラッシュの取扱説明書をご覧ください。

低速制限

フラッシュ発光時のシャッター速度の低速制限を1/30～1/180の間で、1/3EVステップで設定できます。

+連動

[ON]に設定しているときは、露出補正量に加算して、フラッシュ補正が行われます。

自動ポップアップ

AUTOやシーンモードでは、内蔵フラッシュは暗いときや逆光のときに自動的にポップアップします。**[OFF]**にすると内蔵フラッシュは自動的にポップアップしません。

カスタムメニュー1 ▶ 画質／色／WB

全WBモード補正

ホワイトバランスの各モードを一括して同じ値に補正します。

[ALL SET]　すべてのWBモードを一括して同じ値に補正します。
[ALL CLEAR]　すべてのWB補正値を一括して0にします。

[ALL SET]を選択した場合

1) で補正方向を選択します。
A方向：赤-青／G方向：緑-赤紫
2) で補正します。「WB補正」（P.72）
AEL/AFLボタンを押すと、サンプル画像が撮影されます。補正したホワイトバランスを確認できます。

[ALL CLEAR]を選択した場合

1) で**[実行]**を選択します。

カラー設定

撮影した画像をモニタやプリンタで再現する際、色再現を正しく行うための方式を選択します。設定したカラー空間は、画像のファイル名に表示されます。
「ファイルネーム」（P.109）

Pmdd0000.jpg
P : sRGB
_ : Adobe RGB

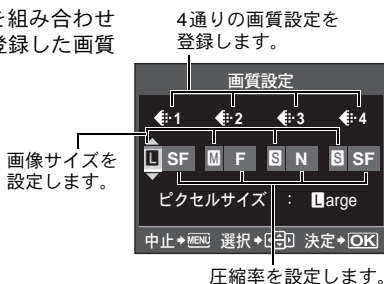
[sRGB]　Windowsの標準の色空間。
[Adobe RGB]　Adobe Photoshopで設定できる色空間。

シェーディング補正

レンズの特性により、画面の周辺が暗くなることがあります。これを補正して、明るくします。特に広角レンズを使用したときに、この機能が効果を発揮します。

注意
- テレコンバーターやエクステンションチューブを装着しているときは、この機能は働きません。
- ISO感度の高い設定で行うと、画面周辺のノイズが目立つことがあります。

画質設定

3種類の画像サイズと4種類の圧縮率を組み合わせて、4通りの画質設定を登録します。登録した画質設定は**[画質モード]**で選択します。
☞「画質モードの選択」（P.69）

ピクセルサイズ

画像サイズ**[M]**、**[S]**のピクセルサイズを設定します。

[Middle]　**[3200 × 2400]/[2560 × 1920]/[1600 × 1200]**から選択します。
[Small]　**[1280 × 960]/[1024 × 768]/[640 × 480]**から選択します。

カスタムメニュー 1 ▶ 記録／消去

ワンプッシュ消去

ボタンを押して、すぐに画像を消去するように設定します。

[OFF]　ボタンを押すと消去を実行するかどうかを確認する画面が表示されます。
[ON]　ボタンを押すとすぐに消去が実行されます。

RAW+JPEG 消去

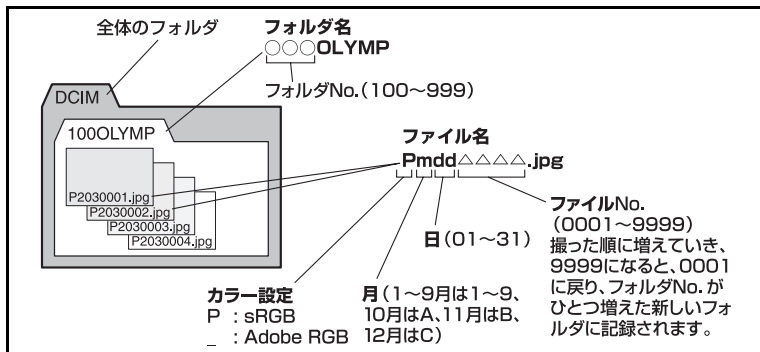
RAW+JPEGで記録した画像の消去方法を設定できます。1コマ消去を行うときのみ有効な機能です。

[JPEG]　JPEGの画像を消去してRAWのみ残します。
[RAW]　RAWの画像を消去してJPEGのみ残します。
[RAW+JPEG]　同時に両方を消去します。

注意

- この機能は、1コマ消去する場合にのみ有効です。全コマ消去や選択コマ消去の場合は、この設定に関係なくRAW、JPEG両方とも同時に消去されます。

ファイルネーム

撮影した画像は、カードに記録されるときにファイル名が付けられ、フォルダに入れられます。
ファイル名とフォルダ名は、図のように付けられます。

[オート]
　カードを入れ換えても、ファイルNo.は通し番号で付けられます。ただし、カード内に記録された画像のファイルNo.と重複する場合は、そのカードの中のもっとも大きいファイルNo.に続いた番号が付けられます。

[リセット]
　新しいカードを入れたときは、フォルダNo.は100、ファイル名は0001から始まります。すでに画像が記録されたカードでは、もっとも大きいファイルNo. に続けて番号が付けられます。

- 最大のフォルダNo. 999、ファイルNo. 9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり撮影できません。新しいカードに取り換えてください。

実行優先設定

「画像の消去」や「カードの初期化」などの画面で、カーソルの初期位置を**[実行][中止]**のどちらにするかを選択できます。

dpi設定

プリントするときの解像度をあらかじめ設定できます。設定した値が撮影時に画像と共にカードに記憶されます。

[オート]　画像サイズにあわせて自動的に設定されます。
[カスタム]　任意の数値を設定します。▷を押すと設定画面が表示されます。

カスタムメニュー 1 ▶ その他

クリーニングモード

☞P.135

[スポーツ][夜景＆人物]/[水中マクロ][水中ワイド]

モードダイヤルの[スポーツ]（スポーツ）と[夜景＆人物]（夜景＆人物）を[水中マクロ]（水中マクロ）と[水中ワイド]（水中ワイド）に置き換えることができます。
水中での撮影には別売の水中プロテクタをご使用ください。

カスタムメニュー 2

日時設定

☞P.15

記録カード選択

コンパクトフラッシュとxDピクチャーカードを両方挿入しているときに、使用するカードを選択します。

ファイルネーム編集

画像のファイル整理に便利なようにファイルネームの一部を変更できます。
カラー設定により変更できる部分が異なります。☞「カラー設定」（P.107）

sRGB : Pmdd0000.jpg　　AdobeRGB : _mdd0000.jpg

OFF、A～Z、0～9に変更できます。

モニタ調整

液晶モニタの明るさと色温度を調整します。色温度の調整は再生時のモニタ表示にのみ適用されます。
◁▷で☼（明るさ）と🌡（色温度）を切り換え、△▽で[+7]～[-7]の範囲で調整します。

（言語切り換え）

液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを、日本語ではなく他の言語にすることができます。
- OLYMPUS Masterを使って表示する言語を増やすことができます。
  詳しくはOLYMPUS Masterのヘルプをご覧ください。☞「OLYMPUS Masterを使う」（P.119）

ビデオ出力

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。
海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。設定してからテレビにつないでください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

主な国と地域の映像信号
海外でカメラを接続する前に、あらかじめご確認ください。

NTSC	日本、台湾、韓国、北米
PAL	ヨーロッパ諸国、中国

撮影確認

撮影した画像をカードに記録する間、液晶モニタに表示することができます。また、表示する時間も設定できます。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。撮影確認中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。

[1秒]～[20秒] 画像を表示する時間を指定します。1秒刻みで設定することができます。
[OFF] 記録中の画像は表示されません。
[AUTO▶] 記録中の画像を表示し、そのまま再生モードに切り換わります。画像を確認した後、消去したいときに便利です。

ピクセルマッピング ☞P.135

バージョン

カメラや接続しているアクセサリのバージョンが表示されます。
お問い合わせいただく際やソフトウェアをダウンロードする場合に必要になることがあります。
▷を押します。カメラや接続しているアクセサリのバージョンが表示されます。
OKボタンを押すと、前の画面に戻ります。

プリント予約（DPOF）

プリント予約とは

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や、日付を印刷する指定を記憶させることです。
プリント予約した画像は以下の方法でプリントできます。

DPOF対応のプリントショップでプリントする
予約されている内容にしたがってプリントできます。

DPOF対応のプリンタでプリントする
パソコンを使わずに、専用プリンタから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。PCカードアダプタが必要な場合もあります。

注意

- 他の DPOF 機器で設定された DPOF 予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。また、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、他の機器で予約した内容は消去されます。
- プリンタまたはプリントショップにより、一部機能が制限されることがあります。
- RAWデータはプリントできません。

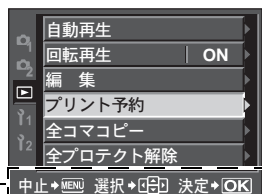
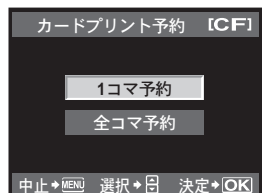
DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ
プリントショップなどのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

ファイル番号
（例）100—0011
フォルダの通し番号
画像の通し番号

1コマ予約する

操作ガイドにしたがって1枚の画像をプリント予約してみましょう。

1 MENU ▸ [▶] ▸ [プリント予約]

操作ガイド

2 [1コマ予約]を選択し、OKボタンを押します。

3 ◁▷を押してプリント予約したいコマを選択し、▽△を押してプリントする枚数を設定します。

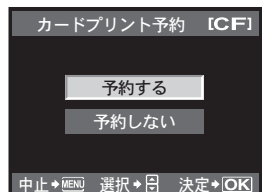
- 複数の画像をプリント予約する場合は、この手順を繰り返します。

4 プリント予約が終わったらOKボタンを押します。

- 1コマ予約のメニュー画面が表示されます。

5 日時の種類を選択し、OKボタンを押します。

[無し] 画像のみプリントされます。
[日付] 画像と撮影年月日がプリントされます。
[時刻] 画像と撮影時刻がプリントされます。

6 [予約する]を選択し、OKボタンを押します。

全コマ予約する

カード内全画像をプリント予約します。プリント枚数は1枚固定です。

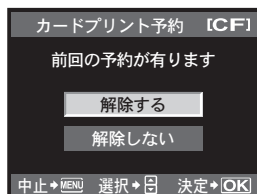
1 **MENU ▸ [▶] ▸ [プリント予約]**
2 **[全コマ予約]を選択し、OKボタンを押します。**
3 **日時の種類を選択し、OKボタンを押します。**
[無し] 画像のみプリントされます。
[日付] 画像と撮影年月日がプリントされます。
[時刻] 画像と撮影時刻がプリントされます。
4 **[予約する]を選択し、OKボタンを押します。**

プリント予約を解除する

すべてのプリント予約を解除する方法と、選択した画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

1 **MENU ▸ [▶] ▸ [プリント予約]**

すべての予約を解除する

2 **[1コマ予約]または[全コマ予約]を選択し、OKボタンを押します。**
3 **[解除する]を選択し、OKボタンを押します。**

1コマずつ予約を解除する

2 **[1コマ予約]を選択し、OKボタンを押します。**
3 **[解除しない]を選択し、OKボタンを押します。**
4 **◁▷を押してプリント予約を解除したいコマを選択し、▽でプリント枚数を0に設定します。**
5 **プリント予約の解除が終わったら、OKボタンを押します。**
6 **日時の種類を選択し、OKボタンを押します。**
• プリント予約の設定が残っている画像に、選択した設定が適用されます。
7 **[予約する]を選択し、OKボタンを押します。**

ダイレクトプリント（PictBridge）

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridge

異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定

PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（☞P.117）で**[標準設定]**を選択すると、この設定にしたがってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

- 使用できるプリントモード、用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって選択できる項目が異なる場合があります。詳しくはプリンタの取扱説明書をご覧ください。
- プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

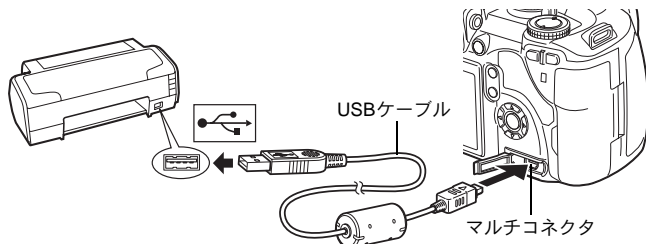
注意

- プリントを始める際は、充電した電池をご使用ください。
- RAWデータで記録された画像は、プリントできません。
- USBケーブルを取り付けているときは、カメラはスリープモード（待機状態）になりません。

カメラをプリンタに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをPictBridge対応プリンタに接続します。

1 プリンタの電源を入れて、カメラに付属のUSBケーブルで、カメラのマルチコネクタとプリンタのUSBポートを接続します。

- プリンタの電源の入れ方および USB 端子の位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

2 カメラの電源を入れます。

- 液晶モニタにUSBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

10
プリントする

3 で[かんたんプリント]か[カスタムプリント]を選択します。

USB [CF]
ストレージ
MTP
カメラコントロール
かんたんプリント
カスタムプリント
選択 決定 OK

[かんたんプリント]を選択した場合

- 「かんたんプリントでプリントする」(☞P.116)へ進んでください。

[カスタムプリント]を選択した場合

- [しばらくお待ちください]と表示された後、カメラとプリンタが接続され、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。
「カスタムプリントでプリントする」(☞P.116)へ進んでください。

注意

- 数分待ってもプリントモード選択画面が表示されないときは、USB ケーブルを抜いて、手順1からやりなおしてください。

かんたんプリントでプリントする

1 を押して、プリントする画像をカメラに表示します。

- プリントしたい画像をカメラに表示してから、USBケーブルでカメラとプリンタを接続すると、すぐに右の画面が表示されます。

2 (プリント)ボタンを押します。

- プリントが終わると画像選択の画面が表示されます。別の画像をプリントするときはを押して画像を選択し、ボタンを押します。
- 終了するときは、画像選択の画面が表示された状態でカメラからUSBケーブルを抜きます。

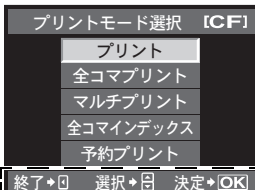
カスタムプリントでプリントする

1 操作ガイドにしたがってプリントの各設定をします。

プリントモードを選択する

プリントの種類(プリントモード)を選びます。選択できるプリントモードは、以下の通りです。

[プリント]	選択した画像をプリントします。
[全コマプリント]	カードの中の全画像をプリントします。
[マルチプリント]	1枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトして、プリントします。
[全コマインデックス]	カードの中の全画像を一覧にして、インデックス形式でプリントします。
[予約プリント]	プリント予約の内容にしたがってプリントします。あらかじめプリント予約された画像がないときは、選択できません。(☞P.113)

プリントモード選択 [CF]
プリント
全コマプリント
マルチプリント
全コマインデックス
予約プリント
終了 選択 決定 OK

この部分に表示されるガイドにしたがって操作を進めてください。

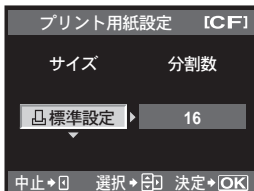
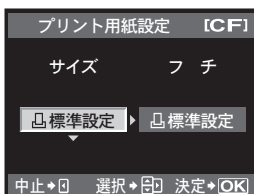
10 プリントする

用紙を設定する

この設定内容は、プリンタの対応によって選択肢が異なります。プリンタの標準設定しか使えない場合は、設定を変更することができません。

[サイズ] プリンタで用意されている用紙に合わせます。

[フチ] 用紙いっぱいにプリントするか、フチをつけてプリントするかを選択します。

[分割数] 同じ画像を1枚の用紙に何枚プリントするかを選択します。プリントモードで**[マルチプリント]**を選択したとき、この設定項目が表示されます。

プリントする画像を選ぶ

プリントする画像を選びます。選んだ画像をあとでまとめてプリント（1枚予約）したり、表示している画像をプリントすることができます。

[プリント]（OK） 表示している画像をプリントします。**[1枚予約]**をした画像が1枚でもあると、予約されている画像のみプリントされます。

[1枚予約]（▲） 表示している画像をプリントする予約をします。**[1枚予約]**をしたら、◁▷で、次に予約したい画像を選んでください。

[詳細予約]（▼） 表示している画像のプリントする枚数や情報を、プリントするかどうかを設定します。操作については次項「プリントする情報を設定する」（☞P.117）をご覧ください。

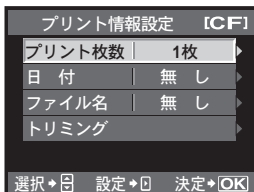
プリントする情報を設定する

画像をプリントする際に、日付やファイル名の情報を同時にプリントするかどうかを設定します。

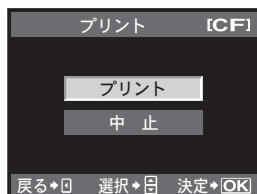
[プリント枚数] プリントする枚数を設定します。

[日付] 画像に記録されている日付情報を同時にプリントします。

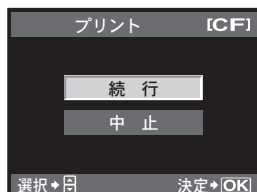
[ファイル名] 画像に記録されているファイル名を同時にプリントします。

[トリミング] 画像をトリミングしてプリントします。コントロールダイヤルでトリミングサイズを、十字ボタンでトリミング位置を指定します。

2 プリントする画像や内容が決まったら、[プリント]を選択し、Ⓞボタンを押します。

[プリント] プリンタへプリントする画像のデータを転送します。

[中止] プリントをやめます。設定した予約などはすべて失われます。予約した内容を残して続けて予約や設定をしたいときは、◁を押します。一つ前の設定に戻ります。

• プリントを始めてから途中で停止したいときは、Ⓞボタンを押します。

[続行] プリントを続行します。

[中止] プリントを停止します。設定した予約はすべて失われます。

11 OLYMPUS Masterを使う

操作の流れ

カメラをパソコンにUSBケーブルで接続して、カメラのカードに保存されている画像を付属のOLYMPUS Masterを使ってパソコンに取り込みます。

準備するもの

- OLYMPUS Master 2 CD-ROM
- USBケーブル
- 動作環境を満たしたパソコン
(動作環境については、インストールガイドをご覧ください。)

OLYMPUS Masterをインストールする
(OLYMPUS Masterに同梱されているインストールガイドを参照)

▼

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続する (☞P.120)

▼

OLYMPUS Masterを起動する (☞P.121)

▼

画像をパソコンに保存する (☞P.121)

▼

カメラをパソコンから取り外す (☞P.122)

付属のOLYMPUS Masterを使う

OLYMPUS Masterとは?

OLYMPUS Masterはデジタルカメラで撮影した画像をパソコンで楽しむためのアプリケーションソフトウェアです。パソコンにインストールすると、以下のようなことができます。

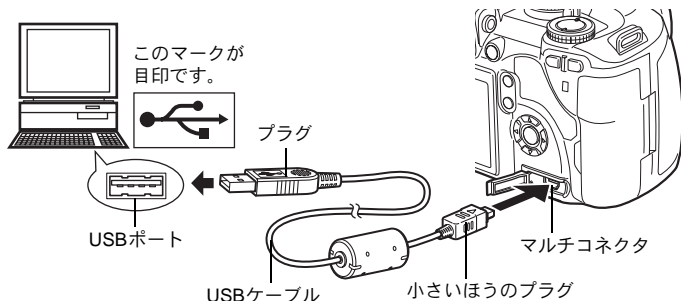
- **カメラやメディアから画像を取り込む**
- **画像を見る**
スライドショーを楽しんだり、サウンドを再生することもできます。
- **画像を整理・管理する**
アルバム、またはフォルダで画像を整理できます。取り込んだ画像は撮影日時で自動的に整理され、日付によって画像をすばやく見つけることができます。
- **フィルタ機能、補正機能で画像を補正する**
- **画像を編集する**
画像の回転や反転、トリミング、サイズ変更などの編集ができます。
- **プリンタを使ってプリントする**
簡単な操作でプリントできます。
- **カメラのバージョンアップをする**
- **RAW画像を現像する**

その他の機能や操作方法については、OLYMPUS Masterの「ヘルプ」をご覧ください。

カメラをパソコンに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをパソコンに接続します。

1 付属のUSBケーブルで、パソコンのUSBポートとカメラのマルチコネクタを接続します。

- USB ポートの位置はパソコンによって異なります。パソコンの取扱説明書をご覧ください。

2 カメラのパワースイッチをONにします。

- 液晶モニタに USB ケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

3 ⊕⊖を押して[ストレージ]を選択します。⊛ボタンを押します。

4 パソコンがカメラを新しい機器として認識します。

Windowsの場合

- 初めてカメラとパソコンを接続したときは、パソコンがカメラを自動的に認識する動作を行い、終了のメッセージが表示されます。「OK」をクリックしてメッセージを終了してください。
  カメラは「リムーバブルディスク」として認識されます。

Macintoshの場合

- Mac OSでは、iPhotoが画像処理ソフトとしてあらかじめ設定されています。このデジタルカメラを初めて接続したときは、iPhotoが自動的に起動します。iPhotoを閉じて、OLYMPUS Masterを起動させてください。

注意

- パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。

OLYMPUS Masterを起動する

Windowsの場合

1 デスクトップの「OLYMPUS Master 2」アイコン をダブルクリックします。

Macintoshの場合

1 「OLYMPUS Master 2」フォルダ内の「OLYMPUS Master 2」アイコン をダブルクリックします。

- ブラウズウィンドウが表示されます。
- OLYMPUS Masterをインストールして初めて起動すると、ブラウズウィンドウの前にOLYMPUS Masterの初期設定画面とユーザー登録画面が表示されます。画面の案内にしたがって操作してください。

OLYMPUS Masterを終了するには

1 各ウィンドウで「閉じる」 をクリックします。

- OLYMPUS Masterが終了します。

カメラの画像をパソコンで表示する

取り込んで保存する

1 ブラウズウィンドウで「取り込み」 をクリックして、「カメラから取り込み」 をクリックします。

- カメラから取り込みウィンドウが表示されます。カメラ内のすべての画像が一覧表示されます。

2 「新規アルバム」を選択して、アルバムの名前を入力します。

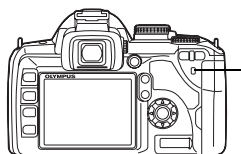
3 画像ファイルを選択し、「取り込み」ボタンをクリックします。

- 取り込み完了のメッセージが表示されます。

4 「今すぐ画像を見る」ボタンをクリックします。

- ブラウズウィンドウに取り込んだ画像が表示されます。

カメラを取り外す

1 カメラのカードアクセスランプの点滅が終了していることを確認します。

カードアクセスランプ

2 USBケーブルを抜く準備をします。

Windowsの場合

1) システムトレイに表示されている「ハードウェアの取り外し」アイコン をクリックします。
2) 表示されるメッセージをクリックします。
3)「デバイスは安全に取り外すことができます」が表示されたら、「OK」をクリックします。

Macintoshの場合

1) デスクトップの「名称未設定」(または「NO_NAME」)アイコンをドラッグすると「ごみ箱」アイコンが「取り出し」アイコンに変わりますので、そのまま「取り出し」アイコンの上にドロップしてください。

3 カメラからUSBケーブルを抜きます。

注意

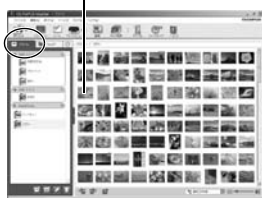
- Windows の場合：
  「ハードウェアの取り外し」をクリックした際、「カメラを停止できません」という警告画面が表示される場合があります。その場合は、カメラの画像データを読み込み中でないこと、またカメラの画像ファイルを開いていたアプリケーションが起動していないことを確認してください。確認後、「ハードウェアの取り外し」の操作を再度行い、その後ケーブルを外してください。

静止画を見る

1 ブラウズウィンドウの「アルバム」タブをクリックし、見たいアルバムを選択します。

- 選択したアルバムの画像がサムネイルエリアに表示されます。

2 見たい静止画のサムネイルをダブルクリックします。

- 画像編集ウィンドウに切り換わり、画像が拡大されます。
- 「戻る」をクリックすると、ブラウズウィンドウに戻ります。

OLYMPUS Masterを使用せずにパソコンに画像を取り込んで保存する

このカメラはUSBストレージクラスに対応しています。OLYMPUS Masterを使用せずに付属の専用USBケーブルでカメラとパソコンを接続して、画像を取り込んで保存することもできます。接続できるパソコンの環境は以下のとおりです。

Windows ：2000 Professional/XP Home Edition/XP Professional/Vista
Macintosh：Mac OS X v10.3以降

注意

- Windows Vistaをお使いの場合は、120ページの手順3で**[MTP]**を選択することでWindows フォト ギャラリーが使用できます。
- USB端子を装備していても、以下の環境では正常な動作は保証いたしません。
  - 拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン
  - 工場出荷時にOSがインストールされていないパソコンおよび自作パソコン

こんなときは?

撮影前、こんなときは

電池を入れてもカメラが動かない

電池が充電されていない

• 充電器で電池を充電してください。

低温下にあり、一時的に電池の性能が低下した

• 電池は低温下にあると性能が低下して、カメラを動かすための十分な充電量が確保できない場合があります。カメラから電池を一度取り出してポケットに入れるなどして少し温めてから使用してみましょう。

シャッターボタンを押しても撮影ができない

カメラが自動的に電源オフになっていた

• カメラは何も操作しないと一定時間後にスリープモードと呼ばれる省電力状態に入り、カメラは動作停止します。シャッターボタンなどいずれかのボタンを操作するとカメラは動作を再開します。更に4時間何も操作をしないと、自動的に電源が切れます。カメラは電源を入れなおすまで動きません。☞「スリープ時間」（P.104）、「自動電源OFF」（P.104）

フラッシュが充電中である

• フラッシュを起こしているとき、スーパーコンパネやファインダ内の ⚡ マークが点滅していたらフラッシュが充電中です。点滅が終わるまで待ってからシャッターボタンを押してください。

ピント合わせができなかった

• ファインダ内の合焦マークが点滅しているときは、AFでピントを合わせることができなかったときです。もう一度シャッターボタンを押しなおしてください。

長秒時ノイズ低減が作動している

• 夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。このカメラは長秒時の撮影後にノイズを取り除く動作をしますが、この間、次の撮影はできません。**[長秒時ノイズ低減]**は**[OFF]**に設定することもできます。☞「長秒時ノイズ低減」（P.77）

日時設定がされていない

購入時のままで使用している

• お買い上げ時のカメラの状態では日時設定はされていません。日時設定をしてからご使用ください。☞「日時を設定する」（P.15）

カメラから電池を抜いていた

• 電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には日時の設定が正しいことを確認してください。

こんな撮影がしたい

狙ったものにピントを合わせたい

被写体の種類によっていくつかの方法があります。

被写体にAFターゲットがあっていない

- 被写体にAFターゲットがあたるようにしてフォーカスロックを使います。
  ☞「フォーカスロック―ピントが合わないとき」（P.62）

それぞれのAFターゲットに被写体以外のものがあたっている

- **[AFターゲット選択]**を**[▪]**に設定し、画面中央でピント合わせをします。☞「AFターゲット選択」（P.60）

被写体の動きが早い

- 撮影しようとする位置とほぼ同じ距離のものでピントを合わせ（シャッターボタン半押し）、そのまま撮影する構図に移して被写体を待ちます。

マクロレンズによる接写をしている

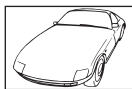
- マクロレンズを使って接写する場合、被写体の拡大率が大きいほどAFではピントが合いにくくなります。マニュアルフォーカス（MF）を使って、フォーカスリングを回して手動でピントを合わせます。☞「MF（マニュアルフォーカス）」（P.58）

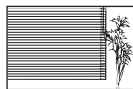
暗いところで撮影をしている

- 内蔵フラッシュはAFイルミネータとして機能させることができます。フラッシュを起こしておくと、AFではピントの合わせにくい暗いところでもピント合わせができます。☞「内蔵フラッシュ撮影」（P.81）、「AFイルミネータ」（P.99）

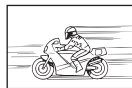
オートフォーカスの苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

合焦マーク点滅
このようなものにはピントが合いません。

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがある場合

繰り返しパターン

合焦マークは点灯するが、写したいものにピントが合わない。

遠いものと近いものが混在する場合

動きの速いもの

被写体がAFターゲット内にない

いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでピントを合わせた後、構図を決めて撮影してください。

ぶれない写真を撮りたい

写真がぶれる理由は、いくつかあります。

被写体が暗い

- 被写体の明るさに合わせてシャッター速度は変化します。被写体が暗くシャッター速度が遅いとき、被写体が動くとぶれやすくなります。またSCENE（シーンモード）の中には、フラッシュが発光禁止に設定されている場合があるので、シャッター速度はさらに遅くなります。
  三脚などを使ってカメラを固定しましょう。さらにリモコン（別売）を使ってシャッターを切ると効果的です。
  また、SCENE（シーンモード）の[(手)]（ぶれ軽減）で撮影する方法もあります。ISO感度が自動的に高くなるので、明るさが不足している状況でも、手持ちでフラッシュを発光させないで撮影できます。

シャッターを切るときにカメラがぶれている、カメラを構える手がぶれている。

- シャッターボタンは静かに押してください。また、カメラは両手で持って正しく構えましょう。
- 手ぶれ補正機能を使って撮影します。☞「手ぶれ補正」（P.67）
- セルフタイマーや低振動モードを使うことで、シャッターを切るときのぶれを防ぐことができます。☞「セルフタイマー撮影」（P.64）、「低振動モード」（P.66）

フラッシュをあまり光らせないで撮りたい

フラッシュをオートに設定しているとき、明るさが不足して手ぶれが発生するような状況では、フラッシュが自動的に光ります。被写体の距離が遠いとフラッシュが光ってもあまり効果がない場合があります。このようなときは以下の方法があります。

手ぶれ補正機能を設定する

- 手ぶれが補正されるので、明るさが不足している状況でも、手持ちでフラッシュを発光させないで撮影できます。☞「手ぶれ補正」（P.67）

SCENE（シーンモード）を[(手)]（ぶれ軽減）に設定する

- ISO感度が自動的に高くなるので、明るさが不足している状況でも、手持ちでフラッシュを発光させないで撮影できます。

ISO感度の設定を高くする

- ISO感度の設定の数値を高くします。画像が粗くなる場合があります。☞「ISO感度の設定」（P.56）

撮影した写真が粗い

ISO感度を高く設定して撮影した

- ISO 感度の設定を高くすると、「ノイズ」と言われる本来そこにはないはずの色の小さな点や均一の色の部分に色むらが発生し、画像が粗く見えます。このカメラはノイズを抑えて高感度で撮影できる機能を備えていますが、ISO感度を高くすると、低いときよりは粗くなります。☞「ISO感度の設定」（P.56）

撮影した画像が全体的に白っぽい

逆光や半逆光で撮影すると起こる場合があります。フレアやゴーストと言われる現象によるものです。できるだけ画面内に強い光源が写らないように構図を考えましょう。画面内に光源がなくてもフレアは発生する場合があります。レンズフードを使って光源から直接レンズに光があたらないようにします。レンズフードでも効果がない場合は手などをかざして光を遮ってみましょう。
☞「交換レンズについて」（P.138）

正しい色で撮りたい

撮影した写真の色が見た目と違う原因は被写体を照らす光源です。**[ホワイトバランス]**はカメラが正しい色を判断するための機能です。通常は**[オート]**でほとんどの環境をカバーしますが、被写体の条件によっては**[ホワイトバランス]**の設定を変えて試してみる方が良い場合があります。
- 晴天の日中でも被写体が陰になるとき
- 窓辺などで外光と照明光が重なってあたるとき
- 画面の中に白いものがないとき
  ☞「ホワイトバランスの選択」（P.71）

白い砂浜や雪景色をきれいな白で撮りたい

通常、雪などの白い被写体を撮影すると実際より暗く写ってしまいます。見たままの白を表現する方法はいくつかあります。
- 露出補正を**[+]**に補正します。☞「露出補正」（P.53）
- SCENE（シーンモード）の**[ ]**（ビーチ＆スノー）を使って撮影します。晴天の海や雪山で撮影するのに最適です。☞「モードダイヤル」（P.4）
- **[⊡HI]**（スポット測光ハイライトコントロール）を使います。
  ファインダ中央を、白く表現したい部分にあててシャッターボタンを半押しします。中央で測光した部分が白く写るように設定されます。☞「測光方式の変更」（P.52）
- AEブラケット機能を使って撮影します。
  露出補正の量がわからないときは、AEブラケットを使ってみましょう。シャッターボタンを押すたびに補正値を少しずつ変えて撮影されます。露出補正を少し大目に設定しておけば、その値を中心に上下に補正値を変えて撮影できます。
  ☞「AEブラケット撮影」（P.55）

逆光でも人物の顔が暗くならないように撮りたい

被写体に比べて背景などが極端に明るい場合は、明るい部分に露出が影響されて被写体が暗く写ってしまいます。これは、カメラが画面全体の明るさから判断して露出を決めてしまうためです。
- **[測光]**を**[⊡]**（スポット測光）に設定して画面中央で被写体の露出を測ります。構図を変えるときは被写体を画面中央におき、**AEL/AFL**ボタンを押しながら構図を変えてシャッターボタンを押します。☞「測光方式の変更」（P.52）
- フラッシュを起こしてフラッシュモードを**[⚡]**（強制発光）に設定して撮影します。逆光でも顔が暗くならずに撮影できます。**[⚡]**（強制発光）は逆光の他、蛍光灯など人工照明下での撮影のときにも使用します。☞「フラッシュモードの設定」（P.78）

明るすぎたり暗すぎたりして写る

Sモードや**A**モードで撮影するとき、シャッター速度や絞りの表示が点滅することがあります。点滅時は、正しい露出になっていないことを示しています。このままの状態で撮影すると、明るすぎる、または暗すぎる写真になってしまいます。その場合は、絞り値やシャッター速度の設定値を変更してください。
☞「絞り優先撮影」(P.48)、「シャッター優先撮影」(P.49)、「露出警告表示」(P.142)

被写体に無い明るい点が写り込む

撮像素子のドット抜けの可能性があります。**[ピクセルマッピング]**を行ってください。また、消えないときは何度かピクセルマッピングを行ってみてください。
☞「画像処理機能をチェックする—ピクセルマッピング」(P.135)

撮影中、これが知りたい

撮影できる枚数を多くしたい

撮影した画像は、カードに記録されます。より多くの画像を記録するには以下の方法があります。

- 画質モードを変えます。
  画質モードによって1枚の画像の容量は異なります。カードの空き容量を確保できない場合は画質モードを変えて撮影してみましょう。画像サイズが小さく、圧縮率が高いほど画像の容量は小さくなります。画像の容量が小さくなるように画像サイズと圧縮率を組み合わせて、**[画質設定]**で登録します。
  また、**[ピクセルサイズ]**で画像サイズの**[M]**、**[S]**のピクセルサイズを小さくすると、画像の容量はさらに小さくなります。☞「画質モードの選択」(P.69)、「画質設定」(P.108)、「ピクセルサイズ」(P.108)
- 容量の大きいカードをお使いください。
  記録できる画像枚数は、使用するカードの容量によって異なります。容量の大きいカードをお使いください。

新しいカードを使いたい

オリンパス製以外のカードを使うときや、パソコンなどで他の用途に使用したカードをカメラに入れると、**[このカードは使用できません]**と表示されることがあります。その場合は、**[カード初期化]**の機能を使ってカードを初期化してください。☞「カードを初期化する」(P.137)

電池を長持ちさせたい

以下の操作をすると実際に撮影をしなくても、電池の消耗は進みます。

- シャッターボタンの半押しを繰り返す
- 撮影した画像の再生を長時間繰り返す
- 長時間ライブビュー機能を使う

電池の消耗をできるだけ防ぐには、こまめに電源を切るようにしましょう。

メニューで選べない機能がある

メニューを表示したとき、十字ボタンを使っても選べない項目がある場合があります。
- 現在の撮影モードで設定できない項目の場合
- すでに設定済みの項目との組み合わせの関係で設定できない場合：
  [ ]と**[長秒時ノイズ低減]**の組み合わせなど。

イメージャ AFが使えない

イメージャ AFは対応レンズとの組み合わせのみ可能です。対応しているオリンパスレンズについては、オリンパスホームページでご確認ください。

画質モードの選び方の目安を知りたい

画質モードは、大きくはRAWとJPEGの2種類に分けられます。RAWは画像自体にホワイトバランスやコントラストなどの設定を反映せずに記録します。JPEGはこれらの設定を反映した画像で記録します。また、JPEGは画像を記録する際にファイルサイズを小さくするために圧縮して記録します。JPEGは3種類の画像サイズ（L/M/S）と4種類の圧縮率（SF/F/N/B）を組み合わせた12通りの設定から、4通りを登録することができます。圧縮率が大きいほど画像を拡大して表示した場合に粗さが目立ちます。選択する際のおおよその目安は以下の通りです。

撮影時の設定を元に、パソコンで微調整したい
- **[RAW]**

A3/A4などの大きなサイズで印刷したい／パソコンで画像処理したい
- 画像サイズL、圧縮率SF/F/N/B

はがきなどのサイズに印刷したい
- 画像サイズM、圧縮率SF/F/N/B

メールに添付したりホームページに載せる
- 画像サイズS、圧縮率SF/F/N/B

☞「画質モードとファイル容量、撮影可能枚数」（P.145）

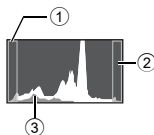
設定した機能を購入時の設定に戻したい

- 設定した機能は電源を切っても保持しています。
- 工場出荷時の設定に戻したいときは、**[カスタムリセット設定]**で**[リセット]**を実行します（ただし、この場合も**[コントラスト]**の設定値など、一部の機能については保持する仕様となっています）。また、リセットしたときの設定を2種類まで登録することができます。カメラの各機能を設定して**[カスタムリセット設定]**で**[リセット1]**または**[リセット2]**に登録します。☞「カメラを出荷時の設定に戻す」（P.31）

屋外で液晶モニタが見にくい状況で露出の確認をしたい

明るい屋外での撮影では、液晶モニタが見にくく露出の確認がしづらいことがあります。
ライブビュー撮影中に**INFO**ボタンを繰り返し押してヒストグラムを表示させます。
ヒストグラム表示の簡単な見かたは次の通りです。

ヒストグラム表示について

① このあたりでグラフに著しく突出した部分が多い場合、画像は黒くつぶれ気味に写ります。
② このあたりでグラフに著しく突出した部分が多い場合、画像は白くとび気味に写ります。
③ ヒストグラムの緑色の部分は、スポット測光エリア内の輝度分布です。

☞「情報表示を切り換える」(P.44)

設定した機能を後で使えるように残しておきたい

[マイモード設定]で現在のカメラの設定状態を2つまで登録しておくことができます。マイモードで撮影するときは、**[Fn ボタン機能]**を**[マイモード撮影]**に設定する必要があります。設定後、**Fn** ボタンを押しながら撮影します。
☞「Fnボタン機能」(P.101)、「マイモード設定」(P.103)

再生中、こうしたい

撮影した画像の設定値などの情報を知りたい

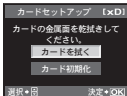
画像を再生して**INFO**ボタンを押します。繰り返し押すと、表示される情報量が変わります。☞「情報表示」(P.91)

画像をパソコンで見るとき、こうしたい

パソコンの画面で画像全体を見たい

パソコンのモニタ上で画像が表示されるときの大きさは、パソコンの設定によって変わります。モニタの設定が1024 × 768のときInternet Explorerを使って画像を見る場合、画像サイズが2048 × 1536の画像を100%で表示するとスクロールしないと全体を見ることができません。この場合、いくつかの方法があります。

画像閲覧用のソフトを使って画像を見る

- 付属のCD-ROMのOLYMPUS Masterをインストールして使用してください。

パソコン画面のプロパティの設定を変更する

- デスクトップのアイコンの配置が変わってしまうことがあります。パソコンの設定方法は、パソコンの取扱説明書をお読みください。

RAWで記録した画像を見たい

付属のCD-ROMのOLYMPUS Masterをインストールして使用してください。OLYMPUS MasterのRAW現像の機能を使うと、RAW画像を撮影時のカメラの設定で現像したり、ホワイトバランスやコントラストなどの設定を細かく変更することもできます。

エラーコード

ファインダ内の表示	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
通常表示	カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
E Card	このカードは使用できません	カードに問題があります。	もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードを初期化してください。初期化できない場合、このカードはご使用になれません。
P Card	書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。再度パソコンを使って設定を解除してください。
表示なし	撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
表示なし	カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約や新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
表示なし	カードセットアップ [xD] カードの金属面を乾拭きしてください。 カードを拭く カード初期化 選択 決定 OK	xD-ピクチャーカードが読み込めていません。またはカードが初期化されていません。	• [カードを拭く]を選択し、OKボタンを押してカメラの電源を切ります。カードを抜いて乾いた柔らかい布で金属面を乾拭きしてください。 • [カード初期化]▶[実行]の順に選択し、OKボタンを押して初期化します。初期化すると、カード内のデータはすべて消去されます。

ファインダ内の表示	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
表示なし	画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。 撮影してから再生してください。
表示なし	この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。または、このカメラでは再生できない画像です。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。 それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
表示なし	この画像は編集できません	他のカメラで撮影した画像などを選択している場合は編集できません。	パソコンの画像ソフトなどで編集してください。
表示なし	しばらく使用できません カメラの内部温度が下がるまでお待ちください	長時間のライブビューや連写などによりカメラの内部温度が上昇しています。	しばらくすると、自動的に電源が切れます。カメラの内部温度が下がって撮影可能になるまでしばらくお待ちください。
oP Card	カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。
表示なし	電池残量がありません	電池残量がありません。	充電してください。
表示なし	接続されていません	カメラがパソコンまたはプリンタに正しく接続されていません。	カメラとパソコンまたはプリンタを正しく接続しなおしてください。
表示なし	用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
表示なし	インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。

ファインダ内の表示	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
表示なし	紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
表示なし	プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中にはプリンタの操作はしないでください。
表示なし	プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから再度電源を入れなおしてください。
表示なし	この画像はプリントできません	他のカメラで撮影した画像などでは、プリントできないものがあります。	パソコンなどを使ってプリントしてください。

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り7年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載のⒺマークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理個所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

お手入れ

カメラのお手入れと保管

カメラのお手入れ

カメラのお手入れの際は、カメラの電源を切り、電池を取り外します。

カメラの外側：

- 柔らかい布でやさしく拭きます。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。その後、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ：

- 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ・ミラー・フォーカシングスクリーン：

- 市販のレンズブロアーでほこりを吹き払います。レンズはレンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カメラの保管

- 長期間、カメラを使用しないときは、電池とカードを外してください。風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 電池は定期的に取り換えて、カメラの機能をテストしてください。

撮像素子のクリーニングとチェック

このカメラは撮像素子にゴミが付着しない構造にするとともに、撮像素子前面に付着したゴミやホコリを超音波振動により、払い落とす機能を備えています（ダストリダクション機能）。ダストリダクション機能は、パワースイッチをONにするときのほか、ライブビュー起動時・終了時にも働きます。また撮像素子と画像処理回路のチェックを行うピクセルマッピングを働かせる際にも同時に作動します。カメラの電源を入れるときはダストリダクションが働きますので、カメラをできるだけ正位置にしてください。ダストリダクションが動作中はSSWFランプが点滅します。

☞「SSWFランプ」（P.14）

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- 薬品を扱うような場所での保管は、腐食などの原因になるため避けてください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。
- 長期間使用しなかったカメラは、使用前に各部の点検をしてください。海外旅行などの大切な撮影の前には、必ず撮影をしてカメラが正常に動作することを確かめてください。

ゴミの除去―クリーニングモード

撮像素子にゴミやホコリが付着すると、撮影した画像に黒い点が写ることがあります。オリンパスのサービスステーションへクリーニングをお申し付けください。撮像素子は非常に精密で、傷つきやすいものです。やむなくご自身でクリーニングされる場合は、以下の手順と注意をお守りください。クリーニング中に電池残量がなくなると、シャッターが閉まり、シャッター幕やミラーの破損の原因になります。電池残量にご注意ください。

1 レンズを取り外し、パワースイッチをONにします。

2 MENU ▶ [Y1] ▶ [Y] ▶ [クリーニングモード]

3 ▷を押して、OKボタンを押します。

- クリーニングモードになります。

4 シャッターボタンを全押しします。

- ミラーが上がり、シャッター幕が開きます。

5 撮像素子をクリーニングします。

- ブロアー（市販品）で注意しながら、撮像素子の表面のほこりを吹き飛ばします。

6 電源を切ってクリーニングを終えるときは、ブロアーがシャッター幕にはさまらないようにしてください。

- カメラの電源を切ると、シャッター幕が閉じ、ミラーが下がります。

注意

- ブロアー（市販）が撮像素子に触れないようにしてください。ブロアーが撮像素子に触れると傷がつきます。
- ブロアーをレンズマウントより中に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕が破損します。
- ブロアー以外のものは使用しないでください。高圧でガスなどを吹き付けると、撮像素子の表面でガスが凍結して傷がつきます。

画像処理機能をチェックする―ピクセルマッピング

撮像素子と画像処理機能のチェックを同時に行います。最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けた後に実行します。

1 MENU ▶ [Y2] ▶ [ピクセルマッピング]

2 ▷を押して、OKボタンを押します。

- ピクセルマッピング実行中の**[処理中]**バーが表示されます。終了するとメニューに戻ります。

注意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

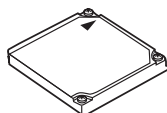
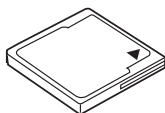
カードについて

使用できるカード

本書では、記録メディアを「カード」と呼びます。このカメラで使用できるカードは、コンパクトフラッシュ、マイクロドライブ、xD-ピクチャーカード（別売）です。

コンパクトフラッシュ
大容量かつ堅牢性の高いフラッシュメモリーカードです。市販のコンパクトフラッシュが使用できます。

マイクロドライブ
大容量に対応した小型のハードディスクドライブです。CF + TypeII（コンパクトフラッシュの拡張規格）準拠のマイクロドライブが使用できます。

xD-ピクチャーカード
主にコンパクトカメラで使用されている記録メディアです。

マイクロドライブ使用時のご注意

マイクロドライブは小型のハードディスクドライブです。回転系記録媒体のため、他のカードのような固体記録媒体に比べ、振動や衝撃に弱く、使用時（とくに記録中や再生中）は、カメラに振動や衝撃を与えないよう十分な注意が必要です。ご使用の前に以下の注意事項をよくお読みください。
マイクロドライブの取扱説明書も合わせてお読みください。

- 画像記録中にカメラを机などに置く場合は、カメラに衝撃を与えないでください。
- 工事などで地盤が振動している場所や、舗装の悪い道を走行中の車など、カメラに激しく振動が伝わる場所では使用しないでください。
- 強い磁気のある場所へ近づけないでください。
- 3000 m以上の高度など気圧の低い場所では正常に動作しない場合があります。

注意

- 初期化や削除してもカード内のデータは完全に消去されません。廃棄する際は、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

カードを初期化する

当社製以外のカードやパソコンで初期化したカードを使用する場合は、必ずこのカメラで初期化しなおしてください。
初期化すると、プロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードを初期化するときは、大切なデータが記録されていないことを確認してください。

1 MENU ▸ [📷1] ▸ [カードセットアップ]

2 △▽で[カード初期化]を選択します。Ⓞボタンを押します。

3 △▽で[実行]を選択します。Ⓞボタンを押します。

• 初期化が実行されます。

こんなときは

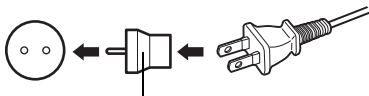
2つのカードスロットにカードを挿入しているときは：

→ **[記録カード選択]** で使用するカードを選択してください。☞「記録カード選択」（P.110）

電池／充電器について

- 電池は、当社製リチウムイオン電池（BLM-1）1 個を使用します。
それ以外の電池は使用できません。
- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。
  - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - ライブビュー撮影中。
  - 長時間、液晶モニタで画像を表示する。
  - パソコンやプリンタとの接続時。
- 消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れることがあります。
- ご購入の際、充電池は十分に充電されていません。ご使用の前に専用の充電器（BCM-2）で充電を行ってください。
- 付属の充電池の充電時間は通常約5時間（目安）です。
- 専用の充電器以外は使用しないでください。

海外での使用について

- 充電器は、世界中のほとんどの家庭用電源AC100～240 V（50/60 Hz）でご使用になれます。ただし、国や地域によっては、電源コンセントの形状が異なるため、変換プラグアダプター（市販）が必要になる場合があります。

変換プラグアダプター（市販）

イラストの変換プラグアダプター（市販）は一例です。
詳しくは、電気店や旅行代理店でご確認ください。

- 市販の海外旅行用電子式変圧器（トラベルコンバーター）は、充電器が故障することがありますので使用しないでください。

交換レンズについて

撮影シーン、目的に合わせてレンズを選択してください。
レンズは専用レンズ（フォーサーズマウント）をご使用ください。専用レンズ以外では、オートフォーカスや正確な測光はできません。また、働かない機能があります。

フォーサーズマウント
オリンパスが開発した規格。フォーサーズシステムのレンズマウント規格。既存の35 mmフィルム一眼レフカメラ用レンズシステムにとらわれず、デジタルカメラの特性にふさわしい光学設計に基づいて、新たに開発されたデジタルカメラ専用の交換レンズです。

ZUIKO DIGITAL用交換レンズ

過酷なプロユースにも耐えうるよう設計された「フォーサーズシステム」専用の交換レンズです。「フォーサーズシステム」の利点を活かすことで、大口径でありながら小型軽量化を実現しています。

フォーサーズシステムレンズの焦点距離と被写界深度について

35 mm判カメラに対してフォーサーズシステムカメラは、同じ焦点距離、同じ絞り値に対して得られる効果が異なります。

焦点距離
35 mm判カメラと同じ焦点距離に対して、2倍相当の望遠効果が得られます。そのため、小型の望遠レンズ設計が可能です。たとえば、フォーサーズシステムレンズ14-50 mmは、35 mm判換算で28-100 mmに相当します。

- フォーサーズシステムレンズの画角を35 mm判換算した場合、得られる遠近感は35 mm判カメラと同じです。

被写界深度

35 mm判カメラに対して2倍相当の深い深度が得られます。そのため、開放絞りでより多くの光を集めることができます。たとえば、F2.0の明るさのフォーサーズシステムレンズは、35 mm判換算でF4.0に相当します。

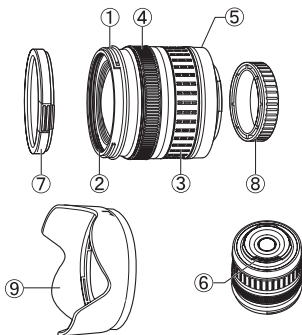
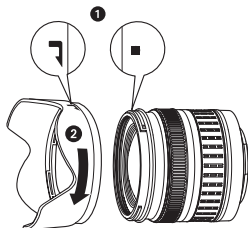
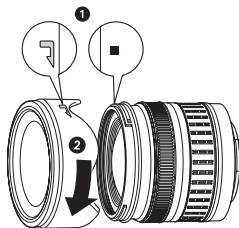
• 背景のボケ量は、35 mm判換算した値で得られる効果と同じです。

注意

• ボディキャップやレンズの着脱を行うときは、カメラ内部へのゴミや異物の侵入を防ぐため、レンズの装着部を下に向けて行ってください。
• 埃の多い場所ではボディキャップの取り外しや、レンズの装着を行わないでください。
• カメラに取り付けられたレンズを、太陽に向けないでください。太陽光が焦点を結んで故障や火災の原因になることがあります。
• ボディキャップ、リアキャップをなくさないようにご注意ください。
• カメラにレンズを取り付けていないときは、埃の侵入を防ぐためボディキャップを装着してください。

主なZUIKO DIGITALレンズの仕様

■ 各部の名称

① フード取り付け部
② フィルター取り付けネジ
③ ズームリング
④ フォーカスリング
⑤ 取り付け指標
⑥ 電池回路接点
⑦ フロントキャップ
⑧ リアキャップ
⑨ レンズフード

■ フードの取り付け方

■ フードの収納のしかた

• 逆光時はフードを取り付けて撮影してください。
• 17.5-45 mmはレンズフードが付きません。

■ 主な仕様

項目	17.5-45 mm	14-42 mm	40-150 mm
マウント	フォーサーズマウント		
焦点距離	17.5～45 mm	14～42 mm	40～150 mm
最大口径比	F3.5～5.6	F3.5～5.6	F4～5.6
画角	63°～27°	75°～29°	30°～8.2°
レンズ構成	7群7枚	8群10枚	9群12枚
	多層膜コーティング（一部単層）		
絞り制御	F3.5～22	F3.5～22	F4～22
撮影距離	0.28 m～∞	0.25 m～∞	0.9 m～∞
ピント調整方式	AF/MF切り換え		
質量（フード、キャップを除く）	210 g	190 g	220 g
大きさ（最大径 × 全長）	ø71 × 70 mm	ø65.5 × 61 mm	ø65.5 × 72 mm
レンズフード取り付け	—	バヨネット式	
フィルター取り付けネジ径	52 mm	58 mm	

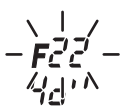
別売のエクステンションチューブEX-25は下記の範囲で使用できます。
EX-25取り付け時のピントの調整方式はMFになります。

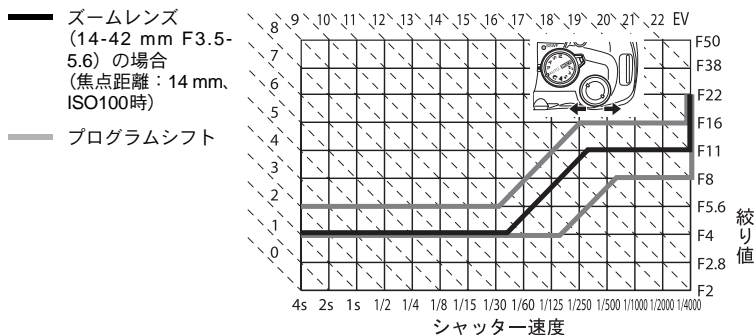
レンズ・焦点距離		撮影可能範囲	倍率 （）は35 mmフィルムカメラ換算
17.5-45 mm	17.5 mm	ピントが合わないため使用できません。	
	28 mm	15.1 cm～15.9 cm	0.89～1.16×（1.78～2.32×）
	45 mm	18.4 cm～22.4 cm	0.57～0.91×（1.14～1.82×）
14-42 mm	14 mm	ピントが合わないため使用できません。	
	25 mm	13.3 cm	1.02×（2.04×）
	42 mm	16.2 cm～17.3 cm	0.61～0.69×（1.22～1.38×）
40-150 mm	40 mm	19.0 cm～20.4 cm	0.61～0.70×（1.22～1.40×）
	80 mm	28.0 cm～40.6 cm	0.32～0.48×（0.64～0.96×）
	150 mm	48.0 cm～118.8 cm	0.17～0.39×（0.34～0.78×）

■ **保管上のご注意**

- 使用後は清掃して保管してください。レンズ面のごみや汚れは、ブロアーブラシや刷毛で取り除きます。レンズの汚れは市販のレンズクリーニングペーパーを使ってください。有機溶剤は使わないでください。
- 必ず前後のレンズキャップを取り付けて保管してください。
- 防虫剤のあるところに保管しないでください。

撮影時のご注意

- フィルターを2枚以上重ねたり、厚みがある種類を使用したときは、画面にけられが生ずることがあります。

プログラム線図（Pモード）

Pモードのときは、被写体の明るさに応じて、下のグラフ（プログラム線図）のように、絞り値とシャッター速度が選択されるようにプログラムされています。プログラム線図は装着するレンズによって変わります。

露出警告表示

シャッターボタンを半押ししたとき、適正な露出が得られない場合はファインダとスーパーコンパネの表示が点滅します。

撮影モード	警告表示例（点滅）	状態	対処方法
P	F3.5 60"	被写体が暗すぎます。	• ISO感度を上げてください。 • フラッシュを使用してください。
	F22 4000	被写体が明るすぎます。	• ISO感度を下げてください。 • 市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください。
A	F22 30"	露出アンダーです。	• 絞り値を小さくしてください。 • ISO感度を上げてください。
	F3.5 4000	露出オーバーです。	• 絞り値を大きくしてください。 • ISO感度を下げるか、市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください。
S	F3.5 4000	露出アンダーです。	• シャッター速度を遅くします。 • ISO感度を上げてください。
	F22	露出オーバーです。	• シャッター速度を速くします。 • ISO感度を下げるか、市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください。

* 使用されるレンズおよび焦点距離により、点滅時の絞り値は変わります。

撮影モード別使用可能なフラッシュモード

<table>
<tr><th>撮影モード</th><th>スーパーコンパネの表示</th><th>フラッシュモード</th><th>発光タイミング</th><th>発光許可条件</th><th>シャッター速度制限条件</th></tr>
<tr><td rowspan="11">AUTO
P
A
*2</td><td>AUTO</td><td>オート発光</td><td rowspan="3">先幕シンクロ</td><td rowspan="2">暗いとき、逆光*1のとき発光</td><td rowspan="2">1/30秒～1/180秒</td></tr>
<tr><td></td><td>オート発光（赤目軽減）</td></tr>
<tr><td></td><td>強制発光</td><td>いつでも発光</td><td>60秒～1/180秒</td></tr>
<tr><td></td><td>発光禁止</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>SLOW</td><td>スローシンクロ（赤目軽減）</td><td rowspan="2">先幕シンクロ</td><td rowspan="3">暗いとき、逆光*1のとき発光</td><td rowspan="9">60秒～1/180秒</td></tr>
<tr><td>SLOW</td><td>スローシンクロ（先幕シンクロ）</td></tr>
<tr><td>SLOW2</td><td>スローシンクロ（後幕シンクロ）</td><td>後幕シンクロ</td></tr>
<tr><td>FULL</td><td>マニュアル発光（FULL）</td><td rowspan="6">先幕シンクロ</td><td rowspan="6">いつでも発光</td></tr>
<tr><td>1/4</td><td>マニュアル発光（1/4）</td></tr>
<tr><td>1/16</td><td>マニュアル発光（1/16）</td></tr>
<tr><td>1/64</td><td>マニュアル発光（1/64）</td></tr>
<tr><td rowspan="8">S
M</td><td></td><td>強制発光</td></tr>
<tr><td></td><td>強制発光（赤目軽減）</td></tr>
<tr><td></td><td>発光禁止</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>2nd CURTAIN</td><td>強制発光／スローシンクロ（後幕シンクロ）</td><td>後幕シンクロ</td><td rowspan="5">いつでも発光</td><td rowspan="5">60秒～1/180秒</td></tr>
<tr><td>FULL</td><td>マニュアル発光（FULL）</td><td rowspan="4">先幕シンクロ</td></tr>
<tr><td>1/4</td><td>マニュアル発光（1/4）</td></tr>
<tr><td>1/16</td><td>マニュアル発光（1/16）</td></tr>
<tr><td>1/64</td><td>マニュアル発光（1/64）</td></tr>
</table>

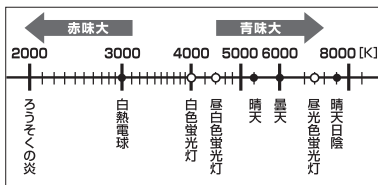
*1 専用フラッシュがスーパーFPモードに設定されているとき、通常のフラッシュ発光秒時以上で逆光を判定して発光します。☞「スーパー FP発光」（P.85）

*2 夜景＆人物モードでは、AUTO、 、 は、設定できません。

資料

13

ホワイトバランス色温度

物質は温度が高くなるとしだいに光り始め、その光は温度が高くなるにしたがい赤みを帯びた光色から青みを帯びた光色に変化します。このように光の色を絶対温度：K（ケルビン）で表したものを色温度と呼びます。太陽などの自然光源、電球などの人工光源の光色は色温度で表すことができます。
これに対して、蛍光灯など色温度で表すことが不適当な人工光源があります。これらの光色は色温度による色味からは、ずれた色味をしています。この色味のずれ量が小さければ色温度換算することがあり、これを相関色温度といいます。
このカメラのプリセット値4000Kと4500K、6600Kは相関色温度です。厳密な意味での色温度ではありません。蛍光灯下での撮影のときにお使いください。

• 各光源として設定された色温度は目安です。

画質モードとファイル容量、撮影可能枚数

表内のファイルサイズはおおよその目安です。

画質モード	画像サイズ（ピクセルサイズ）	圧縮率	ファイル形式	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数（xD-ピクチャーカード：1GBの場合）
RAW	3648 × 2736	ロスレス圧縮	ORF	約11	91
L SF		1/2.7	JPEG	約6.8	147
L F		1/4		約4.7	211
L N		1/8		約2.2	460
L B		1/12		約1.5	687
M SF	3200 × 2400	1/2.7		約5.3	187
M F		1/4		約3.7	267
M N		1/8		約1.7	597
M B		1/12		約1.1	888
M SF	2560 × 1920	1/2.7		約3.6	280
M F		1/4		約2.2	466
M N		1/8		約1.1	927
M B		1/12		約0.7	1361
M SF	1600 × 1200	1/2.7		約1.3	799
M F		1/4		約0.8	1163
M N		1/8		約0.5	2284
M B		1/12		約0.3	3198
S SF	1280 × 960	1/2.7		約0.8	1230
S F		1/4		約0.5	1776
S N		1/8		約0.3	3366
S B		1/12		約0.2	4920
S SF	1024 × 768	1/2.7		約0.5	1881
S F		1/4		約0.4	2665
S N		1/8		約0.2	4920
S B		1/12		約0.1	7107
S SF	640 × 480	1/2.7		約0.2	4569
S F		1/4		約0.2	6396
S N		1/8		約0.1	10661
S B		1/12		約0.1	12793

注意

- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行ってもファインダや液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。
- 実際のファイルサイズは被写体によって変わります。
- 液晶モニタに表示される撮影枚数は9999までです。

マイモード・カスタムリセット設定で登録可能な機能

機能	マイモードの登録可否	カスタムリセットの登録可否
露出補正	✓	✓
手ぶれ補正	✓	✓
[icon]/[icon]/[icon]*	✓	✓
AF方式	✓	✓
AFターゲット選択	✓	✓
AE BKT	✓	✓
WB BKT	✓	✓
FL BKT	✓	✓
仕上がり	✓	✓
階調	✓	✓
画質モード	✓	✓
長秒時ノイズ低減	✓	✓
WBモード	✓	✓
WB補正	✓	✓
測光	✓	✓
ISO感度	✓	✓
高感度ノイズ低減	✓	✓
フラッシュモード	✓	✓
⚡RCモード	✓	✓
フラッシュ補正	✓	✓
AFイルミネータ	✓	✓
フォーカスリング	—	✓
レンズリセット	—	—
BULB中MF	—	—
LV中AF	✓	✓
ダイヤル機能	—	✓
ダイヤル方向	—	✓
AEL/AFLモード	—	✓
AEL/AFL MEMO	—	✓
[icon]ボタン機能	—	✓
Fnボタン機能	—	✓
マイモード設定	—	—
ボタンON保持時間	—	—
AEL/AFL⇌Fn	—	✓
レリーズ優先S	✓	✓
レリーズ優先C	✓	✓
ビープ音	—	✓

機能	マイモードの登録可否	カスタムリセットの登録可否
スリープ時間	—	✓
バックライト時間	—	✓
自動電源OFF	—	—
USB接続モード	—	—
LVブースト	✓	✓
☻顔検出	—	✓
罫線表示	—	✓
露出ステップ	✓	✓
ISOオート設定	—	✓
ISOオート有効	—	✓
AEL測光モード	—	✓
BULBリミッター	—	✓
⚡同調速度	✓	✓
⚡低速制限	✓	✓
[icon]+[icon]連動	—	✓
自動ポップアップ	—	✓
全WBモード補正	—	—
カラー設定	✓	✓
シェーディング補正	✓	✓
画質設定	—	✓
ピクセルサイズ	—	✓
ワンプッシュ消去	—	✓
RAW+JPEG消去	—	✓
ファイルネーム	—	—
実行優先設定	—	—
dpi設定	—	—
クリーニングモード	—	—
[icon][icon]/[icon][icon]	—	—
日時設定	—	—
記録カード選択	—	—
ファイルネーム編集	—	—
モニタ調整	—	—
[icon]	—	—
ビデオ出力	—	—
撮影確認	—	✓
ピクセルマッピング	—	—
バージョン	—	—

✓：登録可　—：登録不可
* 低振動モードを含む

資料

13

メニュー一覧

撮影メニュー

タブ	機能	選択肢		参照ページ
1	カードセットアップ	全コマ消去／カード初期化		P.98 P.137
	カスタムリセット設定	リセット		P.31
		リセット1	登録／クリア	
		リセット2	登録／クリア	
	仕上がり	1VIVID／2NATURAL*／3FLAT／4PORTRAIT／モノトーン／カスタム		P.75
	階調	オート／標準*／ハイキー／ローキー		P.76
	画質モード	RAW／LF／LN*／MN／SN／RAW+LF／RAW+LN／RAW+MN／RAW+SN		P.69
	WBモード	オート*	A -7～+7,G -7～+7	P.71
		5300K	A -7～+7,G -7～+7	
		7500K	A -7～+7,G -7～+7	
		6000K	A -7～+7,G -7～+7	
		3000K	A -7～+7,G -7～+7	
		4000K	A -7～+7,G -7～+7	
		4500K	A -7～+7,G -7～+7	
		6600K	A -7～+7,G -7～+7	
		WB 5500K	A -7～+7,G -7～+7	
			A -7～+7,G -7～+7	
		CWB	2000K～14000K	
	ISO感度	オート*／100～1600		P.56
	長秒時ノイズ低減	OFF／ON／オート*		P.77
	高感度ノイズ低減	OFF／弱／標準*／強		P.77
2	測光	*	AF連動ON／AF連動OFF*	P.52
		HI		
		SH		
	RCモード	OFF*／ON		P.85
	フラッシュ補正	-3.0～0.0*～+3.0		P.82
	AF方式	S-AF*／C-AF／MF／S-AF+MF／C-AF+MF		P.57
	AFターゲット選択	オート*／[･]／[･]／[･]		P.60
	低振動モード	OFF*／1秒～30秒		P.66
	AE BKT	OFF*／3F 0.3EV／3F 0.7EV／3F 1.0EV		P.55
	WB BKT	A-B	OFF*／3F 2STEP／3F 4STEP／3F 6STEP	P.74
		G-M		
	FL BKT	OFF*／3F 0.3EV／3F 0.7EV／3F 1.0EV		P.83

* 初期設定

資料

13

再生メニュー

タブ	機能	選択肢		参照ページ
▶	自動再生	□1／⊞4／⊞9／⊞16／⊞25／⊞49／⊞100		P.92
	回転再生	OFF／ON*		P.92
	編集	RAW編集		P.94
		JPEG編集	階調オート／赤目補正／トリミング／モノクロ作成／セピア作成／鮮やかさ調整／リサイズ	
	プリント予約	1コマ予約／全コマ予約		P.112
	全コマコピー	実行／中止		P.96
	全プロテクト解除	実行／中止		P.97

* 初期設定

カスタムメニュー 1

タブ		機能	選択肢		参照ページ
1	A	AF/MF			P.99
		AFイルミネータ	OFF／ON*		P.99
		フォーカスリング	↺*／↻		P.99
		レンズリセット	OFF／ON*		P.99
		BULB中MF	OFF／ON*		P.99
		LV中AF	全押しAF／ハイブリットAF／イメージャ AF*		P.40
	B	ボタン／ダイヤル			P.100
		ダイヤル機能	**P**	**Ps***／露出補正	P.100
			A	絞り*／露出補正	
			S	シャッター速度*／露出補正	
			M	シャッター速度／絞り*	
		ダイヤル方向	ダイヤル1*／ダイヤル2		P.100
		AEL／AFLモード	S-AF*	mode1*／mode2／mode3	P.100
			C-AF	mode1／mode2*／mode3／mode4	
			MF	mode1*／mode2／mode3	
		AEL／AFL MEMO	OFF*／ON		P.101
		Fnボタン機能	フェイス&バック*／プレビュー／ライブプレビュー／ワンタッチWB／[···] HOME／MF切換／RAW◀:／試し撮り撮影／マイモード撮影／OFF		P.101
		□ボタン機能	□/◊/ⓢ*／AFターゲット選択／AF方式／WBモード／測光／ISO感度		P.102
		マイモード設定	マイモード1／マイモード2		P.103
		ボタンON保持時間	3秒／5秒／8秒*／HOLD		P.103
		AEL/AFL⇄Fn	OFF*／ON		P.103
		ロック	OFF*／ON		P.103

* 初期設定

資料

13

タブ		機能	選択肢		参照ページ
1	c	レリーズ／連写			P.104
		レリーズ優先S	OFF*／ON		P.104
		レリーズ優先C	OFF／ON*		P.104
	D	表示／音／接続			P.104
		ビープ音	OFF／ON*		P.104
		スリープ時間	OFF／1分*／3分／5分／10分		P.104
		バックライト時間	8秒*／30秒／1分／HOLD		P.104
		自動電源OFF	OFF／4時間*		P.104
		USB接続モード	オート*／ストレージ／MTP／カメラコントロール／かんたん／カスタム		P.105
		LVブースト	OFF*／ON		P.105
		顔検出	OFF*／ON		P.43 P.105
		罫線表示	OFF*／方眼／黄金分割／目盛		P.106
	E	露出／測光／ISO			P.106
		露出ステップ	1/3EV*／1/2EV／1EV		P.106
		ISOオート設定	100～1600（400*）		P.106
		ISOオート有効	**P**/**A**/**S***／ALL		P.106
		AEL測光モード	オート*／／／HI／SH		P.106
		BULBリミッター	—		P.106
	F	フラッシュ			P.106
		同調速度	1/60～1/180*		P.106
		低速制限	1/30～1/180（1/60*）		P.107
		+連動	OFF*／ON		P.107
		自動ポップアップ	OFF／ON*		P.107
	G	画質／色／WB			P.107
		全WBモード補正	ALL SET	A -7～+7　G -7～+7	P.107
			ALL CLEAR	実行／中止	
		カラー設定	sRGB*／AdobeRGB		P.107
		シェーディング補正	OFF*／ON		P.108
		画質設定	1～4	L／M／S　SF／F／N／B	P.108
		ピクセルサイズ	Middle	3200 × 2400／2560 × 1920*／1600 × 1200	P.108
			Small	1280 × 960*／1024 × 768／640 × 480	
	H	記録／消去			P.108
		ワンプッシュ消去	OFF*／ON		P.108
		RAW+JPEG消去	JPEG／RAW／RAW+JPEG*		P.108
		ファイルネーム	オート*／リセット		P.109
		実行優先設定	中止優先*／実行優先		P.109
		dpi設定	オート*／カスタム		P.109
	I	その他			P.110
		クリーニングモード	—		P.135
		/	DIAL*／DIAL		P.110

* 初期設定

資料

13

カスタムメニュー 2

タブ	機能	選択肢		参照ページ
2	日時設定	—		P.15
	記録カード選択	CF*／xD		P.110
	ファイルネーム編集	Adobe RGB	OFF*／A～Z／0～9	P.110
		sRGB		
	モニタ調整	-7～+7　-7～+7		P.110
		日本語*／ENGLISH		P.110
	ビデオ出力	NTSC*／PAL		P.111
	撮影確認	OFF／AUTO／1秒～20秒（5秒*）		P.111
	ピクセルマッピング	—		P.135
	バージョン	—		P.111

* 初期設定

用語解説

50音順

圧縮率
画像などのデータの内容を一部省略してファイルサイズを小さくすることを、圧縮するといい、圧縮によって小さくなる割合を圧縮率といいます。実際の圧縮率は、画像によって変わるので、このカメラで画質として設定する圧縮率はあくまで目安とするためのものです。

一眼レフ方式（single lens reflex camera）
撮影用レンズから入ってくる光をミラーで反射させてファインダで確認するカメラです。撮影される構図とファインダで見えている構図にずれが生じません。

イメージャコントラスト方式
撮像素子上の被写体像のコントラストをもとに焦点を合わせる方式。

色温度
光源の色を表すための指標。絶対温度の単位K（ケルビン）で表します。プランクの放射則にしたがった理想的な黒体を熱していくと、温度によって、暗赤色から、オレンジ、黄色、白、青白色と、発光する色が変わっていくので、その色を絶対温度で示すことができます。ただし、蛍光灯のように実際の温度と色温度が異なることもあります。プリセットホワイトバランスのときは、色温度を使って光源の色を設定します。

画素数
画像を形成する最小単位の点。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ（ピクセルサイズ）
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。たとえば、640 × 480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640 × 480のときではモニタ全体に表示されますが、1024 × 768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

カラー空間
3つ以上の座標値で色を表すモデルのこと。色空間は、色のコード化と可視化に複数の手法を用いる場合があります。sRGB、Adobe RGBがそれにあたります。

けられ
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

撮像素子
レンズを通して入ってきた光を受けて、電気信号に変換する素子。撮像素子で受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

絞り
レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

スポット測光
ファインダの中央のごく一部を測光する測光方式。被写体の特定の部分に露出を合わせることができるため、明暗差の大きい被写体を撮影するときなどに適しています。

スリープモード（待機状態）
電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

中央重点平均測光
画面中央部の被写体を中心に広い範囲で測光する測光方法。通常の撮影に適していますが、画面の中に極端に明るい所や暗い所があると、全体の露出が、そちらに影響されることがあります。

デジタルESP測光（electro selective pattern）
画面内を49エリアに分割して個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

被写界深度
ある距離に焦点を合わせたとき、その距離にある被写体がはっきりと写るのと同時に被写体の前後でも、焦点が合っている範囲があります。このはっきりと写っている被写体の前後の奥行のことをいいます。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間を、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

アルファベット順

AE（automatic exposure）
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッター速度をカメラに任せる**P**モード、絞り値を決めてシャッター速度をカメラに任せる**A**モード、シャッター速度を決めて絞り値をカメラに任せる**S**モードの3種類のAEがあります。**M**モードでは、絞り値とシャッター速度の両方を決める必要があります。

Aモード（aperture priority mode）
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AUTOモード
プログラムAE露出（Pモード参照）に加えて、暗いときにはフラッシュが自動的にポップアップするモード。

DCF（design rule for camera file system）
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段速くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO
国際標準化機構の略称。デジタルカメラの感度はフィルム感度とともにISO規格で定められているため、感度を表す記号として「ISO100」のように表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG（joint photographic experts group）
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質モードを**[RAW]**以外に設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

Mモード（manual mode）
シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

NTSC/PAL（National Television Systems Committee/Phase Alternating Line）
テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

PictBridge
異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

Pモード（program mode）
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

RAWデータ
未加工のデータ。ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない、撮影したままのデータのことをいいます。当社独自のファイルなので、画像として表示するには専用のソフトが必要です。一般のソフトウェアで表示したり、DPOFでプリントすることはできません。拡張子は「.ORF」。

Sモード（shutter speed priority mode）
シャッター速度優先AEモード。シャッター速度を自分で決め、カメラがシャッター速度にしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TFT（thin-film transistor）
薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL（through-the-taking-lens）方式
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

TTL位相差検出方式
位相差をもとに被写体までの距離を測り、焦点を合わせる方式。

仕様

カメラの仕様

■ 型式

型式	：レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ
使用レンズ	：ズイコーデジタル・フォーサーズシステムレンズ
レンズマウント	：フォーサーズマウント
35 mmフィルムカメラ換算焦点距離：	レンズ焦点距離の約2倍

■ 撮像素子

型式	：4/3型Live MOSセンサー
カメラ部有効画素数	：約1000万画素
画面サイズ	：17.3 mm（H）× 13.0 mm（V）
アスペクト比	：1.33（4:3）

■ ファインダ

形式	：TTL一眼レフファインダ
視野率	：上下左右とも約95%（対実画面）
ファインダー倍率	：約0.92倍（$-1\ m^{-1}$、50 mmレンズ・無限遠）
アイポイント	：カバーガラスより約14 mm（$-1\ m^{-1}$時）
視度調整範囲	：-3.0～$+1.0\ m^{-1}$
光路分割	：クイックリターン式全面ハーフミラー
被写界深度確認	：**Fn** ボタンをプレビューに設定することで可能
フォーカシングスクリーン	：固定式
アイカップ	：交換式

■ ライブビュー

	：撮影用Live MOSセンサー使用
	：視野率100%

■ 液晶モニタ

型式	：2.7型TFTカラー液晶
総画素数	：約23万ドット

■ シャッター

型式	：電子制御式・フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	：1/4000～60秒、バルブ撮影

■ オートフォーカス

型式	：TTL位相差検出方式・イメージャコントラスト検出方式
測距点	：3点（左・中央・右）／11点：**[イメージャ AF]**時
AF輝度範囲	：EV0～EV19（ISO100換算、常温20 °C、TTL位相差検出方式）
測距点選択	：自動選択・任意選択
AF補助光	：内蔵フラッシュによる

■ **露出制御**

測光方式：TTL開放測光方式
（1）デジタルESP測光
（2）中央重点平均測光
（3）スポット測光（ファインダ画面の約2%）
測光範囲：EV1～20（デジタルESP測光／中央重点平均測光／スポット測光）（常温・50 mm F2使用・ISO100相当）
撮影モード：（1）**AUTO**：フルオート
（2）**P**：プログラムAE（プログラムシフト可能）
（3）**A**：絞り優先AE
（4）**S**：シャッター優先AE
（5）**M**：マニュアル
ISO感度：100～1600
露出補正：±5EV（1/3、1/2、1ステップ）

■ **ホワイトバランス**

型式：撮像素子
設定方式：オート／プリセット（8種）／カスタムWB／ワンタッチWB

■ **記録**

記録媒体：CFカード（タイプI,II準拠）
マイクロドライブ（FAT16/32対応）
xD-ピクチャーカード
記録方式：デジタル記録、JPEG（DCF準拠）、RAWデータ
対応規格：Exif 2.2、DPOF、PRINT Image Matching III、PictBridge

■ **再生**

表示形式：1コマ表示／拡大表示／インデックス表示／回転表示／スライドショー表示／ライトボックス表示／カレンダー表示
情報表示：情報表示／ヒストグラム表示

■ **ドライブ関係**

ドライブモード：1コマ撮影／連写／セルフタイマー／リモコン
連写性能：3.5コマ／秒（最大連続撮影コマ数8コマ：RAWのとき）
セルフタイマー：12秒後撮影／2秒後撮影
光リモコン：2秒後撮影／即時撮影（専用リモコンRM-1（別売））

■ **フラッシュ**

シンクロ同調：1/180秒以下で同調
調光方式：TTL-AUTO（TTLプリ発光式）／AUTO／MANUAL
外部フラッシュ接点：ホットシュー
ワイヤレスフラッシュ機能：オリンパスワイヤレスRCフラッシュシステムに対応

■ **外部コネクタ**

USB端子／VIDEO出力端子（マルチコネクタ）

■ **電源**

電池：リチウムイオン電池（BLM-1）1個

■ **大きさ・質量**

大きさ	：136 mm（幅）× 91.5 mm（高さ）× 68 mm（奥行き）（突起部を除く）
質量	：約475 g（電池含まず）

■ **動作環境**

温度	：0～40 °C（動作時）／-20～60 °C（保存時）
湿度	：30～90%（動作時）／10～90%（保存時）

電池・充電器の仕様

リチウムイオン電池BLM-1

MODEL NO.	：PS-BLM1
形式	：充電式リチウムイオン電池
公称電圧	：DC7.2 V
公称容量	：1500 mAh
充放電回数	：約500回（使用する条件により異なります。）
使用周囲温度	：0 °C～40 °C（充電） -10 °C～60 °C（動作時） -20 °C～35 °C（保存時）
大きさ	：約39 mm（幅）× 55 mm（奥行き）× 21.5 mm（高さ）
質量	：約75 g（保護キャップ含まず）

リチウムイオン充電器BCM-2

MODEL NO.	：PS-BCM2
定格入力	：AC100 V～240 V（50/60 Hz）
定格出力	：DC8.35 V、400 mA
充電時間	：約5時間（常温：BLM-1ご使用の場合）
使用周囲温度	：0 °C～40 °C（動作時）／-20 °C～60 °C（保存時）
大きさ	：約62 mm（幅）× 83 mm（奥行き）× 26 mm（高さ）
質量	：約72 g（電源コード含まず）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

ご使用の前に、この内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

- **可燃性ガス、爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所では使用しない**
  引火・爆発の原因となります。
- **フラッシュやLEDを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光させない**
  視力障害をきたすおそれがあります。
- **幼児、子供の手の届く場所に置かない**
  以下のような事故発生のおそれがあります。
  - 誤ってケーブル類やストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - 電池などの小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師に連絡し、指示を受けてください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない**
  火災や感電の原因となることがあります。
- **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない**
  連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
- **分解や改造をしない**
  感電やけがをする原因となります。
- **内部に水や異物を入れない**
  火災や感電の原因になります。万一、水に落としたり、内部に水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
- **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない**
  充電中の充電器や電池は、温度が高くなります。長時間皮膚が触れていると、低温やけどのおそれがあります。

- **専用の電池または充電器以外は使用しない**
  発熱、変形などにより、火災・感電の原因となります。またカメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用品以外の使用により生じた傷害は補償しかねますので、ご了承ください。

⚠ 注意

- **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用を中止する**
  火災や、やけどの原因となります。このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご連絡ください。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
- **濡れた手で操作しない**
  故障、感電の原因となることがあります。また充電器などの電源プラグの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。
- **カメラをストラップで提げて持ち運んでいるときは、他のものに引っかからないように注意する**
  けがや事故の原因となることがあります。
- **高温になるところへ放置しない**
  部品の劣化、火災の原因となります。
- **充電器などのコードは傷つけたり、引っ張ったり、継ぎ足したりしない**
  コンセントからの抜き差しは、必ず電源プラグを持って行ってください。以下の場合はただちに使用を中止し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
  - 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出ている。
  - 電源プラグに傷、断線、またはプラグに接触不良がある。
- **交換レンズについてのご注意**
  - レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ない
    失明や視力障害を起こすことがあります。
  - 使用しないときはレンズキャップをつけて保管する
    太陽光が入射して、火災の原因になることがあります。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

- **火の中に投下したり、加熱しない**
  発火・破裂・火災の原因となります。
- **(+)(−)端子を金属等で接続しない**
- **電池と金属製のネックレスやヘアピンを一緒に持ち運んだり、保管しない**
  ショート、発熱し、やけど・けがの原因となります。
- **直射日光のあたる場所、炎天下の車内、ストーブのそばなど高温の場所で使用・放置しない**
  液漏れ、発熱、破裂などにより、火災・やけど・けがの原因となります。
- **直接ハンダ付けしたり、変形・改造・分解をしない**
  端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散が生じ危険です。
  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。
- **電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口等に直接接続しない**
  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。
- **電池の液が目に入った場合は、失明のおそれがあるので、こすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い流したあと、直ちに医師の診断を受けてください。**

⚠ 警告

- **電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさない**
- **濡れた手で電池を触ったり持ったりしない**
- **所定の充電時間を超えても電池の充電が完了しない場合は、充電を中止する**
  火災・破裂・発火・発熱の原因となります。
- **外装にキズや破損のある電池は使用しない**
  破裂・発熱の原因となります。
- **電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしない**
  破裂・発熱の原因となります。
- **カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしない**
- **液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止する**
  販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
- **電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。**

⚠ 注意

- **カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さない**
  やけどの原因となることがあります。
- **長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておく**
  液漏れ・発熱により、火災・けが・故障の原因となることがあります。

充電器についてのご注意

⚠ 危険

- **充電器を濡らしたり、濡れた状態または濡れた手で触ったり持ったりしない**
  故障・感電の原因となります。
- **充電器を布などで覆った状態で使用しない**
  熱がこもってケースが変形したり、火災・発火・発熱の原因となります。
- **充電器を分解・改造しない**
  感電・けがの原因となります。
- **充電器は指定の電源電圧で使用する**
  指定以外の電源電圧を使用すると、火災・破壊・発煙・発熱・感電・やけどの原因となります。

⚠ 警告

- **コンセントからの抜き差しは、必ず電源プラグを持つ**
  電源プラグを持たないと、火災・感電の原因となることがあります。
  以下の場合はすぐに使用を中止し、販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
  - 電源プラグが熱い、焦げ臭い、煙が出ている。
  - 電源プラグに接触不良がある。

⚠ 注意

- **お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行う**
  電源プラグを抜かないで行うと、感電・けがの原因となることがあります。

使用上のご注意

使用条件について

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で長時間使用したり放置すると、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど、高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けたまま撮影または放置しないでください。撮像素子の退色・焼きつきを起こすことがあります。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露が発生する場合があります。ビニール袋などに入れてから室内に持ち込み、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。
- カメラを長期間使用しないと、カビがはえるなど故障の原因となることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。
- 三脚に取り付ける際は、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- カメラ本体や交換レンズの電気接点部には触れないでください。レンズを外したときは、ボディキャップを必ず取り付けてください。

電池について

- 当社製リチウムイオン充電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。
- 電池の端子は、常にきれいにしておいてください。汗や油で汚れていると、接触不良を起こす原因となります。充電や使用する前に、乾いた布でよく拭いてください。
- 持ち運び・保管の際は、+－電極端子がショートしないように必ず付属の保護キャップをしっかり付けてください。
- 充電式電池をはじめてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。
- 一般に電池は低温になるにしたがって一時的に性能が低下することがあります。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると性能が回復します。
- 撮影条件、使用環境および電池により、撮影枚数が減少することがあります。

- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意されることをおすすめします。海外では地域によって電池の入手が困難な場合があります。
- 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、(+)端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。詳しくは社団法人電池工業会のホームページ(http://www.baj.or.jp/recycle/)をご覧ください。

液晶モニタについて

本製品は背面の表示に、液晶モニタを使用しています。

- カメラを太陽などの強い光線に向けると、内部を破損するおそれがあります。
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、直ちにせっけんで洗い流してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えることがありますが、故障ではありません。記録される画像には影響ありません。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

レンズについて

- 水につけたり水をかけたりしないでください。
- 落下したり強い力を加えないでください。
- レンズの可動部で保持しないでください。
- レンズ面に直接触れないでください。
- 接点部に直接触れないでください。
- 急激な温度変化をかけないでください。
- 使用温度範囲は-10～40 °Cです。範囲内でご使用ください。

その他のご注意

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用による万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、付属のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップル社の商標または登録商標です。
xD-ピクチャーカード™は商標です。
階調自動調整機能は、Apical Limitedの特許技術を使用しています。

その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

お問い合わせいただく前に（お願い）

- より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが以下の内容をあらかじめご確認ください。
- FAXまたは郵便でお問い合わせいただく場合は、必ずご記入ください。ご記入いただいたお客様の個人情報は、本お問い合わせ対応のためだけに利用し、それ以外の目的には利用いたしません。
- 問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：
  パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくお知らせください。

●お名前（フリガナ）
●連絡先：郵便番号
●住所（自宅か会社のいずれかを明記願います）
電話番号／FAX
E-mail
●製品名（型番）：E-520
●シリアル番号（製品底面に記載されています）：
●お買い上げ日：
●問題が発生したときの症状（表示されたメッセージ、症状の再現性など）：

※ 以下は、カメラをパソコンと接続してご使用、またはソフトウェアをご使用の場合にお確かめください。

- **ご使用のパソコンの種類：**
- **パソコンメーカー・型番等**
- **メモリの容量　ハードディスクの空き容量：**
- **OS名とバージョン：**
- **（Mac OS）コントロールパネルや機能拡張の内容**
- **（Windows）コントロールパネル―システム―デバイスマネージャーの内容**
- **その他接続されている周辺機器名：**
- **問題のご使用アプリケーションソフト名とバージョン：**
- **問題のご使用弊社ソフト名とバージョン：**

索引

英数・記号

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

OLYMPUS

オリンパスイメージング株式会社
〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス

● **ホームページによる情報提供について**

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&A等の各種情報を当社ホームページで提供しております。
オリンパスホームページ **http://www.olympus.co.jp/** から「お客様サポート」のページをご参照ください。

● **製品に関するお問い合わせ先（カスタマーサポートセンター）**

フリーダイヤル

0120-084215

携帯電話・PHSからは042-642-7499

FAX　042-642-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※ カスタマーサポートセンターの営業日・営業時間、最新情報についてはオリンパスホームページにて情報提供しております。
オリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から「お客様サポート」のページをご参照ください。

● **修理に関するお問い合わせ・修理品ご送付先（修理センター）、国内サービスステーション（修理窓口）につきましては、本製品に同梱の「オリンパス代理店リスト」、またはオリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から「お客様サポート」のページをご参照ください。**

※ 記載内容は変更されることがあります。最新情報はオリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ をご確認ください。

Printed in China

VS404901